

No. **37** 部 報

# 雄 飛



北大馬術部

平成  
3 年度

# 北大馬術部讃歌

作詩 三浦清一郎  
作曲 滝沢南海雄

はるきたれば だいちひかーる  
しろがねのえんざん ゆめほうぼうたり  
たからかにいま そいななけわれ  
らしゅんめのほまーれあり  
ほまーれあり ほく だい ほく だい お  
お わがほころ われらしゅんめの  
ほまーれあり

## 北大馬術部讃歌

一、春来たれば、大地光る

銀の遠山 夢茫茫たり

高らかに 今ぞ嘶け！

われら駿馬のほまれあり

二、時来たれば 旗をかざせ

青雲の旅路に 意気軒昂たり

高らかに 今ぞ嘶け！

われら駿馬のほまれあり

三、雲流れて 旅路遙か

青春の孤杖 泥濘はばめど

凜然と 進みて行かむ

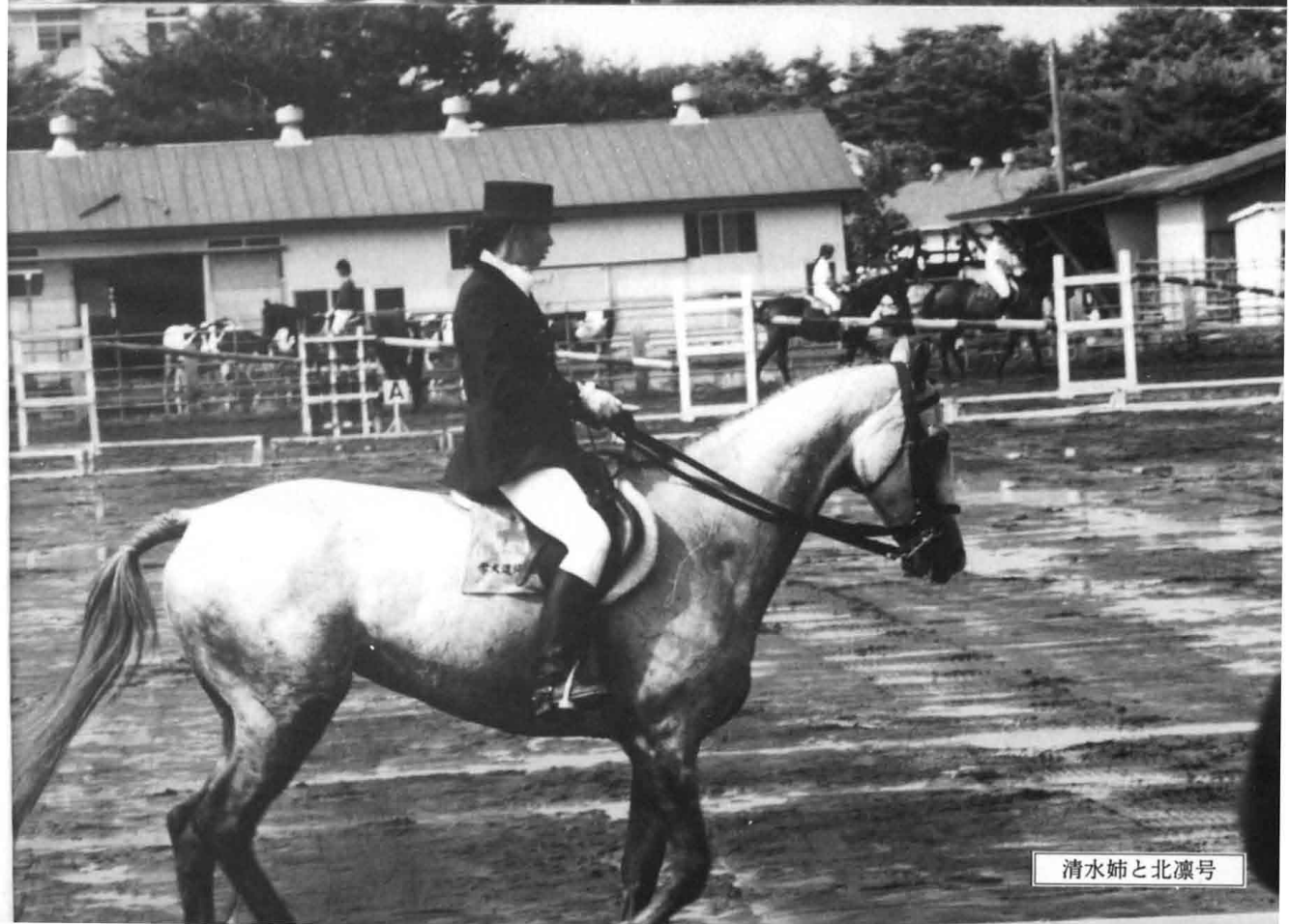
駿馬のほまれあるかぎり

北大！ 北大 おゝ我が母校

われら駿馬のほまれあり



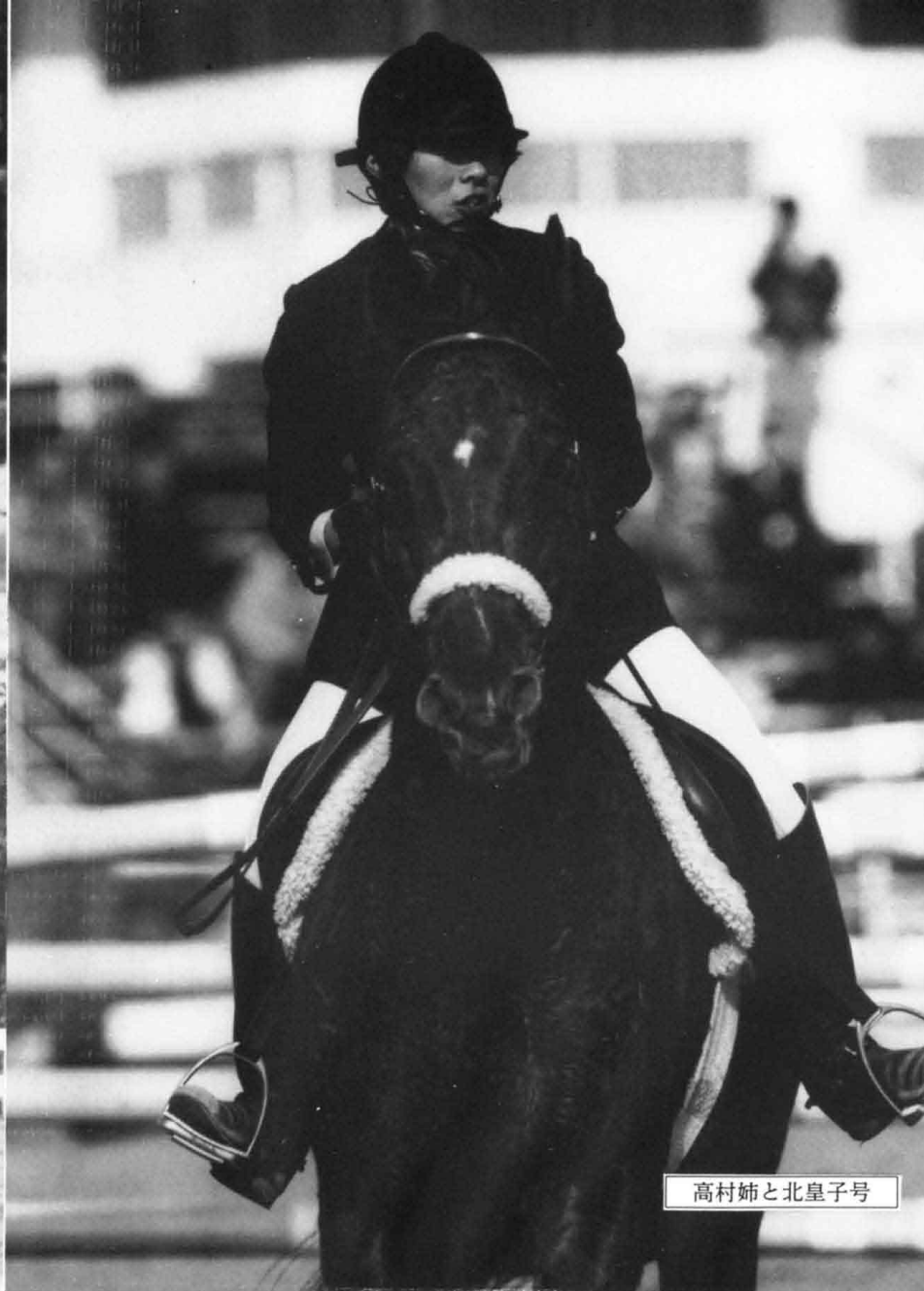
佐藤姉と北駿号



清水姉と北凜号



外山姉と明日檜号



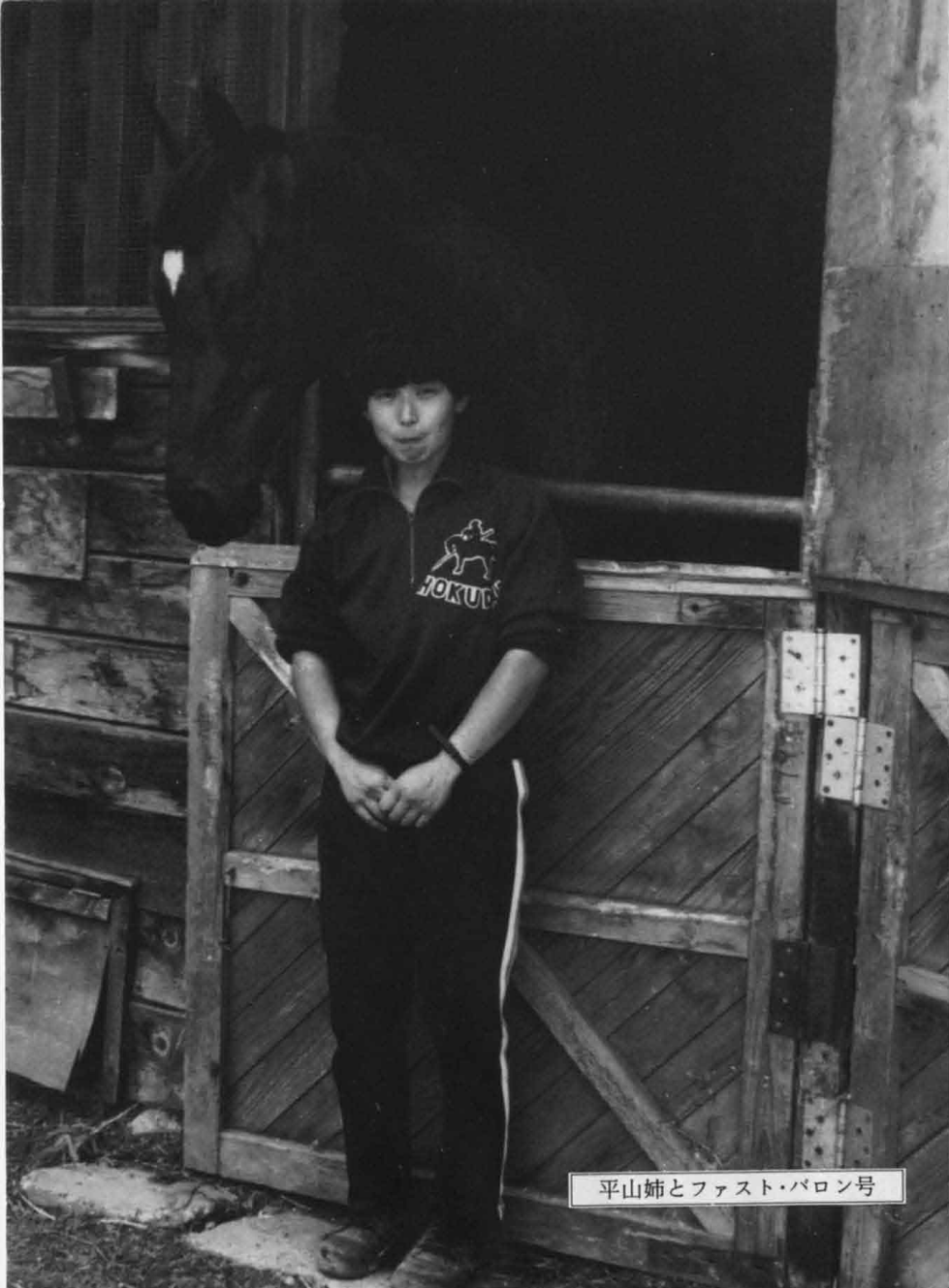
高村姉と北皇子号



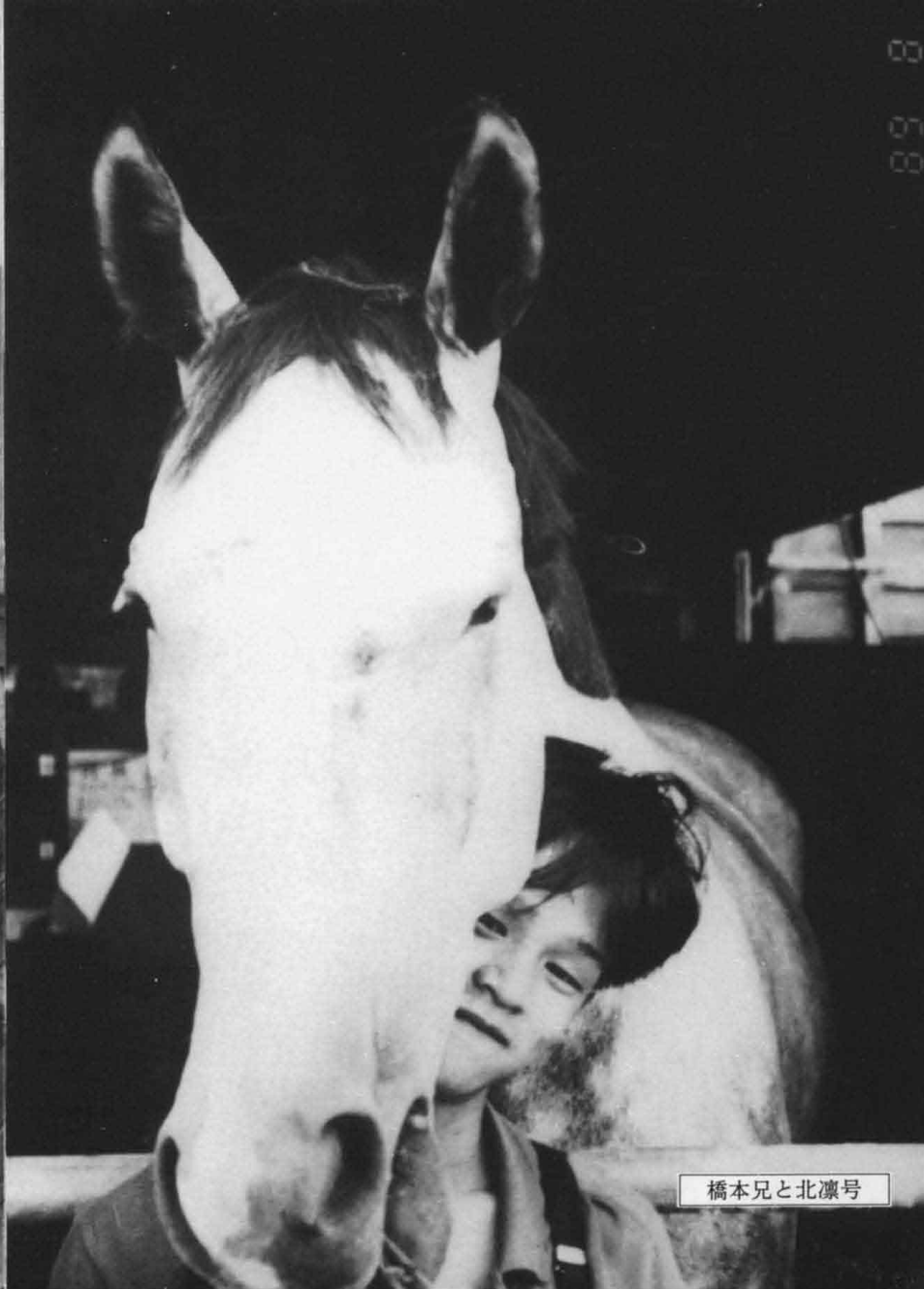
田村兄とドンホッパー号



野田兄と北熊号



平山姉とファスト・パロン号



橋本兄と北凜号



横山兄と北銀号



堀川兄と北玲号



松島兄とクラウン号



平成3年全日学



## 目 次

巻 頭 言	齋 藤 善 一	1
乗馬ブーム、観光も相乗り。	岡 田 光 夫	2
前主将から	堀 川 環 樹	3
現在のクラブ状況		7
会 計 報 告		10
行 事 報 告		11
戦 績 報 告		13
北水活動報告	田 村 亮 一	22
調教報告・馬匹紹介		
北 皇 子 号	高 村 理 香	23
北 銀 号	横 山 勉	27
北 玲 号		34
北 凜 号	清 水 礼 子	35
北 駿 号	祝 前 伸 光	39
北 瑛 号	池 田 直 弥	41
北 照 号	野 田 英 文	44
グレンエトワール号	横 幕 宏 幸	46
パシオン・M号		49
明 日 檜 号	外 山 敬 子	50
ファストバロン号	平 山 潤 子	52
北 遙 号		58
ク ラ ウ ン 号	松 島 健 滋	59
新 馬 紹 介		
アブサロム号	永 田 修	62
事 故 報 告		
ドラールボーイ号	清 水 礼 子	63
北大の馬たち		66
東京OB会だより	名越正泰・平山復志	73
25年振りの遠征試合	近 藤 喜 十 郎	76
空白の記録	宮 崎 利 昭	78
いまスターライトは……		81
卒部にあたって		86
自己紹介・他己紹介		93
O B 名 簿		106
現役部員名簿		122

## 巻 頭 言

部長 齋 藤 善 一

つい先日、巻頭言を書くのに苦心をしたように思うのですが、また原稿を求められる時期になりました。もう少し早いと年頭の挨拶ということで書き様もあるのですが、なかなか筆が進みません。前々号あたりから部報の発行が遅れ、OB、OGの方々に御心配をおかけ致しましたが、近々に前号が発行され、引続きこの37号をお届けする予定との事、これからは順調に発行されるよう期待しております。

部員の努力、岡田監督の御指導、さらに後援会の皆様、先輩諸兄弟のご協力により、部は順調に活躍しているのは喜ばしいことです。

しかし、この1年間は怪我をとまなう事故が連続したのは残念でした。最も大きな事故は黒崎君の片目失明という大怪我で、本人やご両親の心中を思うと本当に辛い事故でした。主将以下部員諸君も大変なショックであったようで、部の活動も沈滞しかねない状態でした。幸い、本人の強固な意思とご両親の御理解により、馬術部の活動に復帰してくれたことは大変嬉しいことです。部員一同の友情も助けになったと思いますが、馬又は馬術がそれ程魅力のあるものであったともいえましょう。とに角、事故は部の運命を左右することになります。『無事これ名馬』といえます。皆、それぞれに事故防止に努力していることではありますが、なお一層の注意をお願いします。

大学当局の御理解と御支援により文化財構内に直接入ることができる門が新設されましたし、悪名高い便所も間もなく改修工事が始まります。さらに高野君と外山さんの結婚式を5月にひかえています。今年は、部にとって幸先のよい年になると思っております。

前号（印刷中）では湾岸戦争に言及しました。今回も、馬術と関係がないので申し訳ないが、ソ連邦の崩壊と関連して思うところを述べたいと思います。学生時代に出征し、シベリヤ抑留後復学した年長の同期生である某君は、「これからはソ連の時代だ。アメリカなど問題にならない」と小生に話すので、そんなものかなと思っていました。一方、戦後間もなく樺太（サハリン）から引揚げて来た知人が「その内にソ連はダメになる。その時は逃げて行くから助けてほしい」とソ連の人に言われたと話してくれました。ソ連が内蔵する問題に気付いていた識者も多かったのでしょう。いずれにせよ、思ってもいなかったような状況になって、救援物資の緊急輸送が取沙汰されるようになったのは驚きです。もっとも、アルベールビルオリンピックでは、旧ソ連の選手が華麗に活躍して沢山のメダルを獲得し、テレビで見るとモスクワの人達も、敗戦直後のわが国にくらべると天国のような状態ですから、傾いたりとはいえ大国の底力は感じられます。栄枯盛衰は世の習いといいますが、戦後の惨めな状態から金持国といわれるまで復興したわが国のことと思わせて、このような大変動をみることは幸運であったと思います。何事によらず、山の次には谷があるもので、馬術部の戦績についても、馬の交替期もあって波があるのはやむをえません。黄金期にはその維持に努めることは当然ですが、下降期に入っても、あせらず、あわてず、あきらめず、頑張ることが大切でありましょう。

最後になりましたが、半沢先生には、お話をするのが少々不自由なだけで、大変お元氣になられたことをお伝え致します。

## 乗馬ブーム、観光も相乗り。

岡田 光夫

この表題は、実は北海道新聞のある記事につけられていたものである。記事の内容は道庁でサラブレッドやアラブなどの馬を活用する観光振興に本格的に取り組む方針を決めたと云うものである。

現在北海道で乗馬クラブや観光牧場などで使う乗馬は300頭足らずで馬を利用した観光は現在苫小牧のノーザンホースパーク、後志管内のニセコ東山乗馬園など民間の乗馬クラブの外に、釧路湿原自然探勝会や胆振管内などでホーストレッキングが行われている。このうち釧路湿原探勝会は釧路湿原をドサンコで二泊位の旅行して丹頂鶴と親しんだり自然と親しむことを目的に数年前から実施されている。これは湿原の奥深く車を近寄せないと云う配慮からノンビリ馬の背にゆられる旅行として計画されたもので、この企画が好評を得ている事から全道的にその輪が広がり、道庁では観光新興として取組んで行こうと云う方針を立てたものである。そして現在のドサンコに加えて中間種を輸入して計画支配によって乗りやすい、そして育てやすい乗馬用を育成することが検討されている。現在国内の乗馬は殆どが競走馬上りか、もしくは競馬に出られなかったサラブレッドが主流で、かつて帯広畜産大学が学校生産の中間種で全国に名をとどろかせたのも昔語りになってしまった今回、乗りやすい中間種が多く生産される事は我々としても双手を上げて歓迎しその実現の早い事を望むものである。それにしても利用者があっての施設であって（馬も含めて）現在進められていると云う十勝帯広で700キロに及ぶ観光據占を結ぶ乗馬道の整備の構想、恵庭市観光協会の計画の実現を心から願うものである。

所で先に出てきた「ホーストレッキング」と云う言葉であるが新聞では「馬を使った小旅行」と注釈をつけていた。一体どんな意味かと辞書を開いたら「TRACK」と云う言葉が出てきた。その訳を見た所なんと「長い苦しい旅をする」「牛車で旅行する」「牛車旅行」と書いてあった。日本のことわざに「牛を馬に乗りかへる」と云う事がある。意味は足のおそい牛よりも足の速い馬を選ぶと云う意味であるがこの訳者は正に牛を馬に乗りかえ、苦しい旅を楽しい旅におきかへたのだと思うと言葉の面白さを感じられる。ホーストレッキングと云う言葉を定着させたいものである。

それにつけても戦前我が北大でも月寒の連隊の馬で秋に一回観楓会をかねて定山溪まで遠乗りに出かけ野営をして一夜紅葉を賞でた事？が思い出される。40頭余りの馬を連れ平素お世話になっている連隊の教官を交へて朝月寒の兵営を出て馬上豊かに一路定山溪へ。何時間かかったかは忘れたが全線砂利道で時には早歩を交へ追い越す自動車もなく無事定山溪に。到着して林間に馬を繋ぎ当番を除いて温泉にゆっくり。戦時色が強くなってからは中止になってしまったが今もなつかしく思い出して居られぬ先輩も多いことと思う。戦後しばらく石狩の浜、盤溪などに一日掛りで外乗を楽しんだのもよい思い出である。交通ははげしくなり信号機がやたらに多くなり隊列を組んで歩くことが出来なくなった現在唯一の外乗の機会であった初乗りの札幌神社のお詣りも今年から中止になってしまったのはかへすがへすも残念である。もはや馬を馬運車で運び郊外に連れて行かない限りは自然の山野を走ることは出来なくなってしまった。開拓当時の駅通はトレッキングの走りであり、西部劇の駅馬車の中継所とともにトレッキング網を作る是非参考としてはしいものである。

## 前主将から

堀川 環 樹

現在の北大における馬匹の能力面から見て、全日学団体出場権を獲得することはそう難しいことではないはずである。それにもかかわらず、団体権利を逃してしまうのは何故か。その原因のひとつとして、乗り手が育たない（育てられない）ことがあげられると思う。北大では、下級生の指導は各馬のチーフに任せられており、クラブ全体としての体系的な指導要項は確立されておらず、チーフによって指導する練習方針が異なり、下級生にも混乱を来すといったことがままある状態だった。馬の調教については、ミーティング等で繰り返し話し合いが行われるが、人の育成は軽視されがちなのが最近の北大の傾向である。「初心者」で入部した人間を2年目の秋にはチーフとして一頭の馬を任せるようにするためには、何が必要なのか。

その点を常に念頭においた上で、下級生の練習メニューを長期的に組み立てるべきであろう。そこで、我々の代では3、4年目で意見を出し合い、OBの水野さんに指導していただきながら、「“北大式”初心者騎乗指導要項」を作成した。以下に全文を掲載することで「前主将から」にかえさせていただきたい。

付け足すべき内容や改良すべき点は毎年出てくると思われるが、この指導要項を確立して行って欲しい。

最後になりましたが、本要項を作成するにあたり、水野さんには、本当にお世話になりました。この場を借りて深くお礼申し上げます。どうも有難うございました。

### “北大式” 初心者騎乗指導要項

全くの初心者から馬術を始めその一年半後には調教者としてクラブの運営に関わっていかなければならないのが現状である。一年半後要求されることをふまえて、それまでに何をしなければならないのか、どのように下級生を指導していくか、その練習方法、形態をいくつかの期間と目標を設定し北大式指導要項として以下にまとめる。

< 2年目の秋の時点までに要求されるレベル >

目標

- ①第2課目馬場馬術で40%を取れること。
- ②L級レベルを満点でかえることができる。

①についてはあくまでも目安であり第2課目程度の課目をこなせることと、その正確な扶助を出すこ

とが重要であるとして具体的な%をあげた。②については満点といっても内容を伴った走行が前提である。①についての目安は、北球、②についての目安は北皇子のような扶助に対して従順で人間に集中力のある馬でというのが、一応の条件としておく。

この時点で要求されることとして準備運動は自分でできなくとも、どうしたらよいかを把握しておくことが必要である。安定した騎座も同時に求められる。

<4～5月>

目標：馬上で慣れる。

手段：外乗・調馬策

方法：常歩でのバランス

調馬索での速歩・駆足の反撞に慣れる。このとき騎乗者が体を堅くせずにリラックスできるように最低限の注意に絞る。

このときのチェックポイントは次のとおり。

1. 体を起こす。
2. 力を抜く。(つかまらずに乗れている)
3. 鐙に立った速歩(短い鐙で体重を支えられる。)

(脚の位置)

4. 軽速歩でリズムを取る。

具体的な進め方としてまず正反撞でリズムを覚えてから鐙に立った速歩を行い、その後軽速歩を指導していく。調馬索で駆足の反動を知る。(3point)

\*馬上に慣れたら外乗で常歩の誘導も取り入れていく。また、この期間に馬上体操を徹底的に行い股関節を柔らかくしバランスに敏感になる。新歓合宿後に基本姿勢を教えていく。

5月末までに反動がわかって軽速歩が取れるようにする。

<6～8月>

目標：馬を動かすことに慣れる。

手段・方法：部班を取り入れていく(少数の馬で)

常歩、軽速歩での誘導。

先頭を2年目にする。

チェックポイント

1. 基本姿勢
2. 脚の使い方
3. 馬を前に出す

\*距離に関しては最低限で。

停止について理論は教えるが引っ張る癖を付けさせない。

(日高合宿)

目標：馬の速いスピードに慣れる。

駆足の反撞に慣れる。(2 point 中心で3 point も反撞を理解するために少し取り入れる)

スピードに慣れたら堅くなるような癖が付かない範囲内で正反撞もやる。(北大の馬に負担をかけたいため)

<9月~12月>

9月

ジムカーナ。駆足の誘導。速歩での誘導を確実に。

\*旗門通過に求めること

障害のアプローチと同じことを要求。



勉強会等を通して前もってきっちり経路取りを教えこんでおく。

10月~

障害部班も取り入れていく。障害に慣れる。

(冬合宿)

目標：簡単な馬場の経路回り

- 正反撞
- 3 point の駆足
- 図形 (point) きちんと。
- 基本姿勢  
前進氣勢  
隅角通過  
横運動、発進などの扶助の説明

部班での課題

- ①前に出す。
- ②距離をとる。
- ③図形の整正。
- ④3 point の駆足 (調馬索でも指導)
- ⑤正反撞 (調馬索でも指導)

<1月~4月>

目標：下半身の安定

- 鏡にのる。

手段・方法：部班（障害、馬場運動）

- 障害 下半身を安定させ、前に出せるようにする。  
アプローチの復習。  
短い鐙に乗れるようになる。  
障害姿勢、随伴の練習  
（キャバレッティー、不整地等）
- 馬場運動  
第2課目の課目をこなす。  
伸縮、内方姿勢、横運動等。

< 5月～8月 >

目標：拳の安定（上下半身の分離）

- 脚のメリハリ。
- 無理のない誘導。
- 前進氣勢の維持。
- 正確な扶助の理解。

内容：各個運動による。各自で自己の問題点を把握し、積極的に、騎乗する馬の状態の把握とその対処。

# 太田装蹄所

☎782-6084

札幌市東区伏古10条1丁目15番15号

## 現在のクラブ状況

—主将より—

永田 修

主将として

僕が馬術部に入部してまだ3年と過ぎていないし、当然、馬に乗り始めて、馬に接し始めて2年半だし、えらそうに言えないかもしれないけど、今、この部は変曲点にあるのではないかと感じています。過去馬術部の長い歴史の流れの中で、これまでもTURNING POINT は数々あったと思うし、これからこの部が続いていけばあるだろううちの1つだと思います。変曲点というぐらいだから何かが変わる訳ですが、具体的に今回の変化は何だろうと考えると部活動というものに対する個人の意識の変化ではないかと思っています。

部員数が30名であること。そのうち半分が女子部員であること、学校と部活の両立問題、最近の成績、などはその現れのような気がします。部員が30名いたって、女子部員が多かったって、成績が団体権利は取れないが、全日学には毎年数頭出場する程度でも、それが悪い訳でも何でもない様にも思えるけど、やはり「これでいいのか」という気持ちは拭い取れない。先輩方の中には、「北大はこれくらいのレベルだ」と思っていらっしゃる方もおられるかもしれませんが、これまでの先輩方の功績を見ても決して北大は全国的なレベルで戦っていけないことはないと思っています。ただ今のままではそうでないというだけで、北大は全国的なレベルで戦える大学であり、もし今そうでないならば、そうしなければならぬ。その為には主将である私を含めてもっと考え直す必要があるのではないかと思います。来年すぐにはうまくいかどうか分かりませんが、これからの北大の発展、復活の第一歩を私達が切り開いていかなければならないし、そして、それをやり遂げるからこそが、僕に与えられた主将としての一年だと思っています。

—副将より—

池田 直 弥

2年目の八木弟と二人で副将をやることになった。

ここ数年来、部員数は増加していて、今年も冬を迎える今の時期に三十名の部員が活動している。その部員間の意思の疎通を今まで以上に図り、部の目標である全日学での団体優勝を目指すまとまりのある部にするため、主将をサポートしていきたい。部員の一人一人が役割意識をもって行動するようになり、疑問があれば活発に議論できるようなクラブ、そのなかで主将のリーダーシップを影から支えられれば、副将として最高ではないだろうか。今、1番必要なのは、強い『チーム』にしていこうという意識ではないか。個人以上に団体を意識して行動する努力が必要であろう。部員全員の協力、並びにOB各位のご指導のほどお願いします。



現役部員に当てる－

- －勝つために何をすべきか。
- －勝つために努力しているか。
- －現状に満足してはいないか。
- －他人を当てにしてはいないか。

勝つということは与えられるものではない。

そのことに気づくことから始めてほしい。

－馬匹より－

飯 田 雅 代

9月から清水姉の後を次いで馬匹となりました。獣医学部に所属していますが何分移行して若干1年、まだまだ知識も経験もお粗末なものです。さいわい獣医学部卒の野中兄がスーブの冷めない距離にいらっしゃいますので、困ったときの神だのみならぬ野中兄だのみということで毎度お世話になっています。今後もよろしくお願いします。

さて、先代の部報を読んでみますと、どの先輩方も馬匹のできることは予防策を考えて実行することだと書いていらっしゃいます。病気やけがをした馬を治療することは、獣医師やOBの方々の力を借りないと私達だけではどうにもなりません。今までの病気やけがの様々な例を思い起こしても、我々の予防策がしっかりしていれば防ぐことができただろうと思われるものが少なくありません。過去の病気やけがの例を一つ一つ思い出して何故病気になったのか、何故けがをしたのか原因を追及して今シーズン我々でできる予防策を全て実行する必要があります。

馬匹になってみてもう一度現在の馬のいる環境を見直すと誰がみても思うことなのでしょうが、とにかく汚い・・・不潔であるということが一番の問題のように思われます。先シーズンでは感染症が例年になく多く、大切な試合に出場できないことがありました。予算の関係上、年間に使える稲藁や麦乾の量も決まっており、なかなか馬房を清潔に保つことは難しいことです。学生生活の中でクラブにかかる時間は限られており、当番なども時間に追われながらやるためにどうしても丁寧さにかけているのを見逃しているのが現状です。しかし一方で、我々の方が時間に追われるあまり、相手が馬＝生き物であることを忘れてしまっているのではないだろうかと思うのです。機械的に決められた手入れをする、馬房の掃除をする、というのでは、馬の立場に立った物の見方はできません。どうしたら馬は気持ちよく過ごせるだろうか、どうしたら馬はけがをしないですむだろうかと言った部員一人一人の馬に対する愛情はとても大切なものだと思います。どんなに忙しいときでもこのことを忘れないよう働きかけるのが私の役割ではないかと思っています。1年間一生懸命がんばります。よろしくお願いします。

ここで、最後に先シーズンけがや病気をした馬を簡単に報告します。

- \*北駿 12月右前肢蹄に細菌感染
- \*北皇子 5月右腰の筋肉を痛め跛行 6月まで並歩のみ
- \*北瑛 7月疝痛
- \*北銀 8月北日スティープル走行中左前肢交突
- \*北靨 9月鞍傷
- \*北皇子 10月右腰の筋肉を痛め跛行

**SOMÈS**  
HORSE RIDING EQUIPMENT MANUFACTURE

皮革総合メーカー

競馬、乗馬用品、バック、サイフ、小物、ベルト

**ソメスサドル 株式会社**

- 本 社 / 〒073-03 北海道歌志内市神威264  
☎ (012542)代2152 F A X (012542) 6716
- 東京営業所 / 〒111 東京都台東区浅草橋5-12-6明治堂ビル  
☎ (03)代366-2131 F A X (03) 363-4652

会計報告 平成3年1月～12月

収入

		計
部費・滞納金		448,089
ア	朝日新聞社	630,700
ル	モモセ	381,960
バ	NHP	715,000
イ	JRA開催	2,100,884
ト	JRA乗馬厩	166,000
その他		935,675
学馬連		1,437,718
企画		379,172
その他		935,675
合計		8,428,142

支出

		計
飼	料	1,506,691
装	蹄	1,633,000
薬	品	303,817
作	業	112,937
馬	具	383,827
文	化	34,401
電	話	149,139
遠	征	1,344,700
ガ	ソリン	331,114
高	速	197,150
車	両	630,355
登	録	419,500
事	務	199,013
雑	費	122,972
その他		1,128,351
合計		8,496,967

# 平成3年度 行事報告

## ○4月

3月31日～4月1日 第30回七大戦 (於 九州大学)

17日～21日 新歓馬術講習会

■21日 講習会打ち上げコンパ (於 きよた)

## ○5月

4日 第19回半澤杯記念馬術大会 (於 北大)

7日～19日 新歓合宿

17日 寮歌祭

■25日 三大戦レセプション (於 きよた)

26日 三大戦 (於 北大)

## ○6月

■1日 新歓コンパ (於 きよた)

5日～9日 教養祭

8日～9日 第26回北海道自馬馬術大会 (於 岩見沢RC)

23日 記録会 (於 モモセRC)

■24日 北日選手権壮行会 (於 きよた)

## ○7月

13日～14日 第16回北海道地区馬術大会 (於 N. H. P)

■20日 新歓お返しコンパ

26日 記録会 (於 モモセRC)

## ○8月

8日～12日 北日本学生馬術大会 (於 北里大学)

16日～22日 日高合宿

■27日 金田兄来札コンパ (於 きよた)

## ○9月

■5日 小林姉来札コンパ (於 きよた)

7日 障害選手権 (於 N. H. P)

■16日 役員交代コンパ

21日～22日 第27回東日本馬術大会 (於 N. H. P)

■28日 北水追コン (倉本姉)・東日本打ち上げ (於 きよた)

30日 倉本姉離札式

## ○10月

4日～5日 井上喜久子杯 (於 静内)

- 10日 駅伝大会
- 13日 山下杯 (於 酪農大)
- 27日 記録会 (於 モモセRC)

○ 1 1 月

- 3日 OB戦 (於 北大)・懇親会
- 9日 北海道馬場馬術選手権大会 (於 N. H. P)
- 23日~24日 F. M. C

○ 1 2 月

- 9日~16日 全日本学生馬術大会 (於 馬事公苑)
- 22日 忘年会
- 25日~29日 冬合宿 (前半)

○ 1 月

- 2日 初乗り
- 2日~8日 冬合宿 (後半)
- 10日 仲村兄来札コンパ (於 きよた)
- 18日 馬術講習会
- 北日幹事会コンパ (於 きよた)
- 27日 講習会打ち上げコンパ (於 きよた)

○ 2 月

- 29日 追コン

○ 3 月

- 7日 北日幹事会コンパ (於 きよた)
- 21日 堀川兄離札コンパ (於 きよた)
- 23日 野田兄離札コンパ・東北大歓迎会 (於 きよた)
- 26日 野田兄離札式
- 27日 加藤姉離札式
- 28日 堀川兄離札式
- 29日 東北戦
- 4月2日 朝日バイト打ち上げコンパ (於 きよた)

# 平成3年度 戦績報告

## ★対東北大学定期戦 (於 東北大 3月31日)

使用馬匹 …杜舞姫、麗華、詩絵里、滝右衛門、杜貴

選手 北大…荒瀬、岡部、長谷川、船越、八木

東北大…太田、熊谷、庄子、林、山田

戦 績 …優勝 東北大学 準優勝 北大

## ★七帝戦 (於 九州大学 4月6日～7日)

出場選手 …堀川、横山、祝前

戦 績 …1位 京大、 2位 北大、 3位 名大

## ★第19回太秦杯・半澤杯・河田杯・小池杯・斎藤杯記念馬術大会 (於 北大 5月4日)

### 〈複合馬術競技・太秦杯〉

			馬場減点	障害減点	総減点
1位	佐伯 ヒロバビー	北星RC	-112	0	-112
2位	緒方 ヒロバビー	北星RC	-117	0	-117
3位	佐伯 チアガール	北星RC	-121.33	0	-121.33
5位	横山 北 銀	北大(4)	-128.33	0	-128.33
10位	外山 明日 檜	北大(4)	-143	0	-143
	高村 北 皇子	北大(4)		0	open
	池田 北 瑛	北大(3)	-133		open

### 〈馬場馬術競技第2課目・斎藤杯〉 (一般の部)

			得点
1位	田伏 サクラブリンス	札幌乗馬会	421
2位	清水 北 凜	北大(4)	403
3位	八巻 ボギードール	札幌競馬場	401
10位	飯田 北 皇子	北大(3)	367
	池田 北 瑛	北大(3)	324
	祝前 北 駿	北大(3)	339
	白石 北 瑛	北大(2)	310
	西脇 北 瑛	北大(2)	309

### (少年の部)

1位	塚尾 村仔ファン	札幌競馬場	424
----	----------	-------	-----

2位	坂本 ヒロバピー	北星RC	408
3位	佐伯 ヒロバピー	北星RC	382

〈中障害飛越競技・半澤杯〉			減点	Time
1位	ワインスタート リアルター	早田牧場RC	0	56"7
2位	佐伯 マドンナ	北星RC	0	59"1
3位	大谷 駿 狼	酪農大学	0	61"8

〈小障害飛越競技・河田杯〉			減点	Time
1位	新団田 ガルヒーロー	札幌競馬場	0	54"5
2位	斎藤 フォクビー	ホーホホスミーン	0	52"9
3位	根本 駿 狼	酪農大学	0	52"6

〈新人新馬・小池杯〉			減点	Time
1位	佐崎 フォクビー	ホーホホスミーン	0	54"7
2位	佐土谷 北 駿	北大	0	53"2
2位	緒方 ジェニファー	北星RC	0	53"2

★北日本学生馬術選手権大会 (於 帯畜大 5月19日)

出場選手…清水(4)、池田(3)

戦績…2位清水、5位池田

★三大学定期戦 (於 北大 5月26日)

出場選手…佐土谷、塚脇、長谷川

戦績…1位 北大、2位 畜大、3位 酪農大学

★北海道自馬馬術大会 (於 岩見沢RC 6月8日～9日)

〈ジュニア団体馬場馬術競技〉

1位	田伏 サクラプリンス	札幌乗馬会
2位	鍋谷 トソガマク	浦河RC
3位	池田 北 瑛	北大(3)

〈M級C障害飛越競技〉			減点	Time
	外山 明日 檜	北大(4)	0	
	長屋 バシオン・M	北大同好会	0	

堀川北	玲	北	大(4)	失権
横山北	銀	北	大(4)	失権
祝前北	駿	北	大(3)	失権

〈L級障害飛越競技〉 (婦人) 減点 Time

	飯田北	凜	北	大(3)	失権
	(一般)				
2位	高村北	皇子	北	大(4)	
	八木明日	檜	北	大(2)	
	横幕	クワイトワ	北	大(3)	
	野田北	黒	北	大(4)	
	荒瀬北	駿	北	大(2)	失権
	白石北	銀	北	大(2)	失権

〈新馬障害飛越競技〉 減点 Time

	永田北	黒	北	大(3)	
	清水北	凜	北	大(4)	open

★全日本学生馬術選手権 (於 馬事公苑 6月28日~30日)

出場選手…清水 (4) 池田 (3)

戦績…5位 清水

★第16回北海道地区馬術大会 (於 N. H. P 7月13日~14日)

〈M級B競技〉				減点	Time
1位	白井	ウエスト	日高KF	0	46"35
2位	マカド	ワイルド	N・H・P	-4	41"09
3位	畠山	ウエスト	日高KF	-4	48"20
	外山	明日	北	大	35E

〈馬場馬術第2課目 学生班〉				得点		
1位	八田	駿	天鳳	酪農大学	406	
2位	横山	北	銀	北	大(4)	387
3位	荒瀬	北	瑛	北	大(2)	382
4位	祝前	北	駿	北	大(3)	379
8位	堀川	北	玲	北	大(4)	350



9位	野田北 薫	北 大(4)	349
12位	徳本 クラウン	北 水(3)	334
14位	外山 明日 檜	北 大(4)	329
17位	田村 クラウン	北 水(3)	305
18位	横 幕 グレンエトリ	北 大(3)	302

〈L級競技〉

			減点	Time
1位	ヤン・カドレ グランドキニオン	N・H・P	0	57"03
2位	村 上 フォーブル	北星RC	0	54"00
3位	ヤン・カドレ ハードパンチャー	N・H・P	0	53"03
5位	祝 前 北 駿	北 大(3)	0	56"04
8位	堀 川 北 玲	北 大(4)	4	57"00
12位	横 山 北 銀	北 大(4)	12	54"37
	野田北 薫	北 大(4)		
	高 村 北 皇 子	北 大(4)		

〈ジュニア団体馬場馬術競技〉

			得点
1位	吉 田 トーマス	N・H・P	715
2位	田 伏 ヴァリアンス	札幌楽馬会	635
3位	村 上 エスター	北星RC	626
4位	松 島 クラウン	北 水	477
5位	池 田 北 瑛	北 大(3)	464
6位	徳 本 クラウン	北 水(3)	452

★第27回北日本学生馬術大会 (於 北里大学 8月8日～12日)

〈障害飛越競技 (二回走行)〉

			減点	Jump off
1位	高 村 北 皇 子	北 大(4)	0	10"6
2位	伊 野 シンボルドム	東北大学	0	19"4
3位	大 谷 駿 狼	酪農大学	0	34"3
11位	堀 川 北 玲	北 大(4)	-11.25	
	横 山 北 銀	北 大(4)		
	祝 前 北 駿	北 大(3)		
	外 山 明 日 檜	北 大(4)		
	横 幕 グレンエトリ	北 大(3)		

〈学生賞典馬場馬術競技〉				得点
1位	塩谷	カミエール	東北大学	612.5
2位	兼光	フィリポ	岩手大学	602
3位	藤本	柏斗王	帯畜大学	553
6位	清水	北凜	北大(4)	492
8位	池田	北瑛	北大(3)	488
11位	松島	クラウン	北水(4)	445

〈総合馬術競技〉				減点
1位	横山	北銀	北大(4)	149.3
2位	梶原	柏星	帯畜大学	157.4
3位	堀川	北玲	北大(4)	160.6
10位	高村	北皇子	北大(4)	217.4
15位	横幕	グロイトワール	北大(3)	324.7
	祝前	北駿	北大(3)	失権
	外山	明日檜	北大(4)	失権
	野田	北黒	北大(4)	失権

★第38回北海道体育大会(於 帯畜大 8月17～18日)

〈L級競技〉				減点	Time
1位	緒方	マドンナ	北星RC	-4	48'5
2位	緒方	カス外ロー	北星RC	-4	54'3
3位	佐崎	ドラゴン	ホフホーシュー	-4	58'4
	清水	北凜	北大(4)	失権	

★第5回北海道障害馬術大会(於 N. H. P 9月7～8日)

〈M級C競技〉				減点	Jump off
1位	祝前	北駿	北大(3)	-7	36'00
2位	村上	マドンナ	北星RC	-7	失権
3位	村上	チアガール	北星RC	-8	
5位	横山	北銀	北大(4)	-12	

〈M級B競技〉				減点	Jump off
1位	ツノカドレ	ロッキードリフト	N. H. P	0	0 30'8
2位	吉田	フェニックス	N. H. P	0	-6 39'6

3位	マコト アサヒ	N. H. P	0	-8	36*5
4位	高村北皇子	北大(4)	0	-32	56*2
	堀川北玲	北大(4)			失権

〈L級競技〉

			減点	Jump off	
1位	伊藤アカデミー	N. H. P	0	0	33*37
2位	ニコルバロ ハートナー	N. H. P	0	-4	28*84
3位	飯田明日檜	北大(3)	0	-4	38*92
12位	横幕グロエトール	北大(3)	-7		
17位	池田明日檜	北大(3)	-9.5		
19位	堀川パシオン・M	北大(4)	-11		
22位	永田グロエトール	北大(3)	-12		

★ノーザンホースカップ (於 N. H. P 9月15日)

〈M級C競技〉

			減点	Jump off	
1位	白井メイシャ	日高KF	0	0	44*41
2位	マコト アサヒ	N. H. P	0	-4	42*18
3位	布施チアガール	北星RC	0	-8	42*98
4位	堀川北玲	北大(4)	-3		
14位	祝前北駿	北大(3)	-8		

★第27回東日本馬術大会 (於 N. H. P 9月20~22日)

〈内国産馬標準中障害〉

			減点	Jump off	
1位	松下カドバユ	N. H. P	0	0	33*49
2位	下島相模桜	学習院大学	0	0	38*23
3位	芹沢列ヒト	北総RC	0	-4	32*73
36位	堀川北玲	北大(4)	-28.75		

★山下杯(於 酪農大学 10月13日)

〈ジムカーナ競技〉

			Time
1位	森田明日檜	北大(1)	33*25
2位	松田ロザリ	酪農大学	37*12

3位	福士 駿 鷹	酪農大学	38'61
	武田 北 銀	北 大(1)	失権

〈L級競技〉			減点	Time
1位	北川 フラッグマン	酪農大学	0	64'09
2位	長谷川 明日 檜	北 大(2)	-3.75	74'85
3位	植田 駿 泰斗	酪農大学	-3.75	74'89
5位	八木 北 銀	北 大(2)	-6	84'00
6位	堀川 パシオン・M	北 大(4)	-13	95'71
	池田 グリイワール	北 大(3)	失権	
	清水 北 凜	北 大(4)	失権	
	永田 グリイワール	北 大(3)	失権	

〈M級C競技〉			減点	Time
1位	八田 駿 天鳳	酪農大学	0	70'45
2位	大村 駿 狼	酪農大学	0	71'54
3位	土方 駿 楓	酪農大学	0	74'07
4位	高村 北 皇子	北 大(4)	0	65'42

★井上喜久子杯 (於 日高育成牧場静内種馬場 10月5～6日)

〈ジムカーナ競技〉

1位	藤村 ニホンローマン	北 大(1)
5位	野田 ニホンローマン	北 大(1)
6位	黒崎 ニホンローマン	北 大(1)
12位	松原	北 大(1)

★OB戦 (於 北大馬場 11月3日)

〈L級競技〉			減点	Time
対東京OB会団体戦 優勝…東京OB会				
1位	松井 北 隼	OB	0	32'37
2位	長内 明日 檜	同好会	0	34'39
3位	堀川 明日 檜	OB	0	39'81
4位	長谷川 明日 檜	3	0	42'12
5位	玉沢 グリイワール	OB	0	42'27
6位	市川 北 駿	OB	0	42'32

7位	池田	グリエワール	3	-3	54'75
8位	八木	北駿	OB	-3	1'00'84
9位	祝前	北黒	3	-4	33'19
10位	近藤	北凜	OB	-9	1'32'27
11位	飯田	北凜	3	-17	1'18'77

〈ジムカーナ競技〉

				減点	Time
1位	斎藤	北黒	OB	0	40'87
2位	横田	北黒	1	0	44'02
3位	小滝	北凜	1	0	44'84
4位	牧原	グリエワール	1	0	47'13
5位	武森	グリエワール	同好会	0	53'27
6位	野中	アブサロム	OB	-3	50'43
7位	深部	北銀	1	-3	51'74
8位	岡田	アブサロム	OB	-3	1'00'39
9位	西村	北銀	1	-3	1'10'13
	城座	北瑛	1	失権	
	野間	北瑛	1	失権	

★北海道馬場馬術選手権 (於 N. H. P 10月20日)

〈馬場馬術競技第2課目〉

			得点
1位	広瀬	カワゴキ	N. H. P 392
2位	祝前	北駿	北大(3) 358
3位	横山	北銀	北大(4) 357
5位	荒瀬	北瑛	北大(2) 334
7位	飯田	北凜	北大(3) 316
8位	池田	グリエワール	北大(3) 302
11位	長谷川	明日檜	北大(2) 289
12位	堀川	北玲	北大(4) 285

★全日本学生馬術大会(於 馬事公苑 12月10~16日)

〈二回走行〉

			一走目	2走目	計Time	
1位	松浦	カワゴキ	日獣大学	0	0	209'23
2位	今川	日桜	中央大学	0	0	181'20
3位	小島	ル・メキシコ	同志社大学	-3	0	214'28

高村北皇子 北大(4) -12 3反E

〈総合：個人〉

			調教	耐久	余力	総減点
1位	荒井 功由	明治大学	-116	0	-0.75	-116.75
2位	白藤 慶 薫	慶應大学	-117	0	0	-117
3位	布施 明 撞	明治大学	-117.6	-2.4	-5	-120.6
30位	堀川 北 玲	北大(4)	-190	-99.6	-3.75	-293.35
	横山 北 銀	北大(4)	-171.3	失権		

[社保・国保・老人医療保険・生活保護指定医]<sup>705</sup>

# 庄内義齒専門歯科医院

院長 庄内 貞夫

診療時間 午前9:30～午後5:00迄  
水・土曜 午後休診 日・祭日休診

札幌市白石区本通2丁目北8-37

TEL **861-2504**

# 北水活動報告

田村 亮一

時間を追っての行事報告、戦績は他の欄に譲ることとして、一年のたまかな活動の軌跡を述べたいと思います。

先ずこの一年で最も特筆すべき事柄は、10月に上本兄が北水馬術部を再建して7年間、お世話になってきた東山乗馬クラブを出、函館郊外の牧場馬房を借り自馬を持ち、自分たちの考え、責任の下で調教をし、試合に出場しようとしたことであります。

自馬を持つということは我々の念願でもあり、御好意により、馬に乗せていただくというには限界があり、大学のクラブである以上、試合、特に北日を目指したいと考えた訳です。部員数、全員が学部生であるという時間的問題、金銭面、将来性と不安材料は山程ありましたが、本学からやってきた部員ばかりが5人、しかも同期の人間が3人もいる状況というのは過去になく、「俺達にできなければ、この先ずっと不可能だ。」位の意気込みで、多分に見切り発進的なきらいはあるものの、勢いとパワーで強行しました。

この独立も順風満帆であった訳ではなく、当初は馬もないような状態で、クリアしていかなければならないハードルが次々と生じ、その度のない知恵を出し合い、各方面の方々のお世話になりながら何とか乗り越えてきたといったところです。

幸い、東山乗馬クラブの御好意によりクラウンという馬を我々に貸していただけることとなり、部員5人に部馬1頭という厳しい状況にも負けず、各人がそれぞれの役割を果たすべく試行錯誤をしてまいりました。

結果は、貸与馬戦では、北日選手権（根井前主将により、出場可能になったもの）では、不甲斐ないことに全員予選落ち。自馬戦では、道自馬、公認、そして念願であった北日学に出場し、「戦績」の欄の「クラウン」という馬のところを見てもらえば分かるとおりです。十分に満足できる結果であるとはいいかねますが、昨年まで少障を飛んでいた馬を無謀としか言いようのない変身をさせ、いざ次代へ！てなとこだったのですが・・・。

月日は流れ、今、後輩達は東山乗馬クラブのお世話になって乗っているようです。厩舎問題は北水が函館にある限り常につきまとうもので、ここから目をそらさずバイタリティーを持って頑張ってください。

最後になりましたが、この一年、実に様々な方にお世話になり、又、ご迷惑をおかけいたしました。OBの長尾さん、上本さん、国枝さんには独立に際し、北川姉、根井兄は危なっかしい我々を見守って下さいました。そして、本学のOB、現役の皆様、教えあげればきりがありません。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

## 北皇子号



騙 サラ 栗毛  
昭和51年5月12日生  
新冠郡新冠町産  
父 アストラルグリーン  
母 ハーバーガール  
競争名 ハーバーギャラン

### 北皇子号調教報告

高村 理香

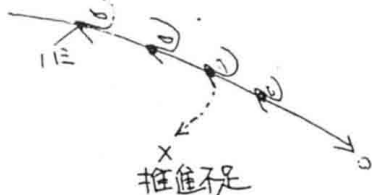
12月初めころから正式に北皇子のチーフにきました。北皇子は北大馬術部の看板馬として10年来活躍し続けた馬である。当然のことながら、クラブの目標である“団体を組む”ためには北皇子のこまは必須だった。また、女が、エース馬の馬配につくことは稀でそのためにもなにがなんでも与えられた使命をはたさなければという思いがあった。

北皇子は右前の腱帯の軟腫という爆弾を抱えているがこれはほぼ慢性化してオーバーワークにならなければそれほど騎乗には支障はなかった。肢よりも腰になかされた。5月のなかごろ、半沢杯での結果が今一つでこれからの課題が山積みであるときに、調馬索運動中に興奮して暴れてしまい右腰をひねっていたためして長期馬休を余儀無くされてしまった。道自馬、公認にも馬体的に無理で見送らざるを得ず、北日で一発勝負の危険な賭けになった。しかしながら、これがもう一度騎乗に関して考え直すきっかけとなった。水野さんには北皇子の治療のほか騎乗に関してリハビリ運動から試合に向けての実践的なトレーニング方法などのアプローチをしていただいた。ここで教えていただいたことがそれ以降の基本方針となった。かきつらねてみる。

#### 1、準備運動前

##### (1) 頭頸の伸展

常歩で、外方はしっかりコンタクトをたもち内方脚を使う。内方のハミを馬の口にあてて頭頸の伸展を促す。内方のハミの接触は絶えず保ち鼻づらがななめ前下方にいく感じ。





## (2) 停止、発進

頭頸の進展は、背、腰を張り、体を起こし停止する。これはバランスバックでは馬体を起こしていく第一歩である。停止する際にハミに抵抗を感じるばあいは騎手が正しい扶助を出していないと考えるべきである。騎手の姿勢で気を付けるべきこととして

①背、腰を張ること。

②脇は閉じ肘を付けて、上体のバックと共に手綱を控えることにもなる。

③アブミに乗って前のほうで踏ん張る感じ。

があげられる。このとき、鞍に尻をつけてはならない。

静かに発進する。

常歩でこの運動を両手前ずついれ、輪乗り上で2～3回程度の停止をいれるとよい。



(3) 速歩についても同様に頭頸の進展及びバランスバックをくりかえす。頭頸を進展させたい時は、内方拳を柔軟にし、ハミをあててちょっとはずしてそれに馬が自分でとっついていくのを待つ。(魚釣りの要領で) とっついていかない時は再度手綱を張り内方脚で外方のハミに出していき推進し、内方のハミでさそう。輪乗りを両手前した後馬場を大きく使って頭頸を進展させながら大きく歩かせる。

(4) 次に放棄手綱で駆足をする。楽に馬体を大きく使えるように2 point sheet で乗る。同様にバランスバックで停止がスムーズにできればよい。

リハビリ中は専らこれに終始した。頭頸を進展させることによって固くなった腰の筋肉はしだいにほぐれ後躯がよく動くようになった。よくなってからもこの運動をベースに考え、あとは日毎に、なるべく運動量の差がでないように運動内容を組み立てるように心掛けた。全くの馬休日には絶対に作らないことによって肢の状態もとてもよく保つことができた。全日前の10月にも腰が悪くなり、跛行してしまった。4日ほど完全馬休で手入れの時以外馬房から一步も出さなかった時、四肢はまるでフレグモーネのようにばんばんに腫れてしまった。いかに曳き運動が重要であるのか身にしみて感じた。

## 2、準備運動；手綱を短く持つ→voltage をあげて

(1) 常歩でのバランスバックの確認

(2) 速歩での伸縮

つめる…すなわち、常歩におちるかおちないくらいまでゆっくりとした運歩にする。腰の張りが大切。引っ張らないこと。

のばす…もとの速歩にもどす。

輪乗り上で伸縮を行ったのちに輪乗りの開閉を取り入れていく。

### (3) 駆歩での伸縮

速歩と同様につめるときは速歩におちるかおちないかくらいまでつめる。伸縮の中に輪乗りの開閉をとりいれていく。

### (4) 駆歩での推進

腰が前下方にゆれる感じ。

体がだんだん起こせるようになってくる。矢印の方向に推進する。徐々に手綱を短くもっていき馬体をおこしていく。内方脚で馬を抱きぶれないようにする。後駆の踏み込みにより馬体を起こしていく。



この駆歩の感覚を掴んだときは陶醉してしまった。それ以来、無理なく2ポイントシートで体を起こせるようになり飛越後の立て直しがスムーズにできるようになった。3ポイントでどっかりと腰を付けてしまうと馬の動きにもついて行きにくくかえってついていけないときは邪魔になってしまう。すべては腰の張りである。

北皇子は、他の馬がいなくなって1人きりになると異常にさみしがり興奮した。とても気が小さいところがある。それくせ勝ち気なところがあって他の馬と隣り合わせになるとちょっかいを出さずにいられない。北日のときも仮厩でちょうど裏側にぎんがみえるようにわりあてた。ちなみとなりは鞍置き場で馬が見えない。ずっと後ろを向いたまま飼いもたべようとせず元気がない。銀がどこかにいこうものなら興奮してしようもなかった。あいにくの天気で大雨が降り仮厩全体をすっぽりビニールシートで覆ってしまうともうギャランの興奮はおさまらず二回走行を目前に控え精神的にも体力的にも消耗させたくなかったので馬房をかえるなどした。このように気弱な部分があるので試合でどうなるのか不安だった。

しかしながら、試合になって装鞍時、神妙なかおつきでとても落ち着いていた。まるで、精神集中しているかのようだった。準備運動も今までになかったほど人間の扶助に集中してくるのを感じた。準備運動はなるべく短時間でおさえるため朝に体をほぐす運動をおこなったのでその時間を省きすぐにvoltageをあげる運動に移れた。前進氣勢がものすごく非常にはざれよく飛越し、飛越は10回以内にとどめ順番を待った。

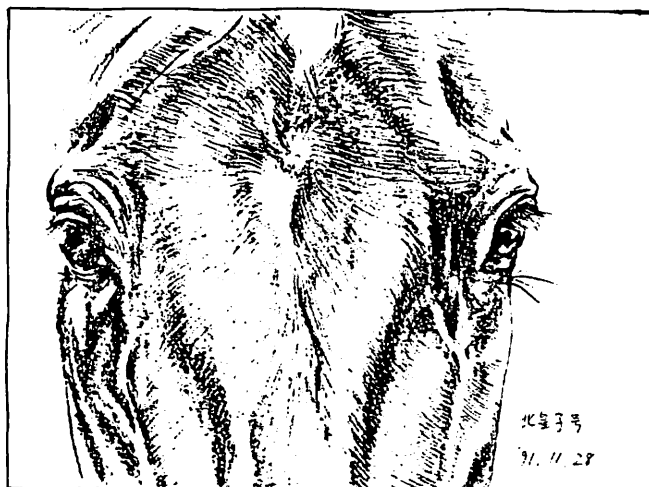
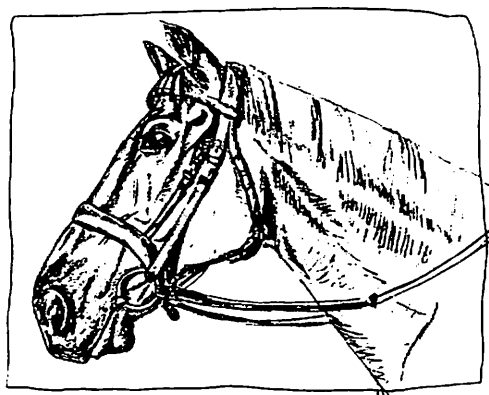
準備運動がうまくいくと必ず試合もよい結果だった。すべては、準備運動にあるとおもう。そして北皇子に関して言えば、準備運動では絶対に無理やり馬体を起こそうとして自分から仕掛けていってはならない。自分から仕掛けてゆずり切れないとかえってハミにかかりやすくなり1度掛かってしまえばもう一度1からやり直しになってしまう。騎手がすべきことはすべては腰を張って常に自分のからだをおこしていることと準備運動で馬体をよくほぐすことだと思う。拳は常に柔らかく脚で推進していれば、馬が理解して自然に馬体がおきてくる。

全日学での2回走行の3反抗というのは人間のバランスをくずしてしまったのが原因で、馬に問題は

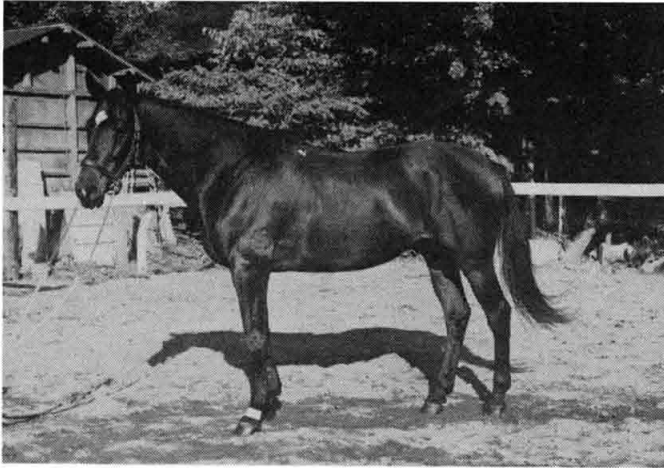
ない。北皇子は、騎手さえしっかりのってれば、全国優勝できる馬である。17才という高齢であるが、北皇子の技とすばらしい性格をもってすれば、必ず人間の情熱に答えてくれる。まだまだ元気。よく自分を見つめつつ、おもいきり乗ってほしい。あとは、永田に任せた!!

最後に、岡田監督、水野さん、長屋さんをはじめとする数多くの方々に技術面、馬体管理面のみならず人間の精神面においてもいろいろ励まされ助けられました。心から御礼申し上げます。北皇子での練習ができないぶんオーフルで乗せていただいたり、他の馬で練習、試合にださせてもらったり本当にたくさんの方々にお世話になりました。

そして、ギャラン、本当に本当にありがとう。



## 北 銀 号



騙 サラ 鹿毛  
昭和55年4月28日生  
上川郡新得町産  
父 ヤマブキオー  
母 ソーゴータカラ  
競走名 トカチヤマブキオー

### 🐾 北銀号調教報告

### 横山 勉

まず初めに、皆さんにお詫びしなければ、偉そうに調教報告などを書くことは到底できそうにありません。お世話になったOBの方々、他の4年生、そして、我が冴な僕の言うことを聞き、金銭面から総てに渡って援助、応援してくれた下級生の皆さんに感謝し、そして全日学で、自分でも可成りの手応えを感じながら、自分一人のミスによって皆さんの期待に応えることのできなかったことをお詫び申し上げます。そして一番謝りたいのは、一番かわいそうなことをしたと思っているのは、曾に対してです。終わった直後は、「ああ、これで終わったのか。」と自分でも不思議なくらいにさっぱりとしていて、気を遣ってくれる下級生にかえって気を遣ったほどでしたが、今になって思い起こすとさすがに悔しさを感じます。「もし、あそこで間違っていなかったら……」などと考えてしまったら最後、大乾濠を余裕でクリアする姿、表彰されている姿、意気揚々と札幌に帰る姿…等と空想を思い巡らしているうちに我に帰って消沈することも度々ありました。それだけ、自他共に認めるほど調子は良かったのでした。OBの水野さんいわく、「終わってみて初めて分かるんですよ。」僕も、この言葉の通りでした。「終わり良ければ、総て良し。」という言葉も、裏返せば、「終わり悪しかば、総て悪し。」ということになります。思い返すと必ず辛い思いをするのですが、義務感に駆られつつ僣越ながら失敗談を語らせて頂きます。

乗り始めたのは9月中旬だったが、その頃は人も馬も、とても全日学を狙えるような状態ではなかつ

たのは、誰の目にも明らかだったと思う。人は、夏まで明日桧(曾)に騎乗してきて試合経験こそ積んでいたが、技術的には全くの未熟者だった。特に拳から肘、肩にかけての上半身の固さは並々ならぬものがあり、“衝受け”と言うものを感じることができていなかった。自分が書いた「曾明日桧号調教報告」を読み返すと、「若気の至り」とでも言おうか、あの様な恥ずかしいことをよくも堂々と述べ立てたものだ、全く屁の突っ張りだと感心してしまう。曾の方は夏から不調が続き、コンビネーションの途中で拒止することもあり、障害に対してコンプレックスを抱いて自信をなくしている感じがした。僕にとっては、御世辞にも魅力を感じさせる馬ではなくなっていた。実際に騎乗した感じでは、とにかく重い、硬い、障害に向かっても前進意欲が全然なくポッコンポッコン跨ぐ感じで、1年後に少なからぬ不安を感じた。しかし考えてみれば、僕にとっては北銀と言えば全日学で馬事公苑の芝馬場を北皇子、北玲とともにウィニングランをした北大のエース馬であり、誰が乗っても向けさえすれば自分から飛んでいく馬であるという印象であったはずだった。そして、2年目の頃は一番乗りたいと思っていた馬だった。こんなはずではない、こんな馬ではない、こんな障害など簡単に飛べる馬なのだと信じて、それだけを頼りにしていた。そして、まずは大きく伸び伸びとした動きをさせて、気持ちよく障害を飛べるようにすることを心がけた。実際の所、自分にはそれ以外の技量はなかったし、考えることもできなかった。

1年間が成功であったと判断するならば、失敗ではなかったと判断するならば、それは90%以上は、水野さんと前田さんのお世話になった処に依るものである。水野さんと前田さんの助言がなかったら、決して状況は好転しなかっただろう。単なる1年間の要約では、曾と自分の場合にしか当てはまらないことが多くなってしまっているので、今回はこの2人の先輩から教わったことを中心に、馬を持ったなら何をすべきかという一般論を目指そうと思う。そして活用されているのかどうか分からないが、僕たちが昨年作った北大式1年生の指導法に続いて、北大式調教法、北大式の馬を持った後の乗り方、考え方の基本のようなものを作ってはどうかと思う。今の北大が弱いのは、馬を与えられた後に手本とする物、人、考え方がなく、僕のように知識の無いものは意味の無い日々を過ごしてしまうことに最も大きな原因があると思う。そして北大や畜大に比べて、今の酪農が強く勢いがあるのは、その手本とするものや人を持っているからだと思う。北大式の乗り方、考え方があれば、突然馬を与えられた2年生なども迷うことなく練習に専念でき、人馬共に速く上達できるのではないだろうか。とにかく4年間は短いだから、変に意地を張ったり迷っている暇はないのである。

3月の初め、東京から水野さんがお越しになった際に、ほんの10分くらいだったと思うが見て頂く機会があった。そのとき、9月からやってきたこと、考えていたこと、曾に対して要求していたことが、遊びに毛が生えたようなあまいものであったという気がした。それまで、障害練習は別として、フラットワークだけで曾に汗を掻かせたことがあまりなかったのだが、そのときはたった10数分輪乗りをしたただけだったのに、終わった後、体中から湯気が立ち昇るくらいに曾が汗を掻いていた。フラットワークというものは、このくらいしっかりやらなければ意味のないものなのだとすることが雰囲気だけでも理解できたのは、この1年の中での最初の転機だったように思う。では具体的に、何を教えて頂いたのかといえば、本当に基本的なことでその頃の技術レベルの自分にとってそれほど難しいことでもなかった。唯、自分が何をしたら良いのかを知らなかったということが一番の問題点なのだった。その頃はま

だ、拳を護る、いざというときに体に引き寄せることなく拳を護ってやれる、ということができない状態だった。そしてそれ以前に、手綱に頼らないでも常にバランスを保ち誘導できる、しっかりとした騎座もできていなかった。3年目の冬でもこの段階をクリアーしている人はあまりいないと思う。だからこそ参考になると思うのだが、まず障害鑑にし、脚を後ろにも前にも流れないようにしっかりと馬体に密着させ、絶対に座ってしまわないように、しかし鞍から尻が離れないように、いわゆる2.5 point の騎座を作り、体は常にやや前傾して背筋をしっかり張っておく。手綱は思い切り短く持ち、外方拳はがっちり握って絶対に護らないようにする。内方拳は外方と同じ所を持って、軽速歩に合わせて、立ち上がる（立ち上がるという表現よりは腰を浮かすと言った方がいいかも知れない）ときに肘を伸ばして拳を前に出し、座るときに肘を曲げて元の位置に戻す。この段階では衝受けなど気にせず、ただ機械的に肘を動かしていればいい。理屈で考えても仕方が無い、馬が動いているときには、内方拳は静定するのでなくて動いているものなのだとことを体で覚える。馬の口に対して相対的に拳の位置を静定させるように心がけるのはまだ後でいい。この動きができるようになったら輪乗りの開閉を行う。閉じるとき、上半身は常に北大ジャージのワッペンが中心に立った人に見えるくらいに内側を向き、内方脚は馬体に食い込ませるように密着させ、外方脚は踵が上がってしまわないようにしっかりと踏み、しっかりと後ろへひいておく。拳だけでなく、両脚と上半身全体を使って曲げる。肩は馬の肩と平行に、腰は馬の腰と平行にである。これだけ一気に書くと難しいことのように感じるかも知れないが、一連の動きであるから体で覚えてしまえば難しいことはない。ただ、初めてやったときには、背筋が吊るほど痛くなるに違いない。痛くならなければ、それは背筋を使っていない証拠である。自由に半径1メートル位までの輪乗りの開閉が無理なくできればこの段階はクリアーであろう。その頃には馬は汗びっしょりになっているはずである。ただ、馬にとってはとても辛い運動であるから、一度に長時間は続けずに、適当に気分転換をさせてあげるような配慮が必要だと思う。馬に対しても、下級生に対しても、上級生に対しても、相手の気持ちを考たうえて、自分の主張をしなければ、相互理解は得られない。う～ん、読み返してみると自分の言いたいことを思うように表現できていないのが悔しいところであるが、僕の文学的才能の範中ではこれが限界なので諦めることにする。誤解が生まれないように折るばかりである。

もう一つの転機となったのが、3月中旬から5月頃まで、就職をされた前田さんに代わって北遥(♫)の調教をしたことだった。これぞ言葉ばかりの調教で、実際の処は調教はほとんど進まずに体力を辛うじて維持していたに過ぎず、シーズンに入って♫の方がうまく行かなくなってしまう、元の様に社会人である前田さんに無理を言うてお願いすることになってしまった。♫にとっても、♫にとっても、僕にとってもこの方が良かったのであるが、当時の状況からいってそうするより他はないことも十分理解していたのだが、やはり悔しかった。大した技術も調教に関する知識も持たない者にとってのシーズン中の二頭乗りはとても難しいことを感じた。しかし、♫に乗っている間に前田さんに見て頂いたことで、驚くほど僕は乗り方が変わった。自分でもはっきりと感じるくらいに変わったのだから相当大きな転機だったのである。十分にではないのだが、以前とは比べものにならないほど柔らかく乗れるようになったことと、障害飛越の随伴が可成りできるようになったことである。とにかく軽速歩をしているときに肘を屈伸させて拳を馬の口の方へ送るように注意された。不幸にも僕に教えられたことのある下級生なら一度は経験したことがあると思うが、僕もこの頃は自分では肘と拳を動かしているつもりでも、一回

一回口に当たっていると注意された。しかし不思議なことに、これでも足りないのかと思うほどに大きく拳を送っても手綱がぶらぶらになるわけではなく、今までは軽速歩のときにそれだけ馬の口の邪魔をしていたのだと痛感した。そうやって何度も何度も注意されるうちに、まず曾の動きが柔らかくなったことに気が付いた。そして、このころ初めて、銜を受けている状態の感覚とはこういうものであろうかという、何とも言葉には表現できない、敢えて出せば、“クックッ”とでも言おうか、そのような感触を得ることができた。曾に対しては何もしてあげることができなかったが、それ以後曾の方では、フラットワークがめっぽう良い感じになっていった。シーズンを通して、障害では何度も失権をして危なっかしい限りだったが、馬場では非常に安定した成績を上げることができた。曾は体が固いし歩様も悪いので、決して馬場が得意な馬だという印象がなかったのが正直な処自分でも驚いた。馬の動きが固いのは、騎手が固いからに他ならないのである。そういう訳で、春に水野さんと前田さんに見て頂いたことが、この1年の最大の山場であったと思っている。

余談になるが、姿勢について注意されると、やっているじゃないかとか、自分ではそうしているつもりなのに……と思うことは誰にでもよくあることだと思うが、このような場合は十中八九見ている人の言うことは正しいものである。乗り方や考え方についての注意は、それを鵜呑みせず、いろいろな人の意見を聞いて、その様々な意見を参考にして自分の行くべきことを自分で決めることが大切だと思うが、姿勢の注意については、それを柔軟に、冷静に、素直に受け止められるかどうかは運命の分かれ道であると思う。現役の皆さんの中にも、心当たりのある人はかなりいるんじゃないだろうか。

シーズン中の予定外の悪戦苦闘は皆さんのご覧の通りである。自馬大M級C失権、公認大会はやむなくL級に出場し、東日本を狙うこともできず折角3万円以上かけて取得したB級騎乗者資格も全く意味無し、北日学を前にモモセで行った記録会でも失権、北日学二回走行一走目で失権、総合耐久審査終了時点で一位と、やっと義務を果たせると一安心した矢先の繋の怪我による跛行（このときは一度は内心諦めたが、福島大の方に大変お世話になり出場することができた）、そしてやっとのことで全日学の権利は得たが最後の最後に大失敗。こうして書き連ねてみると、この一年失敗以外の何物でもないではないか、同級生として、下級生として、安心して見ていられたことがあっただろうか。忍とも勘とも、謝り様の無い次第で御座る。先に申した通り、この場でシーズンの要約をすることは意味を持たない気がするので割愛させて頂くが、僕の二の舞をしないために参考にしたいときは、いつでも聞いてもらって構わない。曾に関係のあることでも無いことでも、惜しまず話したいと思う。ただ、これだけは分かってもらいたいのは、シーズンを通して、曾は調子が悪かった訳ではない、いや、むしろ曾としては非常に調子が良かったのである。悪かったのは僕の技量と、特に知識が不足していたことなのである。だからこそ申し訳が立たないのである。

構成もままならず話があちこち飛んでしまって申し訳ないが本文に戻る。春に水野さんと前田さんに見て頂いて、僕が以前に比べて柔らかく乗れるようになったことにより、フラットワークに於てとても柔らかい運動ができるようになった。障害でも止まるようなことはほとんどなく、飛び方も跨ぐような

飛び方から、体を使って飛ばせることができるようになった。しかし練習では調子が良いのに、試合では準備運動ではうまくいっていても、一度も止まったりしていなくても、なぜか結果は出なかった。なぜ駄目なのかわからなかった。実質的に、ここに試合成績の不安定さの最大の原因があったと考えてもいいのだが、この点について非常に参考になる意見を聞くことができたのは仲村さんからである。失礼のないように表現させて頂くと（このようなことを書いてもきつと不敵な笑みを浮かべつつ分かって下さると思うから書くのであるが、仲村さん、御免なさい）、同じ馬に乗っていらっしやった先輩であることもあるが、仲村さんは長屋さんや前田さんとはやや異なるタイプのライダーであったからこそ、僕と曾の場合に当てはまったのかもしれない。

試合で経路を回る場合、その馬の能力を十分に引き出してやれるかどうかが重要である。中障害以上になると、曾の様に能力と言うよりは性格の素晴らしさを長所にしている馬の場合は特にそれが不可欠になってくる。唐突であるが曾は素晴らしい馬である。素直、正直、真面目、一生懸命……、潔癖性が余りなくちょっと（ちょっと所ではないという噂もちらほら聞くが愛敬としよう）ネボスケなのは珠に傷であるが、僕もこんな男になりたいものである。それはどうでもいいのだが、その素直さ故に一度恐怖感を植え付けてしまうと手が付けられなくなる。覚えている人もいると思うが、全日学の直前にコンビネーションの練習をしていて、ちょっとした間歩のミスで飛びきれなくて止まってしまったことがあったが、この一度の失敗ですっかり自信を無くしてしまい、その日はそれ以上どうしても飛ばすことはできなかった。また、馬場の周りの、いつもは何もない場所に障害が置いてあったりすると、何でもないので物見をして、そうするとその日はもういくらよく見せても駄目ということもよくある。そのようなときは、あくまでも曾の場合であると思うが、無理をせずに妥協するべきである。翌日になると、何にも覚えていなくて昨日できなかったことも平気のできるのがまた長所なのである。試合でも、準備運動で気分的にボルテージが高くなっていないと、走行中に少し大きな障害があったり、奇抜な障害があったり、難しそうなコンビネーションがあったりすると、弱気になって止まることになる。そこでこの準備運動が経路走行以上に重要なのである。準備運動を適当に体を解しておけばいいなどと軽く考えてはいけない。曾の場合、体を解すことも必要だが、それ以上に大切なのが、経路でどんな障害が出てきても恐るるに足らない、飛べるんだという気持ちにまで、精神的ボルテージを高めておくことである。そのためには、経路にあるくらいの大さの障害も飛んでおく必要もあるだろう。ただし当然のことだが、経路中にある最も高い障害よりも高い障害を準備馬場で飛んではいけない。こんな所で言う必要はないのだが忘れがちである。また誤解の無いようにしてほしいのは、疲れるほどの量をしろと言っているのではないことと、これは曾の場合であるということである。自信があるときの曾は頼もしい限りである。人はしっかり乗っかって誘導してやるだけでいい。体を起こして突っ込まないようにしてやれば、踏切を考えなくても勝手に飛んで行ってくれる。MCくらいそれで飛べるのである。それくらいの能力のある馬なのである。これが分かったのが北日学の直前だった。

9月に入ってから全日学の出発まではとても長く感じた。やはり、全日学は11月が良いようである。他の4年生がいなくなったことで緊張感がなくなり、自分一人で勝手にやっている感じがした。実際、3年生には申し訳なかったが勝手なことをしていた。2年生よりも、1年生を教えているときが一番やりがいがあった。しまいにはそれすらもつまらなくなり一人で勝手に乗っていた。はっきり言って暗い



雰囲気、全日学というものが、4年間このためだけに苦労してきたことだということも忘れていた。こんな風であったから、この期間には目立った進歩もなく東京へ向かった。今の実力でやるしかないと思っていた。

ところが、麻布大学でお世話になっていた数日間と馬事公苑に入厩してからの数日の間に、自分でも信じられないくらいに大きな変化があった。またもや、忙しい仕事の合間に見て下さった水野さんのおかげだった。これもほんのちょっとしたきっかけだった。衝受けの感覚が分かったはずだったがそれがまだまだで、柔らかく持つことで馬の口とのコンタクトは感じられるようになっていたが、実際の衝受けにはなっていなかった。馬が衝を受けて運動しているかどうかの判断ができなかったのである。それが、停止、後退を繰り返して、後退の時に頭を上げて口を突っ張ることのないように（頭を上げたら衝を受けた状態で運動できていないということ）、停止したままの状態でも頭を下げたままズリズリと後退させることで分かるようになった。そのつもりではいなくても、停止した状態から後退に移る時に、どうしても引っ張ってしまっていたのだった。常歩でこの衝を受けた状態を作ってしまうと、あとは速歩でも駆歩でも、停止、発進、後退が思い通りにできるようになった。それまでにない感覚だった。楽しみになった。

仲村さんが応援に来て下さった。仕事の関係で二回走行の間だけだったが練習は見て頂いた。乗り終わった後に仲村さんに「どんな感じ？」と聞かれたが、調子いいですみたいなことを言うと、また「そんなことないんじゃない。あまいんじゃない」というようなことを言われる気がして、下手に「どう見えましたか？」と聞き返したら、「あの状態からここまで良くできるとは思っていなかった。これなら安心して見ていられる。入賞できるんじゃない？」というようなお答えだった。思いもよらぬ返答に言葉が出なかった。初めて褒められたと思った。試合を直前にして自信を持たせる為とはいえ、同じ馬に乗っていた先輩の、それも今までそのような褒められ方をしたことの無かった先輩の言葉は、実際効果抜群だった。水野さんの言葉も含めてとても嬉しかった。自信が出てきた。すっかりやる気になってしまった。おまけに「単純だなあ。」と思った。

いよいよ調教審査の準備運動を始めた。言われたことを思い出しながら、常歩で、停止、後退、発進を繰り返し、速歩にし、駆歩にし……。外方はしっかり持って、内方は突っ張って来たらグッと握って脚を使って、下げたら譲って、譲って……。曾も僕もとても落ち着いていた。とてもいい感じだった。思い通りだった。手綱を通して曾と話をしているようだった。水野さんに「外方拳を、もうちょっと上げてみ」と言われて、ほんの少し上げてみると、馬体が起きてきたのが分かった。水野さんがにやけているのが見えた。下についている下級生に「これがいい状態なんや」とも言っているのかなと思った。みんなに見せたかった。今までで最高の出来だった。「こりゃ、行ける。」と思った。やる気満々で地下馬道へと入って行った。

振興会馬場での準備運動を見ていた下級生、僕は残念ながら誰がいたのか覚えていないのだが、曾のあの状態、あの動きを覚えていてほしい。あれが僕に出来得る、最初で最後の、最高の状態だった。4年間の総決算だった。あの状態が本番でも出せていたら、きっとそれ以降の結果は変わっ……。あっと、また想像してしまった。

これから先は書くのも辛いし、書いても全く意味の無いことである。でも、試合が終わってから現役

の皆さんには謝ってもいないし、なぜこのような結果になってしまったのか説明もしていない。「そんなこと、聞きたかねえや。」と思う人は読まなくて構わない。

本番は散々だった。今にも蹄跡を越えてしまうのではないかと思った。水野さんにあれほど丁寧に教えて頂きながら、言う通りに近くできたのは、入場、停止、敬礼、発進だけだった。曾の気合いが入りすぎた。

しかし、まだ望みが消えたわけではなかった。下見は6回はしただろうか。完璧、なはずだった。曾は雰囲気を感じて興奮していた。力が漲っていた。障害に向かっても全く躊躇はなかった。1番、2番、3番、走路を走って……、かかっていたが体を起こせばペースをコントロールできた。4番、林を抜けて5番、回転して10番バウンス、11番スキージャンプ、問題無し、本当に飛んでいる感じだった。水濺も恐くない、こりゃ満点だ、走路に出た。

……目の前に見えたのは7番障害だった……。訳が分からなかった。通過すると大乾濤だった……。しまった。曾は、僕が動揺しているのを感じて止まった。何とか別ルートを通ってみんなが応援してくれている場所に向かった。失権と分かっている、みんなの前では止まれなかった。「ガッチリイー。」何重もの悲鳴のような声援が聞こえた。返事はできなかった。「みんな、ごめん、申し訳ない。」叫びたくても声にはならなかった。一度通過したバウンスにもう一度向かう。曾は飛んでくれる。目が潤んできた。「ごめん、銀。もう止まってくれ。」そう言いながらも、自分では何をしたいのか分からなかった。スキージャンプの前で曾は止まった。もはや全く戦意を失った騎手に戸惑っていた。

最後の部分は、何度削ろうと思ったか分かりません。言い訳に取られても仕方がありません。でも、特にこれまで何も分からずに自分の時間を犠牲にして付いてきてくれた1年生には説明する義務があると思ったから削りませんでした。僕は幸せなことに、3年の9月から4年の12月まで、16カ月間もの長い間曾とつきあうことができました。その間、同級生の理解、下級生の協力は勿論のこと、岡田監督、水野さん、長屋さん、前田さん、仲村さんには特にお世話になり本当に有難うございました。そして、期待に応えるべく頑張ったつもりですがこのような結果に終わってしまい、申し訳ありませんでした。現役の、特にこれから曾に乗る可能性のある1、2年生、曾は全日学に出る能力もあるし、大乾濤だって飛べるし、耐久を満点で帰る能力もあるし、総合で入賞できる力もあると断言します。あの全日学の閉会式でウィングランもしたことだってあるのです。信じれば絶対に応えてくれる馬です。この際、ネボスケと、ゲップと、蹄洗台でのおしっこは大目に見てやって下さい。そして、その能力を引き出してあげられるかどうかは、乗る人、世話をする下級生、それ以外の部員全員次第です。僕は学生馬術は個人戦でも団体競技だと思っています。部員の一致団結がなければ好結果は絶対に得られません。試合の成績が良いだけでは好結果とはいえません。今年は僕一人の失敗でこのような結果に終わってしまいましたが、是非とも曾を再び全日学の表彰台に立たせ、ウィングランをさせてやって下さい。その時には曾は一生懸命に走ってくれるに違いありません。ほら、曾が芝馬場を、化粧馬着を着て、リボンをつけて、一生懸命走っている姿が目につかぶでしょう。僕もそのための援助は惜しみません。頑張ってください。よろしくお願いします。

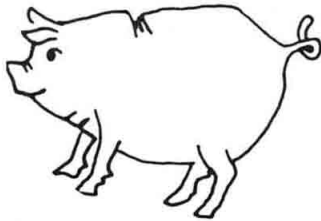
## 北 玲 号



牝 サラ 鹿毛  
昭和56年4月8日産  
幌泉郡えりも町産  
父 ノーザンアンサー  
母 クレメンタイン  
競争名 クイーンクレメン

私がサブについた頃のおちょうと言えば、堀川パパとさとみママにとっても可愛がられて、この世の春を満喫していると言う感じでした。三角地にスプリングと一緒に放牧されて、したいほうだいしているのを初めて目撃したとき、私は「こいつ本当に『おちょう』なのか、単なる根性悪か、よく分かんないなぁ…」と思ったりしたものです。でも、おちょうのことを知るにつれて、一度信頼した人には頼り切ってしまうということが分かり、馬とはこんなにも人間を信頼するものなのか、と考えさせられました。女の子でありながら北大を背負って立つひとり(?)である彼女はそろそろ女ざかりを過ぎようとしています、これからは熟女ぶりを私たちに見せてくれるでしょう。そして、「ふふん、私に適うと思ってるのなら、かかってきなさい。まぁ、十年早いわよ。」と言って、ブヒヒと鳴くのです。

ボリューム満点

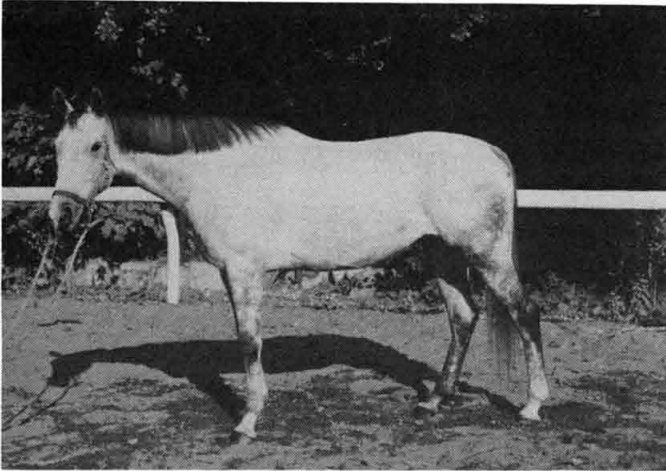


味のとん子

とん子

北区北18条西 5丁目 ☎747-5809

## 北 凜 号



牝 サラ 芦毛  
昭和57年4月8日生  
北海道浦河郡浦河町産  
父 ゼダーン  
母 ヤマニンパペー  
競争名 ヤマニンスプリング

### 北凜号騎乗報告

清 水 礼 子

部報の原稿を書かずにぐずぐずしているうちに北凜は離厩してしまった。怠惰な先輩で、飯田妹にはたいへん申し訳なく思う。

最近、女子部員が増えている。私達の代も例に洩れない。本学の4年目は男子3名、女子5名であった。当然女子のチーフも増えてくる。しかし、一般に女子の上達は男子のそれと比べて遅いのが現実である。(これは取り組むべき課題。) 試合経験も少なく4年目にして初めて馬をもつ女子はこれからも出てくると思う。私も馬をもつという自覚の足りないまま2年半を過ごしてしまった。今考えるとプリに騎乗して学んだことはどれも基本的なことばかりである。こんな女子部員として後輩にこの騎乗報告を贈りたいと思う。馬を持ってからの1年はあっという間に過ぎ去ってしまう。私が学んだことが、少しでもあなたのお役に立てばと願っている。

まずは、馬を持つときの心構えから。女子の共通の悩みは鞍のはまり(腰掛け座り)と推進力であると思う。しかし、一日も早くこの悩みから抜け出して馬と向き合えないと騎手の練習で1年が終わってしまう。

#### a. 鞍のはまり

経験上、いくら人に注意されても自分ではよくわからない。姿勢という形にこだわるより、馬の重心と自分のそれがあっているかを感じる努力をしてみたらどうか。3年も馬に乗っているのなら、自分の乗り方はもう出来上がってしまっている。その乗り方で馬をどう動かすか。発想を転換させてみる。気が付けば乗り方も変わってくるだろう。

#### b. 推進力

馬上で自分の体を支持できる程度の筋力アップは必要である。しかし、推進をしようと全身ちか

らをこめて馬上でバランスを崩してしまっは逆効果である。ここは、馬を敏感にして緊張感を高めることを考えるほうが早い。もちろん重心が馬の後にあってはうまくいくはずがない。

さて、私がプリに乗ろうと心に決めたのは、3年の7月だった。障害に自信をなくし、離厩馬の候補にあがっているプリを自分でなんとかしてやりたいと思った。正直言って試合で勝っていくことにはあまり興味はなかった。公認の試合前3週間プリに馬配があたり、小林姉がOBの指導を受けるのを見る機会を得たのは勉強になった。プリの問題点が見えてきた。頭を反らして運動をし、ハミ受けが悪い。脚反能が鈍い。特に駈歩で伸直性がない。90cm以上の障害は自信がない。後引きをする。etc…。いったいどうやっていけばいいのだろうか。自分は何から始めたらいいのだろうか。

とても私一人の手に負えるものではないことは明らかで、1年を通じて色々な方のお世話になった。多くの人の話を聞くと皆がみな違うことをいっているように感じた。頭を柔軟にして色々なことを取り入れる努力をするとともに、まわりに惑わされて自分とプリの関係を見失わないように気を付けた。一応助言に従ってみるが自分の納得いくところだけを取り入れるようにした。面白い事に、そうするうち皆結局は同じ事を言っていたことに気が付かされることがしばしばあった。人それぞれ乗り方が違うとは言っても目指すところは一緒なのだから基本は変わらないように思う。いかにその人の言う意味を掴めるか。いかに自分の感性にあった教え方に出会えるか。それだけだと思う。その点、私は恵まれていたかもしれない。

8月、試合会場で色々な方に調教方針について相談をした。まずは、ハミ受け。同じ答えが帰ってきた。9月、乗り替わりが始まる。

#### A. フラットワーク

##### 1) ハミ受けの矯正

ミュージザー馬術教本の「調教の崩れた馬のハミ受け」を参考とし、静内の三木田さんの指導の元で行う。

**第1段階** まずは騎手の拳の安定と共に馬も騎手もコンタクトを保つことを覚える。円運動を行い、鞍の前矯と内方手綱を同時に持ち内方を固定する。馬に強いコンタクトに慣れさせ、外方は頭を上げたら握り下げたら許す。正反撞と打脚で推進する。初め、推進の足りない分は下から人に追ってもらい前に出す。

**第2段階** 外方の操作で頭を下げて運動するようになったら、内方も譲りより頭を下げて、キ甲と平行かそれ以下に保つ。コンタクトは第1段階より軽くなる。馬が案に走っている時は人も案に乗りリラックスする。ハミ受けはこの状態で良とした。

**第3段階** 調馬索によるロンジンは乗馬ライフを参考にして1日15～30分騎乗前に行い効果を上げた。調馬索は馬の状態を実際に目で見ながら譲るタイミングを覚えることができ、さらに人の無駄な動きを制し声・舌鼓・鞭を段階的に使い分けることにより、人と馬の注意力を養えたと思う。ハミをいじっていると陥り易いのが推進不足。人も悩んでいるので余計に馬もいじけてしまう。外乗などで大きく走らせる運動も忘れてはいけない。下級生の練習には私とプリの約束ができるまで、バランシングキッド等を利用した。

## 2) 脚反応を良くする

柏友会の久保田さんに、解り易くご指導頂いたことをここにまとめてみる。どの運動に於いても半減却を忘れないこと！

### 第1段階 <内方脚＝腰を外へ振る＝内方後肢の踏み込み>

まず常歩で前肢旋回・斜め横歩・肩内など一歩一歩後肢を踏み込む運動を行う。内方脚を使ったら内方後肢を踏み込むということを徹底的に条件付ける。騎手も己れの脚の動きに十分注意を払い、雑音を消し、僅かな力で馬が素早く反応するように要求を高める。自分の持つ「良い反応の状態」のイメージが甘いと、馬の能力を十分に引き出すことができない。これは馬から教わることなので少しでも多く、良い状態の馬に跨がってみるべきである。

### 第2段階 <両脚＝前進・推進>

扶助は馬に解ることなのだから、簡単なことの積み重ねである。内方脚でその側の後肢を踏み込むのだから、両脚を使えば両後肢を踏み込み前へ出るのである。障害前で脚を使った時にその指示にしたがって行くようになるようにプリには特にこの段階を根気強く行った。最後には後引きをしても脚を使えば前へ出るようになってくれた。

### 第3段階 <脚とハミの関係>

第2段階までは内方手綱を引っ張ってでも内方姿勢を取らせてきた。ここからは内方脚を外方拳で受ける練習をする。回転運動・横運動に於いて内方脚の使用で外方手綱に張力を感じ、内方の手綱を譲っても内方姿勢を維持できるようにする。これは、今まで内方脚を使う際に無意識に内方に傾いていた騎手の重心を直すことで容易に改善できた。運動中の愛撫はすべて内方の手で行うようにした。この練習を繰り返すうちハミに出る運動ができるようになる。

### 第4段階 <外方脚＝腰の屈曲の角度>

前肢旋回において外方脚により後軀をおさえて一歩毎に回転を止められるか。後肢旋回・腰内・輪乗りの開閉・横歩等の運動を取り入れる。内方脚の推進と外方手綱・外方脚の壁は障害に向かう際の軌道修正に不可欠である。

ここまでひとつひとつ丁寧にこなしていけば調教審査ではかなりの得点が得られると思う。馬の一歩一歩を支配してペースの維持、正確な図形を心掛けた。馬場運動に於いてはペースが大変重要であると思った。前進氣勢を持った馬を、騎手が無理なく反撞についていけるペースに落としての演技が良いようである。

毎日の練習においては、段階を1から確認しながら行った。5～25分のタームに練習を小分けにして、1タームでの要求は一つに絞って、うまく行ったらすぐに区切りを付けるようにした。練習の目的がはっきりとして馬にも伝わり易いように感じた。頸の低伸と馬体のリラックス。ハミへ出る推進氣勢。横運動による馬の柔軟体操と後軀の踏み込み、脚反応の確認。停止・発進・伸縮の無理のなさ。外方脚。前後のバランス。などを順に確認していった。

このように段階を踏みながら自分とプリの折合いを付けていくと、無理がなく、何事にも段階があり、これを正しく踏んで行くことが上達への早道であるということを身をもって学ぶことができた。

## B. 障害練習

正直言って障害には馬の自信とやる気に最後まで悩んでしまった。障害にもフラットワーク同様にシステマティックな段階があるのだろうが、残念ながら理解しきれなかったのかもしれない。乗れる人が乗れば120cmでも飛べるのだからプリの能力に問題はなかった。一時期、経路回りでもゴールできるなど良い兆しも見えたが、馬体管理の不行届きからの足の故障により障害練習ができず、北日には賞典に出場した。代替り後も10月の山下杯まで騎乗したがし級のゴールは切れなかった。

方針としては、この人が乗ったら安心して飛べるという信頼関係を作ることだった。コンビネーションの中で高い障害に徐々に持っていく飛ばせられると思うときのみ向かうようにして止まる癖をなくすことから始めた。怒ることより誉めて勇気づけようと思った。しかし、プリに止まられなかった日はほとんどない。馬が止まりそうだと分かるまでに大分時間がかかった。何度かスランプに陥り、そのたびに約束事を先に破ったのは自分だったと気付かされた。

苦労したのはアプローチと踏み切りである。まず自分の目を養わなければならなかった。障害3歩前に無理のない回転でいつも同じように入っていけるか。間歩を読んで一定の踏み切り位置に馬を持っていけるか。騎手の目さえ養えればあとはフラットワークできちんとした約束を確立すればよい。マギー・ライトさんの講習会でもあったように、下級生のうちに意識して目を養っておいたほうが良いと思う。

障害前の準備運動では前を短く持ち馬体を起こして、バランスによる伸縮と脚反応を高め、プリが興奮してくるくらい前進氣勢を求めた。障害飛越を模して伸ばしたらすぐに詰め、力をためる運動を行った。この段階でのプリのボルテージを高めていった。1年間の騎乗を通して私の中のプリのボルテージのレベルは何度も塗り替えられた。いつも彼女は私の頭上彼方にいた。やっと追い付いたと思って望んだ山下杯だったが彼女の『本気』はまだまだ雲の上だった。

失敗談をいくら書き綴っても何の参考にもならないのでこの位にしておく。

基本的な事ばかり書き綴ったが、全て私が馬を持ってから学んだことである。後輩諸君！あなたたちは応用編を目指してください。

よりよき生活と平和のために

# 北海道大学生生活協同組合

北区北8条西7丁目  
TEL 746-6215

## 北 駿 号



騙 7・7 種 鹿毛  
 昭和58年4月3日生  
 北海道三石郡三石町産  
 父 トップホース  
 母 プルコワヒメ  
 競走名 チャフルガイ

### 北駿号調教報告

祝 前 伸 光

#### 競技成績

半沢杯	第二課目	339	16位
	M級C	-9 (JUMP OFF)	4位
自馬大	第二課目	363	9位
(岩見沢)	M級C	3反E	
公認	L級	満点	5位
(NHP)	第二課目	379	4位
	M級C	-14.5	15位

北日 二回走行<一走目>3反E

(北里) <二走目>3反E

総合<調教>帯鞭入場により失権

<耐久>満点(オープン参加)

<余力>満点(オープン参加)

半沢杯のM級Cでは満点のジャンプオフに勝ちのこったものの、一拒止とタイム減点。自馬大のM級Cでは、二落下で最後のトリプルまできて、そこで三反抗。公認のL級は走行内容が悪く力だけで飛んで帰ってきた感じ。M級Cでも単独障害なら何とか力づくで飛ぶことが出来るが、無過失できた最終のトリプルで二反。三回目飛んだのはきまぐれで、落下しながらでもよく飛んだものだと思う。北日の二走は一走目中盤のトリプルで三反抗、二走目も同じトリプルで二反の後終盤のダブルで拒止。総合の余



力では公認のL級と同じで、また前日の耐久の余韻もあって、内容はよくないが満点でのゴールだった。半沢杯以外すべての反抗が連続障害でのものだが、力のある馬だけに単独障害ならどんな最悪の状態でも向ければ飛んでしまうと言うだけで、馬が特別連続障害を苦手としていたわけではなさそうだ。騎手の方がむしろ苦手意識をもってしまったこと、また一旦止まった後の対処が悪いことなどが原因になっているが、そもそも馬を経路走行できる状態にもっていくことの出来ない準備運動が一番の問題があったといえる。半沢杯と自馬大の馬場は馬が興奮しているのを落ち着かすことが出来ず、満足の行く演技が出来たとはいえないが、興奮がうまく前進氣勢に振り替えられて、そこそこの点がついた。公認では馬は落ち着いており、今シーズンではましな方ではあったが、やや前進氣勢に欠けるきらいがあった。北日の耐久は自分では何もすることが出来ず、何もかも分かっているかのごとく勝手にコースを回る馬にのっかっていただけだった。

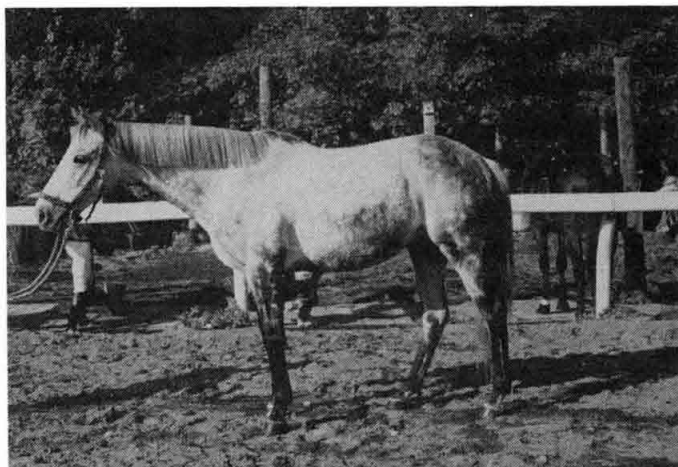
### その他

馴地はモモセ、岩見沢、帯広、ノーザンホースパークに行った。どこに行っても北大の馬場と同じように運動できた。帯広は野外の練習のつもりで行って、コースも部分的に回ってみたりしたのだが、本番は全くちがうものだった。

競技会と競技会の合間に記録会を行なった。北日の二走のコースをほぼ再現して6月の終わりと7月の終わりに行なった。一回目には、二走レベルで堀川さんに乗って出してもらった。トリプルで一反、ダブルで一反だった。自分はレベルの低いほうに出て、満点だった。ただしふらふらの走行で、やはりそのレベルだから帰ったというだけだった。二回目は二走レベルに出てダブルで一反止だった。北日出発の十日前で、もちろん満足の行く内容ではなかったが、この調子で本番も一反くらいで帰ってこれるとも思った。

馬体的な問題はほとんどないといってよく、ちょっとした外傷の治療以外に薬品をつかったことはない。四肢もシーズン中ということもあって連日障害などやっていたのでいつもすっきりと言うわけには行かないが、慢性的に熱をもつわけでもなく、水冷などもしたことはない。ただ皮膚が弱く、わんこ、馬着、胸がい、ビットガードなどの当たる部分がすれてしまうことがあった。12月初旬突然破行しはじめ1週間ほど馬休にしたことがあったが、これは“すなのぼり”と言う珍しい病気のためであった。蹄の裏に出来た小さな傷から細菌が入って蹄の内部が膿んでしまうものだが、太田装蹄師の絶妙な削蹄技術で1週間ほどの馬休ですんだ。それ以後大きな怪我や病気はしていない。

## 北 瑛 号



騙 サラ 芦毛  
昭和55年4月18日生  
北海道勇別郡鶴川町産  
父 トレントム  
母 ホクエイイブキ  
競争名 ニューギャロップ

### 北瑛号調教報告

池 田 直 弥

昨年(1990)12月よりこの8月までチーフとして北瑛に騎乗しました。

既に入厩後四年経過しており、部報No.32以降にあるよう、半沢先生により、また歴代チーフにより、初級の馬場馬術競技では好成績をあげるまでになっていました。昨年は北日学で、学生賞典馬場馬術競技も経験しました。しかし障害は、競技でゴールを切ったのは一回だけで、極めて不得手としてきました。故に練習馬として位置づけられ、僕が騎乗していくことになりました。

乗り替わった段階で、一年間の目標を①学生賞典での全日学出場②新人新馬程度の障害経路を回れること、と定めました。しかし、すぐに幾つもの問題点が見えてきました。その際たるものは、前進氣勢を持たせられないことでした。十分な推進が与えられずに、背中を硬直させ、やみくもに前に出そうとすると、チョコチョコと小幅に速歩をする状態でした。一方では騎手の拳の固さによって、ハミ受けをさせられずにいました。ハミ受けは前進氣勢ができてからと考え、伸縮運動、旋回運動を意識したフラットワークを行いました。めだって後肢が踏みこんでくることもなく、シーズンをむかえようとする時期まで、不完全な要求しかできませんでした。外乗で、農場で速歩をすればしっかりと踏み込みを見せていたのに、その状態をフラットワークにいかす努力が少なかったり、などの騎手の頭の固さと、旋回運動でも、輪乗りでも、不正確な動きや凶形に妥協してきた騎手の甘さなど、この時期を振り返れば後悔することが非常に多いのです。冬を有効に使えるかどうか、というのは非常に大切なことだと思います。

三月の始めから二週間静岡で乗る機会を得ました。帰ってきて初めて乗ったときに非常に大きく歩き、非常に驚きました。二週間の間、姿勢の点で注意してきたので、今までの人の姿勢が、馬の動きを阻害していたと認識しました。脚に反応して馬が素直に前に出るようになり、馬場で前進氣勢を持たせた運動ができるようになりました。次の段階として、堀崎兄や、畜大OBの鷺田さんに見てもらいながら、

ハミを受ける運動を重点的にしました。輪乗りで、ゆっくりしたペースを維持し、内方脚の推進で外方のハミを受けさせることが主体の練習になりました。もともと馬が頭を下げることを知っていて、それほど時間を取らず、首を使った運動がある程度できるようになりました。そのような状態でシーズンをむかえました。

半沢杯は、第二課目と、複合の馬場のみに出ました。北瑛との初めての競技であり、とにかく人が試合慣れして、ふだんの練習程度の動きをさせられるかが一番の課題でした。準備馬場では、馬が適度に緊張し、扶助に今までにないぐらいよく反応し、わずかの脚でハミを求めてきました。ところが競技では人が非常に固くなり、ハミにも脚にも反抗して逃げようとし、惨々たる結果に終わりました。

幾つもの問題点が見えました。まず、北瑛に関しては、左の口がかたくなっていることがわかるようになっていました。また、二蹄跡運動を求める際の、左右の動きが鈍いこともありました。一方人は、拳が固く、また正反撞でなかなかついていけませんでした。そして人と馬の関係では、札幌競馬場の小川さんには「我儘をさせている」（半沢杯）、OBの千葉幹夫さんには「馬に教えていかなければ」

（道自馬）と指摘されたように、チーフであるにもかかわらず、馬より上に立って騎乗していくという姿勢に欠けていました。口向きに関しては、左手前では無理につめず、脚を強めに使い拳を強くしないよう心掛けました。しかし、残念ながら、最後まで余り改善されませんでした。二蹄跡運動は常歩でしっかり動くよう求めている、扶助に対する約束事を再確認させていきました。それができてから速歩に移ると、かなりよく動くようになりました。ふだんの手入れなどから、白黒をはっきりつけるように心掛け、扶助に対して反抗したり鈍かったときには、声や脚で怒り、素直に従ったときには、ちょっとしたことで褒める、ということをも自分でも大袈裟だと思うほどにしていきましたが、それがはっきりとした効果として表われたかどうかはいまでもわかりません。ただ競技での反抗は少なくなりましたが。

学生賞典は、大勅での出場が義務づけられています。三月に前チーフの真鍋姉から大勅の装着、乗り方などを教わり、半沢杯後本格的に大勅での練習を始めました。水勅で、ハミを受けてくる状態を作り、その後大勌をつけて徐々に運動の要求をあげていきました。最初は、大勌を持つと硬直して後退するなどの反抗をしました。拳がきつくならないよう気を付け、とにかく人も馬も慣れることだと考え、どうにかフラットワークを行えるようになって、道自馬をむかえました。競技場では極度に緊張して硬直するといった以前の北瑛の姿はなく、その点で成長を感じました。しかし、ジュニア団体では、駆歩区間で尻っぱねをするなどの反抗をみせ、依然折り合いと、大勌に関して進歩がありませんでした。次の試合は、公認のジュニア団体です。なれていくにしたがい、要求を上げていきましたが、馬のボルテージが上がると、粗い扶助に対して逃げることは変わらないままです。正しい扶助を使いつつ、ハーフパスやフライングチェンジなどの課目にも取り組みました。ハーフパスはどうしても反対姿勢をとり、拳でひっぱって肩から逃げられることを続けました。腰を内へはできるのですが、フライングチェンジは、収縮させてから変換させるということができなくて、勢いにまかせてとにかく変えれば褒めました。ところが試合では、そのような課目はこなせるようになったものの、大勌に対する反抗を恐れるあまりに人の扶助が中途半端になり、前進気勢もなく、馬も人に注意を向けずにふらふらする経路回りになってしまいました。

北日学直前の七月十八日に疝痛を起こし、馬休となりました。馬休明けもあまり運動量を上げられな

かったこともあって、基本的な事の再確認を意識しました。脚に対する反応、スムーズな伸縮、正確な図形…特に、この時期には、リズムよく、また一定のリズムでの運動を要求しました。結果として今まで以上に伸縮の動きが良くなりました。

北日学では、結局権利を取れませんでした。メリハリがなく、前進氣勢の面でアピールするものがなく終わってしまいました。他の部分では、今までにやってきたことを実行できたし、練習馬場でもしっかりとした歩様でいただけに、基本的なことを試合で表現できないで終わった騎手の甘さを痛感しました。後は何を言っても言い訳になります。ギャロップ、ごめん。

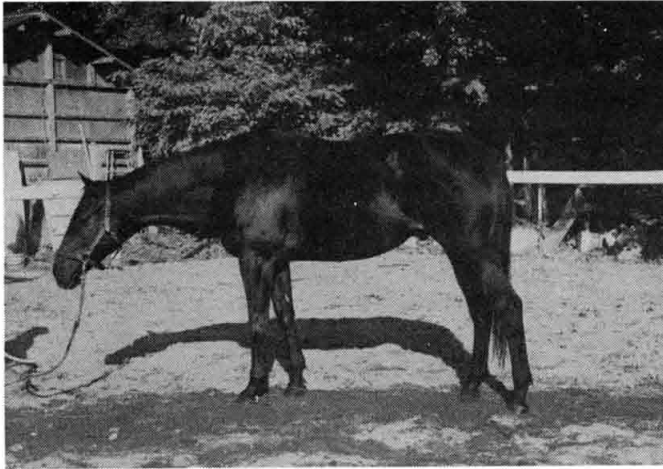
障害に関しては、馬の気分を変え、大きく体を使わせるために、キャバレッティや低いコンビネーションしかしていませんでした。北日学後は、フラットワークでの収縮運動と並行して、障害を飛ばすことを課題としました。コンビネーションで行ったのですが、高さに対してのためらいがあるのか、90cm以上の障害をどうしても飛ぶことができませんでした。前肢を折りまげて飛越するということが不完全なのがいけないのだとも思います。いずれにせよ騎手の未熟さもあって、結果を出すことができませんでした。また、障害の試合の雰囲気も嫌いのようです。北日学の一年生のジムカーナに出場したのですが、僕が準備運動していても馬場のときと違いオドオドしてつかかり、経路をまわらせてもらったときも首を固くして走りました。案の定一年生が乗って、一人は走られてゴールできず、もう一人は落とされてしまいました。

以上が一年間の報告です。馬を調教するよりも、馬を動かすということに多くが割かれてきたことがわかります。チーフになるからには、もっと技術が無ければいけないということでしょうか。

今後のために若干思うところを書いて終わりたいと思います。まず馬体について。小さいながらもバランスのある馬格だと思うのですが、首から背中筋肉のつきが悪いので、前に出せない騎手が乗るとどうしても小さい動きになってしまいます。畜大OBの三木田さんにはシャンボンの使用を勧められました。他にも不整地、坂を歩かすなどして、基礎体力を増していくべきでしょう。障害に関して。北瑛は今十二才、北大のなかで三番目の年寄りになりました。今から障害馬を目指すのは、僕たちの技術では無理だと思います。もちろん、キャバレッティやコンビネーションはやるべきですが。また、僕は、賞典を意識するあまり、自分の実力以上のものを求めて、競技はジュニア団体ばかり出場しましたが、馬を調教し、より良い馬の状態を求めるためには、自分の技術にあった競技、たとえば第二課目、でより高い得点を求めることも必要だったと思います。そして賞典を目指すことが、またそのための練習に多くの時間を割くことが、特に部の目的を考えたときに、適当なことなのか、という問題。六月に水野さんが来札されたときにそのことを指摘されました。正直に言って僕にはわかりません。部員のなかで話し合っただけで決めていくことなのでしょう。

最後に、岡田監督を始めとするOBの方々には、ご指導を承りたいへんありがとうございました。半沢先生には北瑛のために人參をいただいたりわんこをいただいたりとなえず北瑛に気を配っていただきました。また最上級生諸姉姉にも特に感謝しています。そしてギャロップ、どうもありがとう。

## 北 熊 号



編 サラ 黒鹿毛  
昭和59年4月24日生  
新冠町産  
父 ノーアテンション  
母 ヤマニンアツコ  
競走名 ヤマニンウィザード

### くまに騎乗して

野 田 英 文

#### 1. 10月に乗り始めて7月までに自分がくまに求めたこと

冬の間は、馬の脚扶助に対する鈍さを直すことに悪戦苦闘の日々が続いた。しかし、脚や鞭を使うタイミングの悪さについてさんざん指摘があったにもかかわらず直らなかつたせいで脚反応は二ヶ月くらいよくならなかつた。よくなるきっかけをつかんだのは、水野さんの来札の際に乗っていただいた事だった。運動の際に、移行をだんだん多くしていくことによってボルテージを高めること、外方手綱を持って壁をつくり、内方脚で馬体を外方へおしだしていくこと。この基本的なことを繰り返しているうちに、普段のフラットワークでの脚反応が良くなり始めた。具体的にはまず、1日の運動の始めには必ず自分がのようにして、第一歩目から後蹄跡が前蹄跡をこえるくらいに踏み込んで歩くことを求めた。そして徐々に手綱をとって輪乗りに入り、その中で巻き乗り、速歩で主に輪乗りの開閉ではみうけを求めた。雪も解けて、5月になるころには、それまでできなかった移行、例えば停止から駆歩が1つの輪乗りの中でなんどもでき、その度に自由に手前が変えられるようにまでなった。が、運動がその日によってうまくいく日とそうでない日の差が激しく、何が悪いのかが解らなくなったのもこの時期だった。この頃に岡田監督に見ていただいた。監督にまず指摘されたのは騎手の姿勢で、鐙をまっすぐはきなさいということだった。鐙を履きなおしただけでそれ以降の運動がよくなり、自分がいかに基本的なことを見落としているかを痛感した。

#### 2. 7月の公認大会以降、自分がくまに求めたこと

7月14日の公認大会で失権して以来、長屋さんにいろいろ話を聞いたのをきっかけに、何が間違っていたのかを自分なりにいろいろ考えた。まず、自分とくまとの間の『約束』のあいまいさがまずかった。それは障害云々ではなく、もっと基本的な脚を使ったら前へでるというレベルのことだった。停止から

駆歩の移行のときに常歩が1歩入ってしまった。キャバレッティーの通過のときに足をバーにあてた。こんなときの対処のあいまいさが全ての原因になっていた。そしてなにより欠けていたのは、くまをどんな馬につくりあげたいのかという、自分が描くイメージだった。目先のやるべきことに気をとられ、目標が何であるかを曖昧にしたままあれこれ思い悩んでここまで来てしまったことをこの時期にはじめてきづいた。北日まで時間はあまり残されていなかったが、とにかく常歩を中心にした運動に切り替えた。この時点で騎手が求める歩様、踏み込み、そして巻き乗りの図形ができるまで次に進まない。できたら今度はその前進氣勢と柔軟さを利用して手綱を軽くもったまま輪乗り上で外方へ押し出す。このときにイメージとして、北玲のようなバランス感覚をある程度まで求めた。総合的なイメージとしてはゆったりとした感じ、例えば何事にも躊躇せずどんどん進んでいくような感じをもとめた。そのために構内へ出かけては、いろいろなところへは行って行って運動をした。代がかわって9月にノーザンで騎乗した時は、もう自分がくまからおりて日にちがたっていたが、だいぶ馬自体に柔軟さと力強さを感じた。

また、馬よりもむしろ騎手のほうに問題があるという指摘を多く受けた。

1つの運動の中でボルテージを高める時とリラックスさせている時の境が曖昧で、馬にはっきり伝わっていない。脚扶助にたいして鈍いという後ろで脚をつかいがちで、馬に妥協している。これらのことが全て馬に不要な自由を与える結果になってしまっていた。

騎乗している時以外の接し方もまズかった。とにかく手入れ中はどんなことがあっても足をあげさせないように、曳綱でげっぶをしないように、そして、馬場に入るときに馬場らちに足をあてさせないように気をつけていたが、サブチーフが変わる度に曖昧にしてしまった。

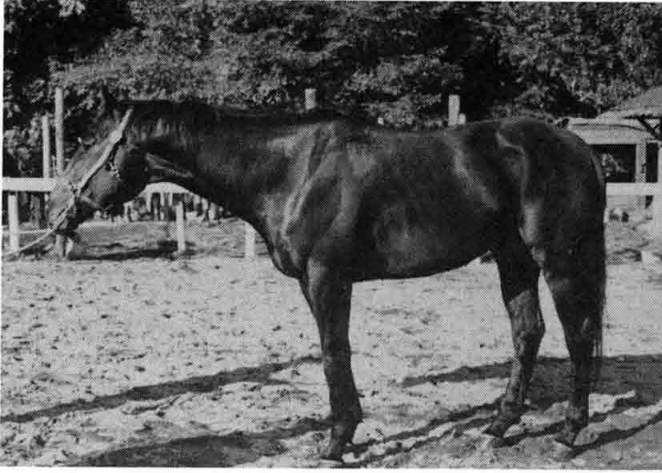
### 3. おわりに

以上のように自分のくまに対する曖昧な要求の為に、くまと自分のコンビとしては、競技会にでるレベルまでは到達できなかった。7月以降、本当の1からやり直し、北日では悔いの残る結果におわってしまった。が、それ以降に乗った感じ、祝前が乗っているのをOB戦でみたかんじからはすこしながら成長がみられ、無責任な言い方で恐縮だが来年もしくは再来年には競技会のレベルにまでなりそうだと思う。

本当に最後になってしまいましたが、岡田監督、水野さん、長屋さんをはじめとするOBの方々には貴重な時間を割いてくださって的確なアドバイスをいただきました。特に岡田監督には、まず騎手が基本を守ることの大切さを度々教わり、目がさめる思いでした。本当にどうもありがとうございました。

くまふう、元気だね。

## グレンエトワール号



牡 サラ 鹿毛  
昭和61年3月26日生  
北海道静内郡静内町  
父 サクラシンゲキ  
母 ホシローズ  
競争名 グレンエトワール

### グレンエトワール号調教報告

横 幕 宏 幸

「自分の技術が至りませんでした。」これがすべてのような気がするが、これでは調教報告にもならないし、今後同じ失敗をくりかえさないためにも、自分の失敗をふまえて書いていこうと思う。

まずは馬体管理から。この馬は以前の部報でも紹介したとおり、現在唯一の牡馬であり、もし去勢するのなら、「年齢的に今年中にはしたほうがよい」という声もあがっていたのだが、牡馬のわりに“うまっけ”がないこと、“片金”であること、性格が素直であること、などの理由により、去勢せずにおいておくということに決定した。いくらおとなしい馬であるとは言っても、そこはやはり牡馬であり、最初のころはちょっと油断するとのっかかられもした。この馬の性格から出る“じゃれ心”なのだが、乗られる人間として見れば、たまったものではないので、いかにじゃれてこようと、乗っかかるといった行為はシャンクなどを使いきつく叱った。シーズンが終わり、現在のエトワールはと言うと、殆どと言って良いくらい乗っかかることがなくなり、他の馬と変わらなくなったように思う。これから長い間、北大でかわいがられてゆくのだろうが、決してエトワールが牡馬だということを忘れてはならないだろう。

馬体に関しては、殆ど慢性的に両後の球節から管にかけてすっきりしないのだが、特に運動量が上がるとぼんぼんに腫らしてしまうことがあるので注意が必要である。また腰にも弱点があり、マッサージ、六一〇ハップなども試みてみたが、余り効果が現れなかった。運動内容を気を付けてゆくの最善策のように思われる。

12月にエトワールに乗ることが決まったのだが、今思うと、細かいことをじっくりやれる冬の間、他にすることがもっとあったのではと思う。（とはいっても1年前に、今思っていることができる技術はなかったのだが。）

騎乗しはじめた当初は馬に前進氣勢を持たせるのに苦労した。馬が前に出ない為に強い脚を使おうと

するのだが、それが雑な脚になってしまい、速歩などでは馬を焦らせ、頭を挙げて不正になってしまふことが良くあった。冬の間、前をきつく持って馬の口を下げさせた方が良いのか、放棄手綱で頸を楽にして脚を使っても頭を上げさせないようにするのが良いか悩んだが、結局シーズンが始まるころになって、やっと後者に決めた。シャンボンを使った調馬策で馬が頸を延ばし、大きく走らせることをころろがけた。速歩では割合すぐに出来たのだが、駆歩ではなかなか出来なかった。

準備運動は輪乗で行い、シャンボンをつけ、手綱を軽く持った状態でゆっくりとした内方脚を使うことによって、馬をあせらすことなく、はみを前下方へもっていかせるといったことを繰り返しおこなった。このやり方でまちがっていたとは思わないが、なにぶん几帳面さが足りなかったことがよく先輩方より指摘された。

内方脚により内方姿勢をとらそうとしたのだが、脚、バランスより拳が先行してしまい、頸だけが曲がり過ぎるといった誤った内方姿勢を取ってしまった。馬の形にこだわり過ぎ、自分の行かせたい所に正確に行かせる、つまり図形をきちんと描くといった基本をおろそかにしたのが、競技会での失敗に結び付いたのだと思っている。結局のところ、地道な練習が障害の試合での成功に一番の近道であるということが、最近になってやっと理解できるようになった。

なんとか長い手綱で馬が頸を使って走れるようにはなったのだが、手綱を短く持つと頭を上げてしまふ。長い手綱で頸を使って走らせることが出来るようになったのだから、頸を堅くしないよう徐々に手綱を短くしてゆけば良かったのであろうが、障害の経路走行では前を持たなければ（持つというよりは引っ張っていた）誘導出来ないため、脚ではなく拳で前を引っ張り回して曲げていた。

左右の固さの片寄り、最初左のほうが曲がりやすいと思っていたのであるが、これは馬が内に傾いて曲がっているためであり、右に比べると脚に反抗し、頸を固くし頭を上げてくる。上に乗っている人間が強い脚と良いバランスで乗ってやるのが当然必要なのだが、自分にそれがなかなかできなかったため、この左への固さというのは騎手の影響が大きいような気がする。輪乗でも図形のことを述べたが、直線を走るのに対しても同じようなことが言える。この馬のルーズな所をカバーするのではなく、人間も一緒になってルーズになってしまった。今思うと、このへんにこの馬を変えてゆく鍵があるように思う。

障害に対しては、全くと言って良いほど（外の馬に比べると）こだわりはもっていないような気がする。初めて見たような障害も、最初は鼻を鳴らしながら近付いてゆくが、好奇心が先に立ち自分から首を延ばしていった。今まで飛んだ障害も怖くてどうしようもなく止まったものはなかったように思う。この馬の場合、「なんとなく飛びたくないな」といった気持ちを持つと横に逃げようとするが、騎手が「ダメ」というと素直に納得して、20cm以上大きく飛んでしまうことが良くあった。しかし2~3回飛ぶとその障害をあててしまうといった障害に対する集中力は他の馬に比べると劣っているように思われる。とは言っても物を見てどうしようもない馬よりは扱い易いわけで、この馬を勝利に導くにはいかに集中力を持たせて飛ばすことができるかにかかってくると思う。

自分が乗り始め、障害に足を当ててしまうといった癖を作ってしまったことは今後の課題となってゆくであろう。騎手ももっともっと上達しなければ、馬に迷惑をかけるばかりである。もちろん馬が障害に足を当てることは騎手の随伴の悪さそのものであり、馬を責める権利なんて全くと言ってないのだけ



れど、大学の、しかも馬に乗り始めて3～4年の人間を乗せて、ある程度の人間のミスはカバーしてもらわないことには毎年好成績をあげることなど出来ないのが悲しい現実である。騎手のミスを棚に上げて何ではあるが、足を当てたら叱るといった事が必要だと思う。

とは言っても、真っすぐ馬を障害に向けるといったことを騎手が怠らなかつたらの話ではあるが。これができれば落下はかなり減らすことができると思っている。

障害での減点の主な原因は3つあったとおもう。

1. 騎手の随伴の悪さ
2. 誘導のミス
3. 馬のボルテージ

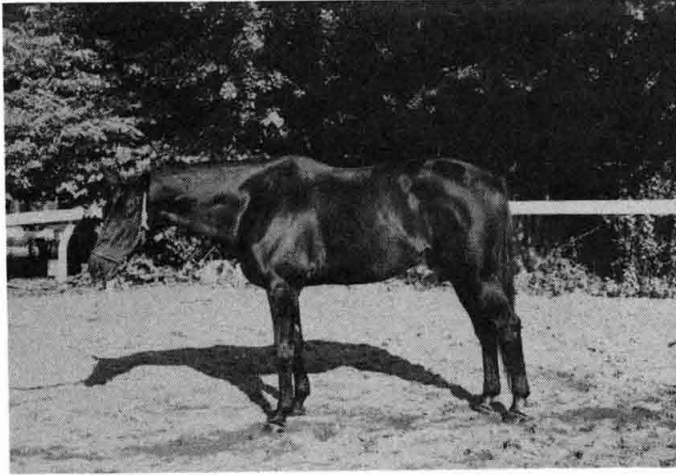
1の随伴の悪さについてはコンビネーションを利用した方が良いとの助言により、これを取り入れたが、本気で直そうという意識が薄かったのかあまり改善が見られなかった。2の誘導ミスは人間が内に傾き、内方拳を使って曲げてしまい、回転から直線に入ったときに既に馬体は障害にまっすぐに向いていなければいけないものを、直線に入ってから慌てて拳で無理やり馬体を障害に向け直すといったことがよくあった。これは障害から目を離さず、外方に乗り、外方拳で曲げることを心がけた。

最後に3の馬のボルテージであるが、この馬の場合、競技前の準備運動で沈黙運動といったことは全くと言って良いほど必要なく、いかに馬が集中力を持って飛ぶことが出来るかにかかってくると思う。単調な、だらだらとした準備運動のために失敗したことも何度かあった。どちらかというと集中力が持続しないように思われるため、競技場での準備運動では出来るだけ時間を短くした。競技場では緊張はするが、あわてふためき、パニックになるということはなく、馬の緊張がやる気につながっていった。この点はエトワールの良さであり、この良さを生かすことが肝心であるように思う。クロスなどは2、3回に止めておき、すぐに垂直障害を飛ばしていった。

やる気になったこの馬は高さはさほど問題では無く、問題があるとしたら、誘導であり、馬が前にかかって来たときにいかに馬を起こして、正確な誘導が出来るかにかかってくる。今回の北日の1、2走目の反抗も障害前の長い距離を馬なりに走らせてしまった為である。

グレンエトワール号、まだ6才である。今年の失敗をいかし、この馬の良いところを延ばして行けば必ず次代のホープとなってくれるはずである。

## パシオン・M号



騙 サラ 黒鹿毛  
昭和56年4月19日生  
北海道三石郡三石町産  
父 アローエクスプレス  
母 スターブルー  
競争名 ダイエクスピー

Pさんは、小さくまとまった顔、長くてホッソリとした四肢、そして黒鹿毛という毛色がより一層、その素晴らしい馬体を際立たせ、そばで見ていると、ウツリするようないい男です。

でも、ちょっとおなかがポンポコリンなんです。おまけに。耳が必要以上に大きくて、よく聞こえるものだから、ちょっとしたことにすぐおどろいちゃうのです。

おまけのおまけに、感じやすいたちだから、優しくしてあげないと怒っちゃうし、不満をかくせない素直な性格なんです。

だからしかられるのなんて、大嫌い。Pさんは、おこる：ほめる=1：10くらいにしてあげなきゃ、ポンポンだからうるさいのさ。もちろんお部屋は女の子の隣がいいな。他の仲間は別に好きって訳ではないけれど、いなくちゃ寂しい。クマさんなんていい遊び相手だったんだけど…。

こんなに人間くさいPさんだから、いろんな人に愛される。いろんな人が見ていてくれる。

もう少し、Pさんへのみんなの期待、自覚して欲しいんだけど、いつでも Going my way なのさ。天気のいい日の日向ぼっこが、最大の楽しみなんですもの。

今度、Pさんの顎が何cm下がっているか、測ってみてね。

こんなにすてきなPさん、お願いだから、ひき馬ではしづかにしてね。

## 明日檜号



騙 ア・ア 栗毛  
昭和52年5月23日生  
北海道沙流郡平取町産  
父 フロルア  
母 ギンチョウ  
競争名 フロルアタロウ

### 明日檜号調教報告

外山 敬子

明日檜号から降りて2カ月。いざ調教報告を書こうとすると、騎乗や調教に関わることもよりも楽しかったこと、つらかったこと、といった自分の感傷的なことばかりうかんでしまっしょうがなかった。だから、なるべく私が明日檜号に乗っていたことを具体的に書いていこうと思う。

明日檜号に乗っていてつねに頭の中にあったことは、自分の技術を向上しようということだった。馬の調教を上げてゆくより自分の技術を向上しようと思った。それに、自分を向上することが馬を上げてゆくことだと思っていた。具体的に言えばまず第一に馬の上でバランス良く乗ること。そして次に馬に的確な指示を与えられるようになること。

私はなるべく馬の上で静かに乗ることを心掛けた。(アブミに左右均等に乗り、馬の重心と自分の重心を一致させ、脚をピッタリと馬体に接し、拳と体を分離して、馬の口に柔軟についてゆく。)そして馬に的確な指示を与えるということが徹底するように、自分がグラグラしているうちはあまりむずかしい運動はしなかった。グラグラしているうちは的確な指示(扶助)はできないし、馬が混乱すると思ったからだ。馬場をやるときは馬に分かりやすい様に、蹄跡をきめ、ポイントで輪乗り、移行をするようにした。そうすることでメリハリもついたと思う。障害をやるときも、障害をとぶことだけに専念した。障害に関して言うと、最初はとにかく数多くとんだ。そして自分が慣れようとした。馬が苦なくとべる、バッシンがたくさんならんだコンビネーションを多くやった。そしてまた一つのオクサーを大きくしていった自分の度胸づくりと、馬の障害に対する感じをつかんだ。障害をとんでいる時に注意したことは、口をひっぱらないこと、鏡に正しくのること、前を見ること。(下を見ないこと。)

すべてを感覚的に行ってきたので言葉で私はいまうまく表現ができません。技術的には私のしていたことはこれだけです。でも、できるようになるのに3年半もかかった。それでも完璧とはいえない。私の練

習は『習うより慣れろ』だった。本当だったら3年半しかないのだからもっと勉強しなければいけないのかもしれないけれど、習ってばかりで体を動かさないのよりいいのではないか。

あと、明日檜号の諸問題について。

・ハミにひっかかること。

昔はまきこむところのある馬だったように記憶しているけれども、私が乗っている時は、速歩をすると勝手に走って行ってしまし、駆歩したあとの速歩はどんどん速くなってしまふ。最初は力まかせにひっぱってました。でも、なぜ走ってしまうか、といったら、馬が人の指示をまっていないからだし、私の推進によって動くことをしていないから、減速しようと思ってもできない。走る時はそれ以上推進して、とにかく騎手の指示で動くことを徹底しようとした。明日檜のペースというものもともとと速く、しばらくすると、あまり気にならなくなったけれど、駆歩からの速歩、常歩は、なかなかうまくいかなかった。

・内方姿勢をとらないこと。

ハミをうけていないため、根気よく輪乗りをして自分がハミうけの練習をした。ハミをうけた状態の時は、自然と内方姿勢もとっていた。

・障害につこんで行く。

これも、馬が勝手に飛んでいるので騎手の指示をまつようにさせる。それと騎手が不安なために追ってしまうのもあるし、障害上で騎手と馬とのバランスがくずれて馬が不安なためにつこんで行くのもかもしれない。私の随伴はかなり大げさで馬に覆いかぶさってしまう。それも原因していたと思う。人が余裕をもってバランスよく乗ってやれば、突進するようなことはなかったの、騎手の問題だと思う。

・試合場で。

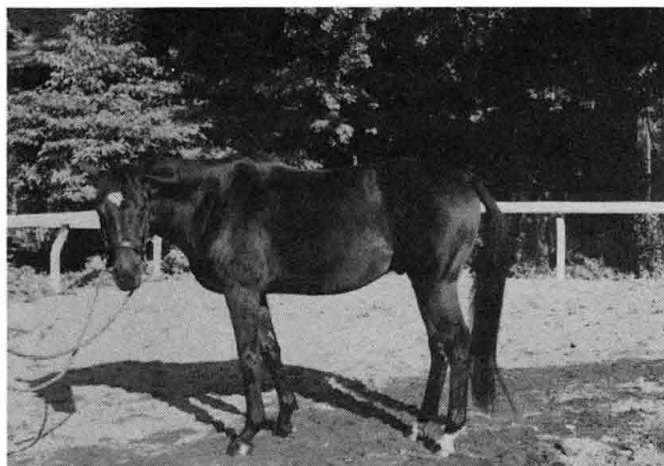
試合場ではとにかく落ちつかなかった。馴地に行った時はなんともないのに、試合になるとぜんぜん落ちつかなかった。準備運動でも普段馬場で乗っている時と違い、動きにムダが多く障害も必要以上高く飛んだ。それでもあまり気にしないようにして、なるべく興奮しているのを力づくでおさえこまないようにだましまし乗った。ムリにおさえようとする力まかせに反抗してどうしようもなかった。逸脱しない程度に馬の好きなようにさせて、おちつかせることを第一にした。北日では北里で牛を嫌い、どうしたらいいか分からなくなってしまった。やはり、力でおさえるのはやめた方がよいと思う。

以上通して、やはり騎手の未熟さのため馬の力を、明日檜の力を今年出しきることができなかった。あと私に足りなかったのは、馬を調教しているんだ、という心がまえだと思う。

・・・とこれ以上書くと感傷的な言葉が出てきてしまいそうなので、これで調教報告を閉じようと思う。半沢先生、岡田監督、斎藤部長をはじめ数多くの方々に御指導、御助言いただき本当にありがとうございました。そして毎日箱番してくれた下級生のおかげで充実した練習ができました。どうもありがとうございます。

明日檜号の幸福と健闘を誓って。

## ファストバロン号



騙 サラ 鹿毛  
昭和61年3月8日生  
北海道浦河郡浦河町産  
父 スイフトスワロー  
母 インターブロッサム  
競争名 ファストバロン

### ファストバロン号とともに

平山 潤子

3年の9月よりバロンの馬体管理責任者は私となり、12月までは長屋さんの下で、1月からは堀川とともにバロンに騎乗しました。自分が未熟な為、技術的なことはほとんど何も教えることができず、とても調教報告とよべるものではないので『ファストバロン号とともに』とさせていただきます。自分がバロンとどう接してきたか、実際に行ったことを書こうと思います。

#### ・手入れetcに関して

私が馬責についた頃、バロンは「かむ、ける」がひどく、人間を信頼していないというか人と自分がどう接したらよいのかを知らなかった。人と接しているときボーッとしているようだが、実はものすごく繊細で人間の方に注意を向けている。しかしその注意の向け方というのが「何をされるのかわからない」といった人間に対する不安、不信感からきているもののように思われた。それはブラシがけの時のバロンの表情から、又バロンの態度からそう感じたのである。バロンは競馬時代に右前を骨折し、つなぎにボルトを2本入れるという大手術をうけている。そして数ヶ月後に去勢、その後すぐ北大へ。このわずかな時間の急激な変化がバロンに“不信感”を与えてしまったのだろうか。それとも小さい頃に人からひどい扱いをうけたのだろうか。原因が何であれ、とにかく私がバロンと接することによって「人と一緒にいることは楽しいことなんだよ。私と一緒になら安心できるよ。」ということをお伝えしたいと思った。その為にまずバロンが気持ち良く毎日を過ごせるようにしよう。具体的には趣味草をいっぱいする曳き馬が一番に行く（青草が食べれること以外にも、半日中馬房にいる馬にとっては何ととっても気分転換になる。バロンは曳き馬が大好きで4時近くになると“早く行きたい”と訴えるのである。）、手入れの時など常に声をかける、なるべくいっぱいほめてあげる、バロンと接する時間を多くする、手入

れ時間を短くする（天候がざわざわしている時などバロンの気分もソワソワして落ち着かない時が多かったので、こういう時には特に気を付けた。）、しほのまわりやき甲のまわりなどかゆがるところをかいてあげるなど…すべて当たり前のことであるが、これらのことを大切にした。今、バロンは何を欲しているのか、どんな気持ちでいるのかを考えながら・・・ピリピリしていたバロンも10月頃には表情がだいぶ穏やかになった。9月のはじめ頃に比べると、かなり不安、不信感といったものが取り除かれたように思われる。

しかし、まだまだガキである。人との接し方を知らない。“きちんとしつけなければ” そう思った。一気に高いレベルを要求するとバロンが混乱してしまうので低いレベルから徐々に要求していくことにした。わずかではあるがバロンとの間に信頼関係ができはじめているのにそれを崩してしまったら元もこもないから…あくまで徐々に、徐々に、馬の反応をみながらである。ただ、人に対して蹴ったりかんだりした時はおもいきり叱った。（9月当初のバロンだったらそれをやったらますます人間不信になり、人間に対して恐怖心をいだくかもしれないと思い極力叱ることは避けたのだが…）私がバロンに要求するようになってから、しばらくはバロンも言う事を聞いてくれうまい具合にいていたのだが、急に機嫌の悪い日が2週間位つづいた時があった。まるで9月のはじめ頃のように。1度、私がおもいきり叱ったら蹴り返してきたことがあった。不意に頭を“ガーン”となぐられたようなショックを受けた。一体何がいけなかったのだろうか？バロンへの要求がまだ彼にとってはきつかったのだろうか？いずれにせよ、まだまだ私がバロンにとって信頼のおける存在になりきっていない証拠であった。しかし、いつまでも甘やかすわけにいかず“我慢して人間の言う事をきかなきゃいけない時もあるんだ！！”ということを教える為、少し叱りすぎかなとも思ったが、私は態度を変えなかった。しばらく陰悪な状態がつづいたが、気が付いたら私のいうことをきくようになっていた。そして冬合宿の頃にはかなりおとなしくなり、一年生でも安心して手入れを任せられるくらいになっていた。

まさに「3歩進んで2歩下がる。そしてまた3歩進んで…」といった具合だ。新馬と接する時はあせってはいけない。一つのことを教えるには時間がかかる。馬の一つ一つの反応には敏感でなければいけないが、それに一気に優してはいけない。“まあ、そんなこともある”程度に大きく構えられる心の余裕が必要であると痛感した。

#### ・曳き馬に関して

はじめは重文しか行かなかった。馬にも自分にも自信がついてから獣医や低温研の方へ行くようにした。これも急激にはではなく徐々にバロンの行動範囲を広げてやるつもりで。ものを見て興奮するということがあまりなかったので、比較的いろんなところへ馴致に行くことができた。6月頃には月曜日の朝などに農学部前まで二人曳きしていったことがあったが、二人曳きをするまでもないほど落ち着いていた。

#### ・馬体に関して

競馬時代に右前のつなぎの部分骨折しておりボルトが2本入っている。言ってみれば右前に爆弾をかかえている状態だ。慢性的に右前に微熱をもっていることと左前管の骨りゅう（3月上旬にできてし

まった) 以外には悪いところはない。骨りゅうはもうかたまっており心配はない。右前肢をかばう為、肩や腰に負担がかかってくる可能性があるので時々マッサージをした。今のところ痛がる様子もなく大丈夫である。気にかかるのはやはり右前肢であり、速歩で跛行をする。駆歩も右手前はしづらそうだ。しかしこれは痛がって跛行しているというよりは、むしろ“気にしている”という感じであり、跛行の程度がひどくならない限りはそれ程気にしなかった。治療としては水冷のみ行い、運動量が多い日はインテバンを使うようにした。その方がインテバンの効果が強い。

・運動に関して

<9月~12月> …調教者-長屋さん

\*調馬策

馬休日以外毎日、両手前駆歩まで行く。右前つなぎが悪い為、右手前での調馬策は特に嫌がりよくぶっ走ったりした。その為左手前からはじめることが多かったが、時々右手前から行くことがあった。長屋さん曰く、「バロンは左口がかたく左手前だと外に外に逃げようとして反抗する。が、この反抗は意識的なものでなく、無意識の反抗だ。それに比べ右手前では無意識の反抗はあまりない。(右口の方がやわらかいため。) だから無意識の反抗の少ない右手前からやるんだ。また両方とも意識的に反抗するのならどっちからやっても同じだ。」ついつい意識的なものにばかり目がいきがちだが、無意識のうちにしてしまうこと-それが良いことであるにしろ、悪いことであるにしろ-人間がもっと気付いて調教していかなければいけないと思った。特に新馬の場合は。

調馬策では輪の中に横木をどんどんとり入れた。飽きがこないように、というのと地上に置いてあるもの(この段階では横木だが将来的には障害)への注意力を養うためである。バロンをみていると横木への注意力はあるのだが緊張状態が長続きせず、すぐにサボろうとする。なるべくサボらせないように、飽きがこないように、一周まわるごとに横木の位置を変えたり高さをつけたりした。

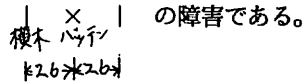
私がバロンの調馬策を見て強く感じるのは、人間の要求に対する対応の仕方が両極端であるということだ。1つには“納得して”というよりは“あきらめて”いうことをきく。そしてもう1つはちょっといい緊張状態を乗り越えてプツンきってしまうのだ。長屋さんとバロンを見ていると、長さんはいつもバロンがプツンくるぎりぎりのところまで要求し日々闘っているように思う。当面の要求は声に素直に俊敏に反応し移行ができること。この移行をすることによって馬が人間に注意を向けているかどうか人間に従順であるかどうかということがわかるのだが、バロンの場合、速歩まではすぐに出るのだが速歩から駆歩がなかなか出ない。右手前ではまだ不器用なため駆歩を出したくても出せないといった感じがあるのだが、左手前ではバロンの状態から考えればすんなり出るはずであるし、また人間もそれを要求しなければならない。9月20日の日誌に次のようなことが書いてある。『今朝はいつもの丸馬場をエンゼルが使っていたため初めての困いなしでの調馬策だった。右手前からだった。やはりいつもより反抗の度合いが激しくハネまくり。駆歩は要求しなかった。次に左手前。バロンは“すきあらば逃げよう”というような顔をしていた。長さんは駆歩まで要求した。バロンは“いやだぁー!!”と言ってハネる。それでも長さんは要求。またしてもバロンはハネる。それでも要求。ついにバロンはクチャクチャになった。長さんはニコニコしながら“こーれ、自業自得だぞ。”と余裕の顔。そしてま

た駆歩を要求。ついに観念したのか素直に駆歩を出した。すかさず寝る。“そーだ、バロン。いいぞお。”バロンも本当に“参りました。”という感じだった。』長屋さんとバロンとのやりとりからは本当に学ぶものが多い。

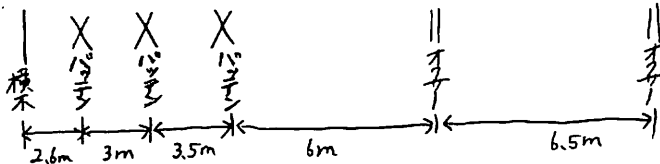
この日以来バロンが変わってきたように思う。それまではかなり自分勝手にやっていたが“人間の言う事を聞かなければいけない”ということがわかってきたようだ。また人間から何を要求されているのかもだいたいわかるようになってきた。

**\*障害**

人間が騎乗して駆歩をはじめてから1週間後にはじめて障害を飛ばせた。



飛び方は大きくとても強いものを感じる。冬合宿に入る頃までにはH80W90のオクサーやコンビネーションも飛ぶようになっていた。



**<1月~4月>**

1月に入ってから長屋さんがPに専念したいということでバロンは堀川と私で騎乗することになった。堀川が北玲に騎乗している間、私がバロンに乗って外乗へ行き、帰ってきてから堀川が調馬策を回しそのあと騎乗。土、日に障害を飛ぶという練習パターンで行った。

**\*外乗-9月下旬から行きはじめる**

ものを見て興奮するということはあまりなく新しいものには自分から近づいていく。牛や羊などは、はじめのうちは近づこうとしなかったが何べんも行っているうち柵のすぐ近くまで行くようになった。物にはあまり動じないバロンも音や雰囲気にはとても敏感だった。ゴーゴーと機械音のする工学部裏や獣医の裏にはあまり行きたがらなかった。又、雪の降った冬の朝というのはとても静かなものだが、そんな日は構内ならどこでも、構外では東区の方まで行けたほどだ。その時も物音のするところに近づくと心臓がドキドキしていたが、そこから遠ざかったらまた落ち着いた。除雪車はすぐ間近を通らない限りは大丈夫だった。この他に『穴』と『水』が苦手であった。穴や水溜まりの馴致のときは3回行かせようと思っても行かない場合は無理に行かせることはしなかった。しかし、私が『これくらいなら行ける』と判断した時は、自分が下馬して曳くなど、どんな事をしてでも行かせるようにした。またギャランなど古馬と一緒に外乗へ行くとそれまで嫌がっていた場所もすんなり行ってくれた。この方法は新馬にとって効果的な方法だと思う。バロンは緊張状態が長続きしないので外乗では行き慣れたところとそうでないところをおりませるように行った。

**\*調馬策**

乗って馬体を柔らかくすることができない為、調馬策で行った。調馬策ではコンタクトを保つことが



### \*調馬策

乗って馬体を柔らかくすることができない為、調馬策で行った。調馬策ではコンタクトを保つことが第一であった。少しでもコンタクトがはずれると手の内に入らなくなってしまう。コンタクトを保つには馬に前進氣勢をもたせ、ゆずった時にゆるしてやる。このタイミングを逃してはいけない。推進をおこたらずに、ゆるしてやることができれば首を斜め前下方へのぼし背中を使って大きく歩くようになる。後駆の踏み込みもよくなる。ただし、すぐにさぼろうとするので鞭を“いつでも使えるぞ”という状態にしておくことが大切。4月に入ってから私が調馬策を回すようになったが、円を大きくするとコンタクトが保てず、又推進不足になってしまい全く手の内に入らなくなってしまう。その為つい円が小さくなってしまった。5月に入ってからパロンの跛行が急にひどくなったが、このことが直接の原因なのではないかと思う。馬体管理責任者として取り返しのつかないことをしてしまった。本当に申し訳ない気持ちでいっぱいである。

### \*障害・フラットワーク

フラットワークではまず前に出すこと。ハミ受けはあまり考えずコンタクトを保つ程度にした。右前肢の心配があるため運動内容はある程度限られた。小さい巻き乗りは避ける、旋回はやらない、駆歩から停止の移行は行わない。限られた運動の中で馬の緊張を高めるのに苦労したが、人間が静かに乗り雑音を少なくすること、自分の扶助に対する馬の反応にもっと敏感になりすぐに対処をすること、運動を細かく区切り途中に不整地などを入れて飽きさせないなどによりある程度は緊張させることができた。脚は打脚しかわかっておらず、打脚からきちんとした脚を教えることが課題であった。

障害は12月までと同じコンビネーションを行った。最初のバッテンをかけてから8飛越目くらいまではリズムよく良い飛びをするのだが、それ以降になると体力不足の為に障害の途中から失速しだす。この為コンビネーションは1回飛んだら次々とかけていくことにし、飛越回数を少なくした。もっと体力をつけなければとも思ったが、今急いで右前を悪くしてしまったら元も子もないと思い無理はしなかった。

### <5月>

5月に入ってから調馬策で右手前の駆歩がでなくなった。跛行もひどくなってきた。痛そうである。右前の脚を痛めてしまったようである。野中さんに見ていただいて“この状態が続くようじゃ、難しいんじゃないか”と言われた時は目の前が真っ暗になった。とにかく馬休にし肢の様子を見ながら運動を再開するより他になかった。運動といってもしほらくは気分転換、馴致を目的とした外乗のみである。放牧もしほらくはなし。5月中はほとんど運動はできなかった。蹄鉄と蹄の間には、太田さんをお願いして両前にゴムを入れていただいた。

### <6月～8月>

パロンが実際に運動らしい運動を再開したのは6月11日からだ。丸1カ月のブランクであった。馬休前の状態に戻すまで8月いっぱいまでかかった。

パロンは人間の気持ちに非常に敏感な馬です。

どうかこれからも愛情をもって接してあげてください。

最後になりましたが、バロンを通して、馬を通して、本当に数多くの方々にお世話になりました。この場をかりてお礼申し上げます。特にバロンを診ていただき心配して下さった水野さん、本城さん、坂本さん、太田さんには本当に感謝しています。

そして最後の最後まで未熟な私を支えてきてくれた仲間から心から御礼を言います。

“ありがとう”

**車の免許**

親切な指導

大学生協指定

**普通 大型特殊**

北海道公安委員会指定 <技能試験免除・初心運転者講習機関>

**北海道中央自動車学校**

〒065 札幌市東区北25条東1丁目(創成川沿い)

**TEL.(011)711-3344**



**中古車と整備**

民間車検工場

株式会社 **北大モータース**

札幌市北区北18条西5丁目 ☎726-1526

## 北 遙 号



騙 サラ 鹿毛  
昭和62年4月17日生  
浦河郡浦河町産  
父 ベストブラッド  
母 カワチカホ  
競走名 ベストエンゼル

エンゼル  
北遙

細い体で、よく食べる。  
神経質ではあるが、馬房はきたない。  
弱虫のくせして、ケンカを売る。

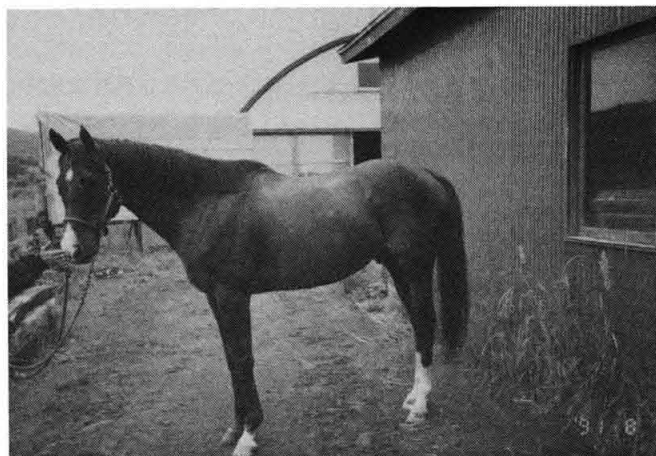
こんな彼の欠点も、幼さ故のことでしょうか。  
時が経てば、少しは貫禄もつくでしょう……？  
と思いつつ、今日も曳き馬でピョ————ン

チキンをどうぞ

モ モ セ

札幌市豊平区真栄123番地  
TEL 881-0470

## クラウン号



牡 サラ 栗毛  
昭和58年3月30日生  
北海道浦河郡浦河町産  
父 サンプリンス  
母 セーナ  
競争名 リンドクラウン

## クラウン調教報告

松島 健滋

始めに断っておかねばなるまい。クラウンは、チーフとして私が騎乗していたが、調教に関しては北水全員、主に四年目である3人（田村、橋本、松島）で行なったものであることを踏まえた上で、代表して私が独断と偏見も含みつつ了解を得て書くことにした。ご存知の通り、この馬は昔北大にいた馬であり、東山乗馬クラブにお世話になった後、我々が無理を言っていたいただいた馬である。クラウンが東山乗馬クラブにいたころの話は省略し、高村さんの牧場へ移ってからのことを書こうと思う。

休養馬を扱っている高村さんの所へ初めて連れていった時には、背中と腰が悪く、まともに速歩ができなかった。とにかく痩せていて高村さん曰く、「病気か?」であった。まずやらねばならぬことは、とにかく歩かせて筋肉をつけ弱いところを固め、食わせて太らせることだった。11月も終わりに近い頃の話だ。この頃の練習といえば、とにかく調馬策をまわすことがほとんどで、騎乗は最後に5分位するだけで、左右まんべんなくほぐし、どちらかと言えば左がかたかったので、多少左回転を多めにしたりして我々のシーズンへ向けての挑戦を開始した。

調馬策では、とにかく半ば強制的に首を下げさせ後肢の踏み込みに重点を置き、こちらの合図で三歩様ができるように躡けることから始めた。調馬策の経験がほとんどない馬であったので、最初の頃は難儀させられたが、次第に完璧とはいかないものの、それらしい形になり、馬の方も理解してきて肉付きもよいとは言えないが、運動に支障がないくらいにしたつもりである。その頃はもう真冬で、馬場は凍り、札幌と違って雪の量が少ないので、地面の状態は最悪で、常歩しかできない日々が続いた。騎乗してすることは、ハミ受けと二蹄跡運動、輪乗り、後退、発進停止、（停止では必ず四肢をそろえる）という基本的なことのみ全て常歩で行った。このことが良かったのか、扶助に対して敏感になり、平たく言えば軽くなった。この馬は重いといわれるのが常であったので、（下級生が騎乗すると動かないよう

なことも多かった。)その意味では問題はひとつ解決した。そして、しつこい程常歩での二蹄跡運動と輪乗りの開閉をして後肢を踏み込ませたことで、腰も良くなり2月の雪が積もって馬場の状態が良くなった頃に三步様での練習、調教ができるようになった。そして、今シーズンは来シーズンへつなぐためにと話し合っただけで馬場馬術競技のみ出場することにした。とにかく、こちらの扶助に対し正確に反応すること、将来的に総合に挑戦できるだけの体の柔軟性を持たせることを大事とし、そして何でも良いからとにかく結果(戦績)を残し、必ず入賞することが目標だった。この考え方には勿論批判する方々もいるだろうが、我々は勝ちたかった。そのために悪天候、馬体の調子(メンタル面も含めて)の悪い時以外は馬休は設けず、前ばかりを見て突っ走った。そして、あっという間に自馬大が目前となり第二課目に3鞍エントリーすることにし、私と下級生二人が騎乗した。あまり物見したりする馬ではなかったので、練習馬場でのフラットワークはうまくいったと思われた。多少緊張しているくらいなのが、この馬はよく動かし、問題はないとタカをくくっていた。ところが、馬場埒(競技時の)の中に入ることが初めてだったので、試合になったとたん馬は重くなり、更に埒に1メートル以上近付こうとせず、かなり内まわりの経路をまわっていたし、メリハリもほとんどなく、良く言えば、2鞍目、3鞍目のための馴れ行為、悪く言えばへたくそ、と映ったに違いない。事実2鞍目以降、馬は馴れ無難に経路をまわっていた。結果は惨敗だった。今後の課題の多さに頭をかかえた。北水始まって以来、自馬を試合に出すことは十数年ぶりと言う事で、と、この結果は素直に受け止め、公認を目指すことにした。

函館に帰り、自馬大での悔しさを晴らすために、もう一度基本運動に戻り、繰り返し練習し、メリハリをつけることにも留意し、これはと思うことはほとんど試し、道具も使って自分の未熟さをかえりみず、馬にあらゆることを要求してみた。幸いにも、クラウンは大変素直な馬で、強い道具を使ってもひっくり返るような反応は見せず、私の試行錯誤にこたえてくれた。色々なことを試すことは馬にはかわいそうだが、恐れていては発展はないと信じていた。学生賞典がちらついていたせいもある。まがいなりにも、それらしい形をつくり、公認には賞典と同じ経路のジュニア団体馬場馬術に私と徳本、二課目に田村をと3鞍エントリーした。ジュニア団体の方は、エントリーも頭でその内3頭はセントジョージ馬以上のレベルで、残りはクラウン2鞍と北瑛だった。無謀としか言えないエントリーであったし、北瑛は昨年北日で賞典を踏んでいたもので5位6位クラウンであると、誰もが予想したであろうし、人馬共にレベルからして明らかであったが、当日は意地でも北瑛に勝とうと思って臨んだ。試合内容はとにかく無難に、慎重に回った。踏歩変換がどうしても1、2歩速歩が入ってしまうが、後は普段の練習と変わらず馬が踏んでくれたので結果的に北瑛に僅差で何とか4位になった。馬に感謝したし、やっと北大に近付ききっかけをもてた気がした。二課目はほとんど学生レベルでは差が見られない程になっていた。北日は目前だった。我々の最終目標が刻々と近付いてきた。この頃から私の体調から騎乗の中心は徳本に移っていたが、北日に向けて我々の代の総仕上げということで、できるかぎりのことはした。賞典に向けての課題は、ハーフパスと踏歩変換だった。他に問題が無いとは全く言えないが、課目をこなせるようにしようと、ビデオ、本、人から聞いたことなどから情報を得てやっていたが、結局その課目をこなすには、技術と時間が足りなかった。北日では賞典と二課目にエントリーをした。賞典は全くうまくいかなかったが、二課目では、2位という好成績を残してくれた。やっと結果が出た、ということで感無量だった。来シーズンへつなげることができたと思う。結果を出すも出さないのもあらゆる要

案が必要であることと、正しい調教報告をすることが最も大切であることは、他の調教報告や過去の偉大な先輩方のものを読めば全くその通りである。技術面、メンタル面、成功例、失敗例の全てがそれを物語っている。しかし、一番根本的に重要なことは、何とかして結果を出そうという意気込みであると信じている。現に我々はそれだけであったと言っても過言ではない。

以上、我々がここまでやれたのは多分馬がクラウンであったからである。全く手のかからない馬であり、馬体は丈夫でケガにも強く、大食漢である。欠点といえばもともと体の線が細く太らない性質であることと、前肢の間が狭いことである。この馬でなかったら、おそらくうまくいかなかったらと思う。クラウンには感謝と畏敬の念をいただき次代に託する。

コンパ予約受付中  
ボリューム満点！  
コンパ200人OK！

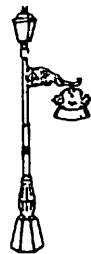


当店誕生日、御利用の方には  
カラー写真・シャンペン・粗  
品を差し上げます。

焼鳥 ■ 居酒屋

きよた

札幌市北区北17条西5丁目北向き  
TEL 747-7000



手作りソースの店  
COFFEE & RESTAURANT

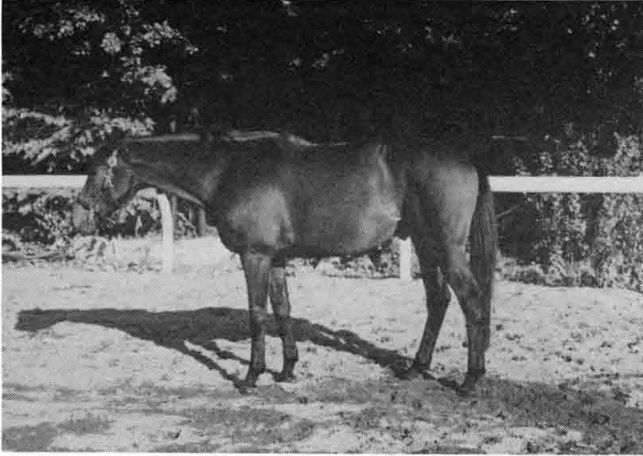
Firenze

フィレンツェ

北17条西5丁目 三央ビル2F ☎ 726-8880

## 新馬紹介

### アブサロム号



騙 サラ 黒鹿毛  
昭和60年3月27日生  
北海道早来町産  
父 リアルシャダイ  
母 サワーオレンジ  
競争名 アブサロム

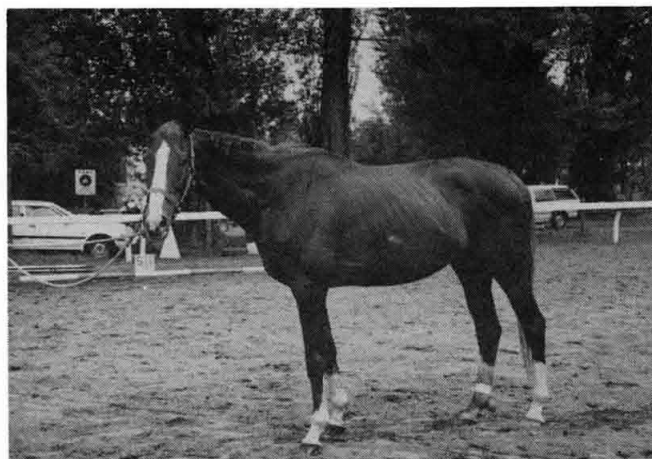
### アブサロム号新馬紹介

永田修

リアルシャダイを父に持つ。競走馬としては現在いるどの部馬よりも良血馬であるが、乗用馬としての資質はもう一つの様でこの夏ノーザンホースパークの御好意?でこの北大にやってきました。この馬は最初から練習馬として使っていくという方針でした。少し気性が荒いということで、入厩したの頃は上級生が乗っておりましたが、ここの環境に慣れたのか、運動し過ぎて疲れているのか、現在は1年生の練習にも多用されております。、馬体は小柄ですが丈夫で、練習馬としての資質はある様です。障害を飛ばすとすぐにかかっていくので、競技に出る馬になれるかは分かりませんが、できれば使える馬にしていきたいと思っています。

## 事 故 報 告

### ドラールボーイ号



騙 ア・ア 栗毛  
昭和60年4月13日生  
静内郡静内町  
父 フォーモサボーイ  
母 リニアホマレ  
競争名 ドラールボーイ

清 水 礼 子

北海道競馬から栗毛のアングロアラブ、牡馬、7歳が6月6日入厩した。休養明けの出走後、成績不振のため、乗馬として北大に来たのだ。筋骨隆々として毛づやも良い現役の競走馬、これがドラールボーイの第一印象だった。馬っけがあるという話で、色々な事情から入厩翌日に北大獣医で去勢を行った。

手術後の体力の回復を待ち、25日より調馬索による調教を始めた。おとなしくて、人なつっこく、私の拙い初期調教にも素直に従ってくれた。初めはおっかなびっくりだった私も、彼の物覚えの良さに毎日の練習が楽しみになった。一度だけ見せた反抗も私の要求が悪かったためで、しまったと謝った後は何事もなかったかのように練習が続いた。印象に残る練習である。

馬体管理は池田弟が行った。皮膚病、フレグモーネと丁寧に治療にあたってくれた。7月末はフレグモーネでの馬休が続き、8月の北日出発前日に初めてドラールの背にまたがった。そして、これが最後となった。

8月11日。2年生が騎乗して練習中、トラックに驚いてか奔走。隅角にて右第1指骨(右前繋骨)を骨折し停止した。“予後不良”北大獣医で診断を受けた。粉碎骨折だった。北日中ということで私たちの帰札を待つことも考えた。しかし、苦痛をいたずらに延ばすよりはとの判断で、安楽死を選んだ。

北里で突然の悲報を受けた私はただただ涙した。あんなに涙が止まらなかったのは祖父が亡くなって以来だったか…。騎乗していた下級生、調教を依頼していたOB、そして在札の下級生達は、ましてや…。

たった2か月たらずの部馬であったが、写真の中のドラールのリバノールの色はまだ褪せない。



平成3年度のシーズンでは、前記清水姉の事故報告にあるように新馬ドラールボーイ号が死亡するという事故がありました。

昭和58年度にも、勇勝号が怪我のため離厩、死亡しています。今後二度とこのようなことがないように注意する意味を込めて、部報29号より勇勝号の離厩報告、またこの事故にあてて部に寄せられた嶋田(旧姓・現在鈴木)明美姉の手紙の一部を掲載させて頂きたいと思います。

部報29号より

牛舎の付近で曳馬をしている時、牛が集まってきたのに驚いて放馬し、コンクリート側溝に落ち、左後肢膝関節を強打、様々な治療を試みましたが、患肢に負重する事がまったく不可能な状態が続き、結局、回復の見込みが薄いということで離厩となりました。

離厩式も、馬場まで出さない方がいいだろうということで、馬房の中で行われました。全日学遠征中のため、人も少なく、行き先が、北楽院や輝魂龍のように牧場などではなく屠場のため、みんな沈みがちでしたが、その中でパールだけは、ニンジンがいっぱいもらえるのがうれしそうで……。

最後の日、外へひさしぶりに出るのがうれしいのか、足を引きずりながら目いっぱい歩いたパール。馬運車に乗る時、周りの雰囲気を感じてか不安そうな目をしていた。あの歩く後ろ姿と、かなしそうな目は今も心に焼きついてはなれません。

おやすみ、パール。

パール 永遠の眠り…… もう痛みは感じない。

馬にケガをさせるな!! 絶対に! パールを忘れるな!!

☆11月2日当番日誌(谷川兄筆)より☆

嶋田明美姉の手紙より

～略～ 今日にはパールのことについて考えることがあって、手紙を書いてもらいました。もしかしたら、みんな分かっていることかもしれないけど、パールの離厩は輝魂龍の離厩とは全く違ったものです。国枝とも話したんですが、パールを離厩せざるをえなかった原因というのは、すべて部員のつくったものでした。

ひとつひとつあげていけばきりはないんですが、まず、狭い馬繋台に新馬を入れたこと、馬繋台の横の横の棒が角材だったこと、子っこを繋ぎっぱなしにしといたこと…など。二度目の怪我に関しては、私には状況がよくわかりませんが、必ずしも不運だけだったとはすまされないことがあったと思います。

それから、馬休の間のことになりますが、ああいう長期の馬休になった場合、当然退屈というものが出てくるはず。私が見た時パールはさく癖を覚えかけていました。それなのに、向かいの

馬房にオオカリを入れたことも、かなり無神経なことだったし、それ以前に青草や乾草をたやさな  
かったこととか、ちょっと遊んでやるとか、そういうことが本当に大切だったんじゃないかと思  
います。もちろんチーフ、サブチーフが努力していたとは思いますが、二人だけではどうしてもカバ  
ーしきれないところがあったと思います。

だから、みんなにもう一度考えて欲しいことは、自分達、一人一人が馬術部員であり、馬一頭一  
頭が部馬であるということです。あたりまえのことかもしれないけれど、たとえば各個で草刈をし  
てきて、それを自分の馬にやろうとした時、他の馬房で前かきをしている馬にも少しでいいからそ  
れを分けてやって欲しい。夕当の時、自分の担当でない馬が残っているのに自分の馬ばかり手入れ  
したり、草刈にいつてしまったりするようなまねは絶対にしないで欲しい。誰でも、自分のついて  
いる馬が一番かわいいのは当然だけれど、もっと全馬に目を向けて欲しい。上級生、下級生をとわ  
ずです。

二度とパールのような不幸な馬をださないために、もう一度馬術部と馬達に対する自分達の考え  
を見つめ直してみてください。私自身もそれができていたとは思いませんが、復帰してからは、そ  
れを第一に考えていくつもりです。

これから冬になります。今までとは違った怪我の増える季節です。役員交代コンパで国枝がいっ  
ていたように、怪我は治すより、まずさせないことが第一だからみんな心がけてやって下さい。

～略～

(この手紙を掲載するにあたり、快く御了承下さった鈴木姉には、大変有難うございました)

ぶた 丼

い っ ば ち  
ー ハ

私は“Healthy”にこだわります。

そこで、お肉から脂を全部取ってみました。

もちろん化学調味料は一切使用しておりません。

住所 北18西5

☎ 737-3818

営業時間 AM. 11:30~PM. 9:00

## 🐾 北大の馬たち 🐾

### 北皇子 (ギャラン)

ギャランは 北大馬術部の看板である。

ギャランは 頭がいい。彼と視線が合うと、舌をベロンと出したり、お手をしたりする。そんな時、私達は何かあげなくちゃ、という衝動にかられる。そう、彼はおいしい物をもらえる術を心得ているのである。

ギャランは美しい。障害をとぶギャランの姿は、太陽の光を全部吸いとったように光輝いて、はっとする程美しい。

そして ギャランは 私の師である。一生懸命に障害を飛ぶ姿を見てみると、どうしてそんなに一生懸命になれるのだろう、と考えさせられる。また、嫌なものは嫌！というきっぱりとした態度。だから、ギャランのサブである事は、大ざっぱな性格の私にとって、とても勉強となるのである。

そんなギャランの事を私は、いつしかギャラ様と呼ぶようになったのだ。

### 北銀 (ぎん)

今日は、北大馬術部のエース、北銀さんにインタビューです。

「まず、お名前は？」

「北銀と書いて、しろがね、この読み方気に入っています。

馬術部の中では、一番ナイスな名前です。」

「お年は？」

「君、年なんてどうでもいいじゃないか、

でも、実際よりも若く見られることは、確かさっ！」

「では、好きなタイプは？」

「形は整っていなくても、大きくてたくさんあるのがよいですね。

えっ、にんじんのことじゃないのかい？」

「…、ご自分のチャームポイントは？」

「えーと、ちょっとたれ下がったあごと、やはり、鼻のポッチでしょう。

馬術部の女の子はみんなこのポッチを押ししたい衝動にかられるようです。

女の子に限って、押さしてあげています。」

「女の子のあいだでは、人気が高いとか？」

「ええ、一番かっこいいと自他共に認めています。

僕が首をもちあげて遠くを見る姿は、本当に絵になります。

よく、女の子の視線を感じますね。」

「はぁ、そうですか…、どうもありがとうございました。」

### 北玲（おぢょう）

お嬢と言えば、美空ひばりではなく（ふ、ふるい！古すぎて誰もわからんじゃないか）、もちろん我が北大馬術部の看板娘、北玲です。臆病で寂しがり屋で、ちょっと神経質。人見知りもするけど、一度慣れてしまえばこちらの愛情を何倍にも返してくれる、素直なかわいい馬です。鼻をもぞもぞやってねだられると、こちらも「ふふふ、うい奴よのう」と思わずにんじんをやらすにはいられません。お嬢もそろそろおばさんの年齢かな、いや、でもやっぱりお嬢さんだよね。その永遠の若さで、これからも北大を引っ張ってくれると信じています。

### 北凜（プリ）

眠た気に、頭を垂れて

半端閉じたその長い睫の向こう、夢見るような眸を隠す。

不意に夢から醒めたように、彼女はゆっくりと首をもたげ見つめるのは、風？それとも、何？

遠くを望む眼差しが、気まぐれに私を捕える。彼女はしばし私を見つめ、それからおもむろにその愛らしい顔を近付ける。

ねえねえ、何か頂戴？

と、いうわけで、彼女は北大馬一番の美人（？）、プリです。彼女の色っぽい視線に出会うと、女の私でさえ思わず顔を赤らめてしまいます。朝、白い身体をどんなに黄色く染めていても、彼女から一生懸命おねだりされると、何もかも許容範囲だと思えるから不思議です。（美人は得だね。）とってもprettyな彼女。一日つきあったら、もうその魅力のとりこです。

### 北駿（チャフル）

イメージカラーは紫。

馬らしくないとか人間っぽいとか言う人もいます。

顔立ちは美しく毛並みもよくスタイル抜群ですが気だての方がたまにちょっと…。ブラシがけの時、腹帯をしめる時など、かぶりといかれた一年生は結構いるのです。その後には芸術的ともいえる歯型と青じみが残ります。それでもみんなおちゃめなチャフルを嫌になったりしません。人に好かれるタイプなのでしょう!?さらにお上品な彼は馬房からにんじんをねだるなんておげれつ（チーフのことば）なことにはしないし、ポロだっってなるべく我慢して馬房でします。

元気に走り、軽やかに障害を飛ぶ姿はもちろんのこと、彼が馬房でポーっとしているのを見ていると、不思議と心がなごみ楽しい気分になってくるのです。

### 北瑛（ギャロップ）

ハードボイルド バージョン

オレの名前は北瑛。ゲッ。通称ギャロップ。ゲッ。しかしヒトはオレのことをギャロとかギャロギャロと呼ぶ。この呼び方はオレはキライだ。ゲッ。まるでゲロゲロといっているみたいで、このオレ様に

はおよそ似つかわしくない。(耳をふせてた齒をむく。)表の職業はスポーツ選手である。ゲッ。おっとそこらのアマチュアと一緒にしないでくれよ。オレ様は超一流のコーチに指導してもらったんだぜ。ゲッ。自分でいうのは何だが、オレは北大で一、二を争う色男である。ゲッ。この細いマスク、大きな瞳、白く均整のとれた体、どれをとってもいうことなし、フッ美しい、かっこいい、我ながらほれぼれするぜ。ゲッ。オレの楽しみはポロをつまきまくって専属召使い(人間はサブとかいっているようだ)を困らせることだ。他にも奥パドックでねる、蹄洗の時に足をあげない、という手も有効である。それから銅付前のオレ様はこわいぜ。特に投げ草。さて明日もヤツらを困らせて楽しむとしよう。

### 北馬 (くま)

クマは  
くさい おもい  
です。でも、  
個性的 暖かい おとなしい 飼食優 です。  
そんな和やかなクマは今日もゲップに動んでいます。  
クマは他の馬に惑わされることもなく、  
マイベエスです。  
北悠、北友ですナ。

#### ●くまクイズ (だんだんレベルupしていきます)

- ①くまの色は？ a. 黒鹿毛 b. 青毛
- ②くまの星の形は？ a. イナツマ b. ハート
- ③くまのイメージカラーは？ a. 赤色 b. 黄色
- ④くまの癖は？ a. ゲップ b. 前かき
- ⑤くまは飼を外にこぼす？ a. こぼさない b. 1/5 ぐらいはこぼす
- ⑥くまはません棒でゲップしすぎて馬房を壊した事がある？  
a. ある b. ない
- ⑦くまは飼を食べおわるのに何分ぐらいかかる？  
a. 5分 b. 30分
- ⑧くまは曳き馬から帰ろうとすると、いやがってどうする？  
a. 耳をふせて聞こえないふりをする  
b. おシッコをする(マネをする)
- ⑨くまはニンジンをおねだるときどうする？  
a. 人の顔をなめる  
b. 前かきをしながら口をあける
- ⑩くまの困ったときの顔は？  
a. 鼻の穴を膨らませる

b. 目を三角にする

⑪くまは鼻の穴をふかれるのが好き？

a. 好き      b. きらい

⑫くまは朝どっち側にボロをつけている？

a. 右      b. 左

さてあなたは何問正解でしたか？

全問正解 今日からあなたはくまのチーフです。(責任は負いかねます)

10~11 問正解 なかなかスルドイ。これからもくまをかわいがって下さい。

8~9 問正解 もうひと息です。もっとくまをよく観察して下さい。

6~7 問正解 一度くまのサブをやってみて下さい。

4~5 問正解 日々努力し、くまを理解することに努めて下さい。

1~3 問正解 重傷です。一日一回くまと会話することを義務づけます。

正解なし あなたは馬術部員ではありません。一度くまに会いにきて下さい。

こたえ ①a ②a ③b ④a ⑤b ⑥a ⑦a

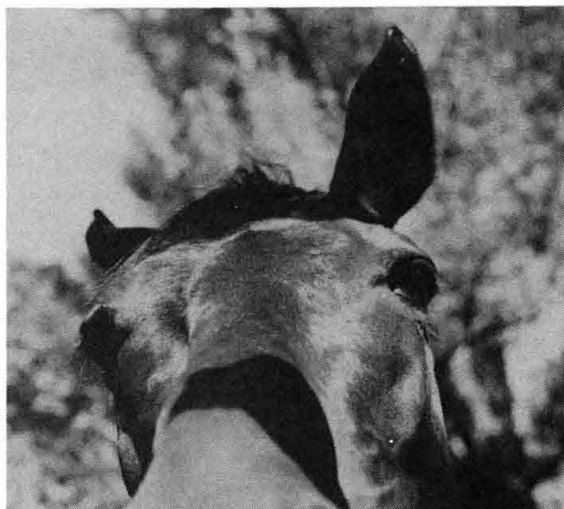
⑧b ⑨a ⑩b ⑪b ⑫a

### グレンエトワール (エト)

エトワールは、ウシとかバタとか言われているけど、れっきとしたサラブレッドです。ホップタが大きいのは、牡馬の特徴ですが、タマツきのわりには、ちょっと弱虫です。エトワールが強い子に育つように、みんなかわいがって下さい。

### パシオン・M (P)

父アローエクスプレスは、スプリンターの血が濃く、現役時代は、14戦7勝で、3歳時は5勝不敗。4歳時は京成杯に勝った後スプリングSと皐月賞で歴史に残る名勝負をタニノムーティエと演じて2着。NHK杯で一矢を報いたが、一番人気に推されたダービーでは完敗の5着。距離の壁に泣いた。となんでお父さんの紹介ばかり書いとんねんと突っ込んでいる人もいるでしょうが、なんで僕がこれを書いたかという、Pのあのすごい、誰が見ても惚れ惚れするような跳躍、あれは父から受け継いだあの筋肉、あの脚力があってのものと勝手に判断して、それを説明する



ために趣味に走ってしまいました。すいません。

それでPはどんな馬かと言うと、さっきも書いた通り能力はすごく高いけれど気が小さく、神経質でちょっとしたことにも驚きます。でも馬房の中に居る時はボーッと外を見てることが多く、いつもとは大違いです。しかし、曳き馬となると暴れる暴れる。道路では車に突っ込んで行き、重文の中では『フェラーリのマーク』の様に立ち上がります。今までサブになった人たちはみんな『サブと他の人を区別して覚えてくれている』と言っていますが、ほんまかな？

今までは足を故障することが多く、大きな大会に出ることが少なかったけど、これからはその雄姿を全国に轟かして欲しい、またその鞍上には・・・と願っています。

がんばれ P。

### 明日繪 (シケレペ)

おまえはほんとによく走るなあ。一年生に乗られたらいつのまにか切れて突っ走っているぞ。まあそんなに走るのが好きならこれからも思うぞんぶん走ってくれよ。

いっぱい運動するわりに足はぜんぜん平気で故障して乗れないなんてことはほとんどない。エサはよくたべるし、たべればたべるほど動きたくてしょうがなくなる。これほど元気いっぱいなのに実は年が15、もう馬としてはおじいちゃんなのだ。よく分からない元気さだけど、これからもこの調子で試合でももっともって暴れまくって、これからの北大の主戦馬となって行ってほしいぞ。

以前シケレペはよく人をかむ馬だといわれていたが、もうそんなことはなくなったな。僕も全くかまれたことはありません。もちろん足げりなんてしないし、ブラシがけも嫌がるどころか、むしろ好きなくらいです。

でも、おまえは一人ぼっちになるのがとても嫌なんだよな。曳き馬に連れていくと、いつも馬がいる所についていて一人でもくもくと草をはんでいることはめったにないんだ。そして誰かが曳き馬から帰ろうとすると、すぐ後について帰りたいがる。もっと草をいっぱい食べてればいいのにと、いつも思うぞ。

最後にケガをしないで元気におもいきりつぱして気持ちのいい汗をいっぱいかいていってくれよ。それがおまえのいいところであり、誰にもまねのできないものなんだからな。

### ファストバロン (バロン)

右前肢のつなぎにボルト、左前肢の管に骨瘤があり、長い馬休を過ごしたこともあるバロンも今はまた、みんなと一緒に練習に加わっています。練習前と練習後、そして夕方の手入れのときの水冷の退屈さにじっと耐えながら、バロンは思います。

「いつか、ぼくも、東京に行って、全日学で、活躍してやるんだ。」

「でも、その前に、ごはんの量を増やしてくれないかなあ。ぼく、おなかすいた…」

## 北遙 (エンゼル)

彼の馬房の前に立ってみよう。すると彼は、君の左手に鼻をすーと伸ばしてくる。次に右手に鼻をあてる。何がしたいのだろうと思うかもしれないが、次の行動で全てわかる。彼は君のポケットに鼻をつけて、ごそそとさぐりをいれる。そう、彼は君がエサを持っていないか調べていたのだ。持っていないのが、彼に知れたら急いで逃げよう。彼は耳を伏せて、攻撃を仕掛けてくるからだ。

また、彼は、前かき、ゲップ、後肢蹴り、噛む、跳ねる、とぶ、あげくの果てには、放牧中に死んだ様にねるとゆうあらゆる事をこなすオールラウンドプレーヤーでもある。

しかしこんな彼にも弱点が3つある。

ひとつは、『音』である。曳き馬中に、『音』がすると彼は軽快なステップでダンスを踊る。但し、人間にとっては少々怖いかもしれない。

ふたつめは、『煙』である。改蹄の時、赤く焼けた鉄を蹄に押しつける時に出る煙が視界に入ると、暴れます。したがって、彼の改蹄当番には、目隠し係が必要です。

残るひとつは、『水』です。雨の後、彼を曳いている時、時々横に避けます。地面には彼の通り道に小さな水溜まりがあります。また時々立ち止まります。地面には行く手を阻む大きな水溜まりがあります。外乗の時などは、水のせせらぎが聞こえてくるとそこから一步も進もうとしなくなります。

だけでも不思議な事があります。曳き馬から帰って来て、水飲み場で水を飲み終わった後、彼は鼻先で水遊びをします。普通なら嫌いな音ではあるが、何故かバシャバシャと水をかきまわします。

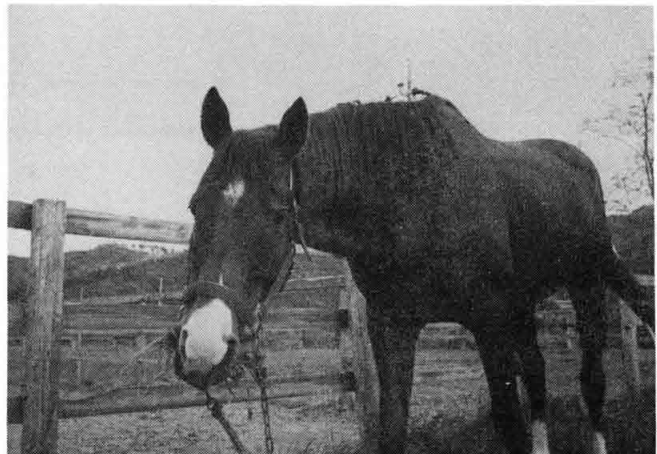
こんな癖の多い彼ですが、結構愛嬌があります。まだ未熟な彼ですが、将来は北大馬術部を背負う程の馬になってくれる事を期待します。

## クラウン

—馬匹紹介とは言いながら—

札幌の本学には沢山の馬がいる。羨ましい限りだ。部員もそれぞれ、好きな馬嫌いな馬、相性の善し悪しなどあるだろうし、チーフとなれば、その馬が絶対だ。個人的な事を言わせてもらえれば、僕にだって好きな馬がいる。チアフルは最初のサブで、いろんな思い出が残っているし、もし札幌に四年間いる事ができたなら、絶対に銀に乗りたかった。

—頭—頭に個性があるのは言わずと知れた事だが、我々が彼等に要求するのは、馬術的な能力。どんなにかわいくても、鳴かず飛ばずの成績は別れにつながる。とにかく札幌のみんなには、今の彼らをうまく乗りこなして欲しい。すでに手の届





かない所に自分がいるのは悔しいけれど。

さて、そういえばクラウン号の紹介をするのだった。彼は北水の唯一無二の自馬。能力、相性、そんな選択の余地などまったく無く我々の元へ飛び込んできた。実は彼、知る人ぞ知る、一度札幌に在籍したこともある。馬体的に難がありすぐに離厩したのだが、その馬が、今北水馬術部の自馬となっているのは、僕とすれば不思議な運命だと思う。彼と出会えた事を、最高に感謝している。すごい馬だと思う。まだ未完の利器。だが来シーズンは、そのみかんを口いっぱい頬張ってみたいと思う。そして最後の一粒は、東京でじっくりと噛み締めたい。

クラウン号に対する思い入れは、並大抵のものでは無く、彼の性格、能力どれも満足のいく説明ができそうに無かったので、馬匹紹介といいながら、このようなことを書かせてもらいました。

### アブサロム (アブ)

ノーザンでは“おぼっちゃま”として大切に育てられ一時間おきにトイレをさせてもらっていた甘えん坊のアブchan。北大での厳しい生活にもなれ、彼は今、佐土谷兄達に修理してもらった外厩でたくましく成長しております。



チアフルとエトワール、あなたはどちらがお好みかしら…？

## 東京OB会便り

1992年の暑い盛りに、札幌より新しい部報と1週間後に北日本学生馬術大会が開かれるとのメッセージが届きました。現役部員の諸君は今ごろ、秋の全日本学生馬術大会をめざして、日焼けした顔で活躍していますこととお喜び申し上げます。東京OB会の近況をご報告致します。

### 平成3年度の活動報告

今年度も、恒例になっております3回の会合を行いました。

1. 春の乗馬会・観桜会 [平成3年5月12日(日)、馬事公苑、出席OB29名、  
家族・友人をあわせると約55名]

昨年につづき、あいにくの雨模様となりましたが、千葉先輩のご配慮により、覆馬場の二階のロビーというこれ以上ない場所で懇親会を行うことができました。

2. 現役部員との懇親会 [平成3年12月14日(土)、馬事公苑、OB17名、現役26名]

例年より約1ヵ月遅い全日本学生馬術大会にあわせて行われた懇親会には、寒さを吹き飛ばすエネルギーな現役部員と東京近辺在住のOB併せて40名以上が集いました。近況報告の交換かんや秋に行われた現役-OB戦のビデオ上映[玉沢さん(S38卒)の解説付き]など、和やかなうちに会は進みました。

3. 平成4年総会・新年会 [平成4年2月15日(土)、ホテルエース高輪、出席OB19名]

平成3年の活動報告、会計報告のあと、現役部員への援助と東京OB会の今後の運営方法に対して援助をおこなうこと、事務局の交代と事務局を現在の一人から三人で運営することが、それぞれ、了承されました。新年会では、東園会長などから、根岸(神奈川県)の競馬記念公苑へのハイキングを行おうという提案がなされました。この秋にも実現する運びです。

4. 現役への援助

平成3年7月に、現役部員の要望を受けて、ビデオカメラを援助しました。その際には、堀川さん(S38卒)にお世話になりました。東京OB会では現役部員の要望にあった物品での援助をできる限り行っていきます。現役部員の皆さん、在札OBの皆様、ご要望、ご意見を事務局までお寄せください。

以上報告しました会合準備の際に、事務局では出欠の確認に葉書を用いています。その返信用の葉書のなかに通信欄を設けましたところ、多くのOBからメッセージが寄せられました。ここに一部を(書かれた方の了解を得ずに)紹介して、近況報告の最後と致します。(順不同)

### ◇平成2年懇親会時(H2/11)

『本日、11/1で昨日が出産予定だったのですがまだ出てきません。この休みは多分函館にいると思います。(予定通り“馬”年の子となりそうです)。』 [上本浩之/S61卒]

『10/10に勤務先の都合によりアメリカの方へ転勤となりました。3年ほどは帰国しないと思います。』

[春田恭彦/S 6 1 卒]

◇平成3年総会・新年会 (H3/2)

『入試、およびその後の処理のため多忙です。』 [渡植貞一郎/S 2 8 卒]

『国際馬術連盟総会(3月17-23日)の準備に忙殺されていますが、遅れて行くつもりです。』

[千葉幹夫/S 3 4 卒]

『浦和市に戻りました。ちょうど一年半東京を離れていまして、今回皆様に又お会いできるのを楽しみにしています。』 [岡本洸/S 3 1 卒]

『妊娠8カ月に入り、食事や睡眠時間などに注意せざるを得なくなりました。苦しくなってきたし、早く(赤ん坊に)会いたいのので5月が待ち遠しいこのごろです。』 [岡本友子/S 6 2 卒]

『昨年8月郡山に移り、現在新居をつくっています。』 [松永武彦/S 4 1 卒]

『やっと東京に戻りました。』 [大場善明/S 3 7 卒]

◇平成3年春の乗馬会・観桜会時 (H3/5)

『相変わらず、日曜・祭日は、少年野球のコーチをしています。あと2、3年はコーチに専念するつもりです。』 [梶村哲世/S 4 7 卒]

『今は水道橋の専門学校で公認会計士受験のための受験生をやっています。厳しい戦いを強いられています。』 [石川信行/H 2 卒]

『北海道に移りました。小さな小学校を事務所にして、昨年よりここで始めています。』

[高野文彰/S 4 2 卒]

◇平成3年懇親会時 (H3/12)

『現役部員頑張って下さい。しかし諸君の健康には十分注意して下さい。』 [松平悌/S 1 3 卒]

『7/7 付けで日本セイルトレーニング協会のお仕事(船長)に変わりました。9月にロンドンのJapan Festivalで「海星号」のお披露目をし、イギリス-地中海-アメリカ-日本と、続きます。気の長い話で、帰国は来年の11月頃の予定です。でも、夢のようなお仕事で元気でやっています。』

[荒木伸也/S 3 9 卒]

『元気でおりますが、乗馬は中止しましたので、長靴、キュロット等一括札幌に送りました。』

[本多桓康/S 1 0 卒]

『青年海外協力隊でセネガルへ、12/11 から2年間の予定で行ってきます。』 [小林佐代/H 3 卒]

『春の会合には欠席してしまいました。実はあの折、少々オテンバをして骨折してしまい外出できなくなったもので…』 [中村美幸/S 3 4 卒]

事務局より

東京OB会の活動に関しますご意見、ご要望を、東京OB会員のみならず、全国のOBの皆様、そして現役部員からお待ちしております。事務局までお気軽にご連絡下さい。

平成4年3月より事務局を名越から、木村洋文(S 5 1 卒)、平山復志(S 6 0 卒)、平石哲生(S 6 0 卒)の三氏に交代致しました。名越が事務局を担当した約3年間には、行き届かない点が多々あったかと思いますが、多くのOBの皆様方にお世話になりなんとか会を運営することができました。この

場をお借りしましてお礼申し上げます。そしてこれからも、実りある東京OB会にすべく、また少しでも現役部員の活躍の助けとなるべく、新しい事務局を盛り上げて下さいますことをお願い申し上げます。

(平成4年 盛夏 名越正泰)

本年度より名越さんに代わり、木村、平石、平山の3人で東京OB会の事務局を務めさせていただくことになりました。3人でうまく連絡を取りながら楽しいOB会となるよう盛り上げていきたいと思えます。何かと手際な点も多いかと思いますが、皆様のご協力よろしくお願い致します。

(平成4年8月 木村、平石、平山)

北大馬術部東京OB会

会 長 東園基文

幹事長 樋口正明

…25年振りの遠征試合…

近藤 喜十郎

1991. 11. 20

11月の連休を迎え空港ロビーはごった返していた。スケジュール通りなかなか飛ばない。長靴は、手荷物にしないで手元に置く。「こんなわくわく不安が混ざった気持ちで向かうのは何時からかな。」と思う。意外と早く千歳に着く。10度以上は寒いのか空気がおいしい。

馬場に近い札幌会館に荷物を置き、現役主将永田君、横幕君、池田君と堀川先輩で顔見せと交流始めた。

5月12日暖かい曇りの馬事公苑、恒例の東京OB会の観桜会。地方に住んでいる私にとってこの会は多くの先輩、後輩諸氏に会えるので一番の楽しみだ。また馬に乗れるのがいい。八木沢君に誘われ障害もまたいでみる。少し不安だったがなんとか出来た。

快い疲労感が楽しいパーティーを一層盛り上げてくれる。席上37年度卒堀川先輩が、「只、乗り会うのでなく、ひとつ札幌へ遠征して試合をしよう。」と提案。これは面白いとすぐに賛成したのが今回の遠征となった。

入部した年。37年度組を中心としたメンバーは当たる所敵なく、当時の最大の試合である7大学定期戦(7帝戦)、全日本学生王座決定戦を制覇した。1年生だった私は度重なる祝勝会に酔いしれた。何時かは我々もと思いつつ鞍数を増やした。幸い4年目に7帝戦に勝つことが出来た。

今度の25年目の試合はそのメンバーが中心、下手な事は出来ない。少しでも馬に慣れるべくオートバイやブルで体力とバランスを養った。

11月2日(土)

まぶしい朝の陽光を浴び馬場に向かう。ぼんやりと馬達が見える。緊張感が堪らなく懐かしい。「おはようございます。」と近付くとあちこちから元気な声が歓迎してくれた。実によく働く集団だ。女性部員が多いのにびっくりしたが、男女隔てなく動く。

堀川先輩と数頭乗せてもらう。

午後、明日の為に百瀬ライディングファームで練習、札幌の市川先輩(37年)、東京の玉沢先輩(37年)も合流、何と暗くなっても続けた。「明日、体が動くかな。」と心配しながらビールを飲みながら作戦会議。

11月3日(日)

天気予報に反して快晴、しかも暖かい最高の試合日和だ。在札OB、OGが続々はせ参じる。子連れのお母さん振りがほほえましい。半沢先生もおいでになる。馬場の回りに会話が弾む。

いよいよ開会式、斎藤先生に岡田先輩が代表して宣誓、相変わらず隅々までよく届く声、年齢を感じさせない。

先ず部班運動、合計年齢200才以上で4頭を動かす。下で見ている人達は何時落ちるかとはハラハラ、再長老の玉沢先輩が一番安定していたと評判。何とか無事に出来た。

障害飛越は万一に備え80以下で大きな回転と簡単な経路を主将が作ってくれる。まともに帰っ

て来れるメンバーとして松井君（45年）が加わる。

玉沢、堀川、市川、八木、近藤の超OBは練習の成果が出てか現役時代のフォームを感じさせ全員ゴール。ただ私は途中に国際規定を知らず審判長に教えられて飛ぶ。

現役諸君が加減をしてくれてなんとか東京OB会が優勝。試合の後でのジンギスカンが美味しかった。

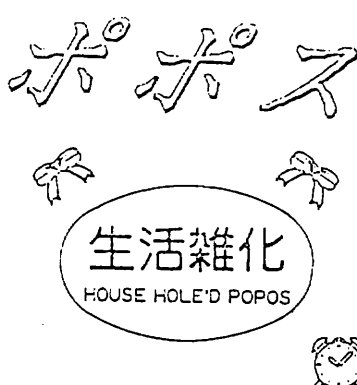
### 感想

今回の遠征にたいして永田主将を始めとして現役諸君がじつによくやってくれた。遠くに住み、部生活から離れてしまうと、運営、飼育の大変さを忘れてしまうのが殆ど。

沢山ある大学から北大を選び、青春の一部または多くを馬術部に持っているのだから今度は恩返しや次の世代の為によりよい環境、運用の部にしてやりたいと思った。

### 提案

具体的には現役諸君の部報の為のアルバイトを出来るだけOBで減らしてやりたいと私近藤は考えます。どのような方法がよいのかこれからOB諸氏と検討し賛成を得て進めてゆきたいと思えます。どうか皆さんの協力をお願いします。



生活雑化  
HOUSE HOLE'D POPOS

旧 平山金物店

address 北18丁目4

tel 716-7536

fax 746-7048

working AM. 9:30~PM. 8:30

P.S 各種カードも扱っております。

## (有)北洋給食センター

給食弁当、仕出し、お寿し、オードブル  
多少にかかわらず注文うけたまわります。

東区北22条東1丁目304番地  
TEL 722-5665

# 特集1 『空白の記録』

先日、1通の封筒が、馬術部部報編集委員宛に送られて来ました。それは、昭和25年卒部の宮崎利昭兄からの手紙でした。

それを皆様にお知らせしたく、その全文をここに掲載致します。

北海道大学馬術部報編集委員殿

馬術部OB 宮崎利昭

(昭22 工学部卒, 昭25 法学部卒)

## 前略

毎度馬術部の情報をご郵送頂いて、なつかしく拝読しています。

部報N036にて、同窓の和田晴兄が投稿されたのを読ませて頂き、青春時代を想いおこし馬術部の昭和17～24年の記録がほとんど空白になっていることが気になってきました。

資料は皆無で記憶のみに頼って、当時のことを記録してみたのが別紙の原稿です。

極力間違いのないようにと思って、あまりくわしくは書けませんでした。一応昭和17年から8年間のことを記録しました。

ご一読の上、妥当とご判断下さいましたら、部報の次号に発表して下さい。

今年も馬術部のご活躍を祈ります。

1992年9月23日

## まえがき

名簿の後援会員(卒部生)の備考欄に年度別の主将の記入がありますが、昭和17年から25年までは空白になっています。これは勿論戦中戦後の混乱期に馬術部の活動が低迷していたゆえであることは、諸兄姉ご想像のことと思います。

部報前号に和田晴兄が昭和21年の部活動について投稿してくれたことに刺激されて、当時馬術部に在籍していた一人として、空白の記録を些かでも埋める足しになればと思い、筆をとりました。

## 昭和17年

太平洋戦争の開戦が昭和17年だから、この年北大予科に入学し馬術部に入部した人は、前記和田兄(農)や早逝した本城兄(医)をはじめ20数名でした。開戦間もない時期で、馬術部にも余力

があり、学部から予科までの先輩の指導を受けて練習に励むことができました。練習馬は主に第一農場を借用していました。

部長は太泰教授（理）で、この年卒業された現監督岡田光夫先輩が卒業後も部員の指導に来てくださいました。対外試合もまだ活発で、インターハイ（旧制高校対抗）などにも出場しました。

## 昭和18年

戦争は厳しさを増して来て、部馬も少なくなったので、旭川の陸軍騎兵中隊に、合宿訓練に行きました。同じ中隊の中隊長は、当時オリンピックがあれば日本代表ともくされていた今津中尉で、親切に指導していただき、障害飛越は170cm程度を調教された乗馬にも乗せて貰いました。予科の運動会で、馬術部による共覧馬術を披露したこともありました。

## 昭和19年

戦争は激しさも増して、第一農場の乗馬も少なくなり、“馬のいない”馬術部になっては、なすすべもなくなってきました。北大予科の全員は、樺太の北緯50度ぎりぎりの地点に行って、陸軍飛行場建設の動労奉仕をしました。馬術部員の大西兄（農）が心臓発作のため、ある夜急死するという悲しい出来事がありました。我々馬術部員は、花を集めたり葬儀の準備をして、文字どおり野辺の送りをしました。

## 昭和20年

8月15日の終戦をはさんで、日本の社会経済は疲弊の極で、この年の馬術部の活動は皆無でした。わずかに北大体育会に馬術部の登録を続けていただけです。

## 昭和21年

前号の和田晴兄の記事に詳述されているので略しますが、この年もふだんの部活動はなく、東日本選抜と京都の国民体育大会だけに参加したものです。

## 昭和22年

部馬のいない状態は続きます。和田兄はこの年に卒業、筆者も工学部を卒業したのですが、この年新設された法学部に再入学したので、馬術部員を北大体育会に維持することはできました。同年秋



の石川県開催の国民体育大会には筆者だけが出場しました。(貸与馬障害、入賞できず)

## 昭和23年

前年と同じ状態が続いていました。同じように、福岡県開催の国民体育大会と北海道体育会に北大馬術部の名前を記録したことに止まりました。

## 昭和24年

戦後の低迷はまだ続き、北大体育会も活動資金の不足に悩み、体育会主催のダンスパーティーを催したりして資金稼ぎをしていました。この年は国体にも参加できませんでした。筆者は昭和25年卒業し、馬術部を去ったわけです。こんな状態で、将来の日本の復興や馬術部復活を予想できず、部の記録を残すことも思いつきませんでした。

## あとがき

私ごとですが、商社に入り、海外駐在が長かったのですが、馬を愛する気持ちは変わらず、日本に帰ったとき会社に乗馬部を作り、社会人馬術大会に出場したりしました。この間栃木県の乗馬クラブで1年先輩の宇都見千之助兄に会ったり、埼玉県の乗馬クラブで2年後輩の古谷昌司兄に会ったりして、北大馬術部の話をしたものでした。転居が多くて資料がなく、記憶違いがあるかも知れませんがご容赦ください。部の空白の記録をいささかでも埋めることができればさいわいです。次号では、この後の馬術部復活の模様を、昭和26・27年主将の古谷昌司兄あたりに書いて貰えばと期待します。

宮崎利昭

## 特集2 “いま、スターライトは……”

馬術部を想い出すとき、必ず誰でも知っている、かの有名なスターライト号、貴方はどんな印象をお持ちですか？

私が、ライトと初めて会ったのは、入部間もない、まだちょっと寒い春の外乗中でした。お嬢（北玲）が、ポプラ並木を目指していると、突然道をそれて勝手に行ってしまうではないですか。何も出来ない私がかがいていると、佐藤(美)姉が、そとこう教えてくれました。

「お嬢は、スターライトのところへ行きたいんだよ。」

スターライト？

お嬢と共にいってみれば、優しい二つの目が待っていました。ただ優しいだけだと思ったら大間違い。少し経つと、ふいっとおしりを向けてしまったのです。馬術部たつての高飛車娘と呼ばれるお嬢を、ここまで黙らせるスターライトって一体、と思ったものでした。

スターライトの偉大な過去を実感したのは、新歓合宿第一夜の事でした。

S52年11月、全日本制覇！

感動の二走目、ただ一組のみの満点。あの長屋さんの涙、一際大きかった歓声。（注：当時の長屋さんと言ったら、私達一年生にとって、凄い存在感を感じさせる人だったのです。）

スターライトってこんな凄い馬だったのか。

…ということで、スターライトの現状報告と共に、ちょっとだけ過去をさかのぼってみたいと思います。

この馬術部の大御所スターライトは、現在、北海道大学所有の馬として、ポプラ並木の横の、第一農場の厩舎で、変わらず元気に暮らしております。

毎日、青々とした放牧地に放され、草を食みながら、見に来た人が呼べば、視線を送る。そんな平和な毎日を、送っています。

そんなスターライトだって、ペーペーの時代が、ありました。

S47年9月25日入厩。その年の部報に、そのときのスターライトの様子は、こんなふうに書かれています。

“カミソリのような切れ味、軽々とそう軽い感じである。四六時中首を上下にふっている、お辞儀でもしているのかな。牧場では優しいお母さんだったろう。”（新馬紹介より）

“前肢両膝に骨折様腫瘍があるが跛行はなかった。いつまでもつかわからぬが、ともかくチーフとなった。当初より落ち着きが余りなく外へ行くとき常に興奮していた。7才であるし、人を乗せた経験もあるのでバランスは比較的良かった。やや神経質である。常歩、速歩で走り回り、回転、停止、発進、30cm程度の障害を繰り返した。頭が高いのと歩様が小さいのが難点であった。～略～3月に入ってから外へ行って見違えるほど落ち着くようになったのでほっとしている。その他当然ではあるが馬に対して決して粗暴に振る舞うことのないよう留意している。

故障を承知で買って来た馬だけに絶対離厩させぬよう作って行きたいと思っている。”（調教報告 松井兄筆）

また、余談にはなりますが、スターライトに1週間ほど遅れて入厩した羊蹄号、今は、毎年、日高合宿で、新顔馬術員のお世話をしております。彼女にすれば、私達は孫同然。もしかしたら、“最近の子たちはだらし無いねえ。”とか、“あたしたちのころは…”何て言って、昔を思い出してるかもしれません。



そんな心配をもちながらも、スターライトは、着実に成績を残して行きました。S50年には、ついに北日学中障害で1位に輝きます。そして全日本入りを果たします。時は進み、52年。長屋兄とのコンビで、全日本二回走行を制覇したのです。そのときのことを、長屋兄はこんなふうに残しています。

“国体前からスターライトの前肢に屈腱炎を生じさせてしまい、常歩を30分位と湿布・マッサージの毎日が続いたが少しも良くならないどころか悪化するばかり。ついにはまるで騎乗出来なくなりました。～略～暗鬱たる思いで一人列車にゆられてついた東京で、彼女の前肢の腫れがきれいにひいているのを見たときの嬉しさと言ったら、それまでのモヤモヤが全て吹き飛んだ思いで忘れられない。とは言っても1ヶ月以上運動らしい運動をしていないせいで、歩様がごちなく明らかに馬体の柔軟性にかけている。完治した訳ではないから、出場するか否は、駆け付けて下さった水野さんの診断結果如何にかかっていた。水野さんは、二日間なら絶

対大丈夫と保証してくださったので、こうなればやるしかないとおもった。試合の前々日久しぶりに速歩を10分くらい交え、前日に低障害を10回くらい飛んだに過ぎなかったから、優勝は愚か満点さえ思いも及ばなかった。～略～

第二走行 前日満点だった六頭のうち最後だったためにNHKテレビ放映の関係上最終競技者となり102番。第一走行で満点が多かったこともあって第二走行だけで勝敗が決するとは思えなかった。ただ堅くならないで満点で帰って来ようと思った。～略～

準備馬場で101番までの馬が皆出て行ってしまって、1頭きりになったとき、スターライトに向かって「ライト、ここまで来たんだからお互いに信じあっていこうや」と語りかけた。

前日満点組は騎手に堅さが見られて、一頭また一頭と落下を招き落伍していく。バーの落下する音、ワッとあがるスタンドの歓声そのたびに人も馬もビクッと震える。バーに肢の当たる乾いた音が鋭く耳を打つ。次第に高まって行く緊張に耐えられそうもない時夜のトレーニングのことを考えた。この日の為に、この一瞬のために毎日走ったんじゃないか。ひたすら気を静めようとした。

101番が入場していく。さあつぎだ…その101番は一落下でゴール。ああ、いよいよ俺か！場内アナウンスが「ムネヒサの優勝が確定的なようです。」何て言う。速歩で入場。緊張というより寧ろ恐怖で、自分でも驚く程からだガタガタ震えている。大きく深呼吸しゆっくりと敬礼。それからの後の意識は霞みがかかったようになってしまう。微かに記憶に残っていることと言えば…第4 コツンと当たってスタンドがドッとどよめく。第5通過「ようし」と声を掛ける…第8トリプルAで少し遅れ気味、B、Cと思わず掛け声が口を衝いて出る。第8から第9への中で場内アナウンスが、現在北大が団体二位であることを告げる。…第11通過、誰かが「よし」何て言っているのが耳に入って、こっちのみにもなってみるとばかりに、“くそー”とおもう…第12水濠通過、第13あたりからスタンド全体がウァーッという歓声共つかぬ大きななどよめきに包まれいく。頭の中は完全に空っぽ。そして最終の第14障害、飛びながら、“これだけだ！”と思った。…ゴール。おもわず「やった？」

半信半疑のままスタンドに向かう。観衆が物凄い拍手をしてくれる。嬉しくて“ありがとう”を言いたくて何度も何度も頭を下げた。敬礼、愛撫しながら退場門へ。踊り上がらんばかりにして迎えてくれるみんなの顔、顔、顔…

でも飛び降りた後は、みんなの顔とは裏腹に空しかった。“これで終わってしまった。”そんな思いを嘔みしめながらしばらく一人でどこかを歩こう、何て考えた。と、スターライトが目に入った。あの恐怖、試合前のあの重圧感心底恐かった。それがまた甦ってくる。“あんなに肢の悪かったお前がこんな俺を乗せてよくぞ勇敢に飛んでくれた。俺は正直言って恐かったんだよ。でも、これでもうお前に乗れなくなるなんて……”

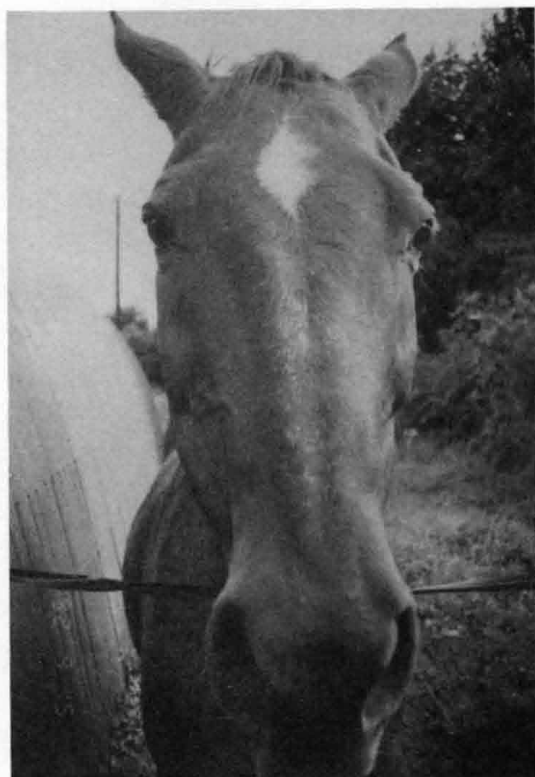
そんな思いが胸の中に拡がるともう堪え切れなかった。”（部報No. 23 第20回全日本学生障害飛越競技会 長屋兄筆）

他にも数々の成績を残して来たスターライトは、数多くの人々と触れ合い、色々な思い出を残し

てくれました。彼女は、12年間もの間、馬術部と共に生き、一緒に戦ってくれました。どれだけたくさんの“ありがとう”があってもきっと足りないでしょう。S59年12月16日、そんな感謝や愛の中、競技馬としての、馬術という舞台の幕を閉じました。

英知と美貌を生まれもち、感情表現も豊富でかつ明確、部員を次々と虜にしていた北大の生んだ女王スターライトは、今なお現役馬術部員と触れ合い、見守ってくれています。

どうしようもなく寂しくなったとき、空が青くて風が気持ち良かったとき、私はスターライトに会いに行きます。彼女を見ると、何だかほっとして、頑張らなくちゃと思うのです。それは、彼女自身が愛され、頑張りが続けた人生を送ったお手本だからかもしれません。



最後に……

私は、実際の現役時代のスターライトは知りません。ですから、部報の中の先輩方の文を読み、その当時のことを想像するしかできません。特集の中身も殆ど盗作であります。ただ、この機会に得たことは、一頭について、一年一年色々な人の熱い思いがあって、馬はその都度答えてくれているということを感じることが出来たことです。

ここで最後にお願ひがあります。北大馬術部は、今までにたくさんの馬と関わってきました。隠居生活に入った馬、他の乗馬クラブに移った馬、短期間で離厩した馬、怪我で悲しい最後を遂げた馬、色々な馬の人生と馬術部は関わっています。この機会に、その一頭一頭を思い出してあげてください。そして、もう一度感謝を込めて“ありがとう”を言ってあげてください。

ここで、この特集にあたって、先の部報で掲載されていた文を、書かれた方の了解を得ずに掲載したことをお詫び致します。

## 卒 部 に あ た っ て

佐藤美幸

入部したての頃、自分が卒部する時にはどんなことを書くだらう、と考えたことがある。今思えば、楽しいことよりつらいことの方が断然多かった4年間だった。つらい思い出をあげればきりがないが、せめて最後ぐらいは、楽しかったことを書き連ねておわりたい。

温暖な地方で育ったため、この北の地での最初の1年は何もかもが新鮮で、毎日が楽しくてたまらなかった。春の異様なタンポポの群れ、真夏に並んで咲いているアジサイとコスモス、本州などの春夏のメリハリがないせいか、春から初秋にかけて数ヶ月も同じ花が咲き続ける……。一体ここの植物はどうなっているのだらうと思った。ポロとりが本来の役目を果たす冬、それこそ見るもの全てがはじめてで、除雪や寒さそのものすら楽しんでた。

大学生活を振り返ると、学部での思い出も色々あるが、やはり馬術部をぬきにしては語れない。この部に入ったことで人生が少し変わったと思う。私が馬術競技より、馬そのものが好きで入部したが、とうとう最後まで、「馬術」に心底打ち込めなかった。体育会馬術部なのだから、当然、競技として勝たねばならず、技術向上を目指さなければならないが、私は障害を飛ぶことよりも、ただ馬に触れ、世話をし、一緒にいるのが楽しかった。こんな部員の存在が許されるかどうかは、時代によって変わるのだろうが、私の場合、散々、同輩に迷惑をかけながらどうにか4年間全うできた。最後の年、4年目としての責任を果たせたとは言いがたく、特にコンビを組んでいた堀川には、主将としての彼を助けるどころか足を引っ張るようなことばかりしてしまい、今さらながら申し訳なく思う。……けれど、今の4年目の先輩でも後輩でもなくてよかった。4年間一緒に過ごせて本当によかった。それに、後輩にするには生意気で、先輩にするには口うるさい。そんな代だし、ね。

アルバム数冊分にもなった馬の写真をみていると、彼らに教わったことを改めて思い出す。カシワクレバー、北峰。恐らく2度と会えないだらうけど、本当に馬が大好きになったのはこの2頭野おかげである。北駿。手入れや曳き馬を通じて毎日色々なことを教わった。一人で世話することが多かったせいか、1年生だった私を覚えてくれた。この暴れん坊が、私に少し自信をつけさせてくれた。そして北玲。思えば彼女とつきあった期間は、馬術部生活の半分以上を占める。最初はあまり好きになれなかった「お嬢さま」だったが、3、4年目の時は、彼女という時が一番楽しかった。クールなイメージがあったが、こんなに人を頼ってくる馬はそうはいないだらう。彼女にとってのボスは堀川一人の方がよいと思ったので、私は彼女の理解者になりたかった。牝馬特有の精神的な波を同性としてフォローしてやりたかった。……早めに夕当に来て着がえる前にチラと馬房をのぞく。目が合うと必ず「ブブ…」とせかされた。1年生に曳かせていた時、少し離れようとするところらについてきた。全くかわいい奴だった。

夜明け直前の群青色の空、満天の星、雪の明るさ、青草の香り、乾草あげ、馬運車で遠征。そしてそれぞれ違う馬の瞳。普通の大学生してたらお目にかかれないうなきれいなものを見ることができたし、多くの貴重な体験をした。馬術部での4年間は、恐らく、私の人生で最も印象的な1ページになる

ことと思う。

最後に、これまでお世話になった全ての人たち、馬たちに心から感謝いたします。本当にどうもありがとうございました。

## 清水礼子

### うまこ物語（大学編）

昭和44年3月23日生まれ、本名、清水礼子。礼子と書いて「あやこ」と読む。東京の私立の女子校出身。通称「しみ」。中高一貫教育で6年間バドミントン部に所属する。他、図書委員、園芸部、琴曲部などでも活動。習いごとは、茶道、書道、デッサンなど。ここまで書けば素晴らしいお嬢様である。しかし、その実態は……。成績は良いほうだったが、反抗的で扱いにくい生徒だった。バドミントンの技術は中の下くらいだったが、恐い先輩だったらしい。

さて、「しみ」は第一志望の北大に見事合格し、札幌までひとりでやってきた。だれも「しみ」のことを知る人はいない。そこで、猫を飼うことに決めた。髪をおろしてカチューシャをつけて、呼び名も「あーやん」に改まった。しかし、馬術部に入ろうか、熊研にしようかと迷っている段階で、もう猫が居心地悪そうにしているのに「あーやん」は全く気が付いていない。馬術部に入部し、教養祭が終わる頃には猫は、たびたび家出をするようになった。いわゆる「女の子」は大概この時期までに退部してしまっていた。

馬術部ではバトミ部で培った礼節を駆使し、巧妙に立ち回っていたのだろう。「もしかして、おまえって『世渡りうまこ』？」N先輩の一言で、部では「うまこ」の異名を賜った。先輩の影響か、はたまは持って生まれた性格か。これがうけた。後から入部してきたSさんは「清水馬子」が本名だと信じていたらしい。何とも馬術部に似つかわしい名前である。

2年生になり、「うまこ」はその名に恥ず、得意の睡眠学習法で教養の単位をクリアし、獣医学部に移行した。快くノートを見せてくれたクラスの友人と、良い刺激を与えてくれた部のどんばに感謝している。試験前に、「成績の悪いのを部のせいにしたくないよね。」と、40キロの草刈りを30分で済ませてしまったのは、Tさんである。また、夕当の後、Yさんと図書館に勉強しに行ったものだった。

先輩も沢山入り、やさしい先輩を目指していた。この頃、「うまこ」の猫は良くなっていた。ところがある日、「うまこ」は猫に引っ掻かれて気が付いた。男女の差別のない馬術部では、甘い顔をしていると舐められてしまう。その日から、厳しい先輩となった。とうとう猫は逃げ出してしまった。

3年生になる頃、獣医学部であるから辛い実習も多く、何もかもが嫌になった時期があった。この時もどんばに救われた。そして、馬にのめり込めばのめり込むほど、学部からは足が遠退いてしまう。午後の実習中の2時3時に社長出勤を繰り返しているうちに、馬部で培われる貫禄も手伝って、学部では「親分」と呼ばれるようになってしまった。

「うまこ」も、ここまで落が付けばたいしたものである。ここは開き直るしかない。3年の秋、代替りで最上級生となり、馬を持ち、つっぱした。駿馬のようにと言うよりは、馬車馬のようであった、



と思う。かけがえのない人間関係を築きたいために、大学に来たのだったから、どんぼと真剣にぶつかった。「うまこ」であってもこれはなかなかの難関だった。勝ち気な性格だったから、いっぱい人を傷つけた。時には、思いっきり傷ついた。また、馬は人の心を映す鏡であったから、何度も反省させられた。そして、馬を通して、心から人に感謝する気持ちを学んだ。

嵐のような1年が過ぎた。そして、本音で付き合える11人のどんぼと、ぎっしり詰まった思い出が残った。卒部の色紙には、「清水さんはぼくのライオンです。」と、書かれてあった。知らないうちに、ライオンを飼っていたとは……。ミセスTは虎を飼っていたようだが、その後どうなったのだろう。

いま、「うまこ」は、馬部を離れライオンをうまく手なずけながら毎日を平穩に暮らしている。懲りもせず、来るべき社会人に向けて、再び猫を募集中である。そんじょそらの柔な猫では役に立ちそうにない。どっかに化け猫でもないだろうか。「心当たりのある方は御一報を！」

高村理香

馬は不思議な生き物である

不思議と気持ちがつたわる

部の空気がわるいと馬も不機嫌になる

なにも言葉はいわないが けげんそうに 目でうったえる

それに人が気づかなくなったとき

きっとこのクラブも死んでしまうだろう

情熱がかれ伝わった時の

よろこびは なんとも表現しがたい

ほんのささやかなことでも 彼につたわったと

感じたとき 胸いっぱいになる

ほこらしくおもう 自慢げにおもう

つづけてきてよかったとおもう

必死に鼻をまげてたえる彼をいとおしくおもう

もう二度とあの気持ちには戻れない

馬術部にいたこの4年間は

不思議と人をふるいたさせた

すべてをみとおす力が馬にあるということをわすれないで

## 田村 亮一

こんなところに大きな顔して登場するのはおこがましくて、適当に逃げているうちにそのうちあきれ無視して（部報を）出してくれるだろうなんて考えていたのだけれど、何か非常に迷惑をかけているようなので、この原稿用紙の升目をうめる作業に没頭します。

馬術部時代なんて遠い遠い昔のことで、「熱き想い」なんてものもあったような気もするけど、今じゃだだの空白。松島や橋本と酒でも飲みながらカンカンガクガクやってた光景が記憶の片隅に残っている位かな。「失ったものも多かったが得たものは更に多かった。」なんてことを書けば格好つくのだが、うそは良くないし、ありがたいためになるお話なんてとてもとても、逆立ちしたって出てきそうにない。歴代の方々は流石と改めて感服。同期の皆もすごいことを書いているのだろうか（少し劣等感）。

現役の皆さんはこんな文章しか書けないことのないようしっかりやって下さい。誰が読んでも「ムムム」なんてうならせるような卒部にあってを書けるようにね。それから、原稿は熱いうちに書かれることをお勧めします。

## 外山 敬子

馬術部に入っているいろいろな人達に出会い、そしていろいろな馬たちに出会った。その中で喜び、悲しみ、憎み、好きになり、嫌いになり、感動し、尊敬し、…。感情表現のすべてを経験した。普通に生活している時も経験しているけれど、馬術部にいる時はより強烈だったように思えてくる。それだけ私にとって馬術部は特殊な空間であった。

本当に馬術部に入ってよかったと思う。馬という動物に出会って、相手を思いやることの大事さを知った。

卒部するにたって思うことを少し。クラブは4年目のものではないと思う。決定権は4年目が握らなければいけないと思うけれどクラブをつくりあげているのは4年目であり1年2年3年目であると思う。1年目がでしゃばれと言っているのではない。下級生といえども上級生に意見してもいい、するべきだと言っているのです。いくら馬術部を4年間やっているからとはいえども、馬術に関してはしろうとの域をこえないし、クラブ運営だってまたしろうとである。そんな上級生にすべてを任せるのは危険である。また上級生も自分たちだけでクラブを切り盛りしている気になってはいけない。必要あらば下級生に相談するべきだと思う。上級生のメンツがあるかもしれないが、それで解決したら、すばらしいではないか。互いに隠し合い、離れているのはよくないし、互いにさらけ出して、密になっていけば、いろいろとスムーズになってゆくと思う。不安や心配事、疑いは必ず出てくる。それを心の中にしまい込まないで、勇気を出して聞いてみればいいと思う。

こんなことは卒部したから言えるのかも知れませんが。この部報にも何年前に同じような事が書いてあったような気がします。とにかくクラブは団結が必要です。1年目から4年目までの。そのために必要なのはただ単に、毎日練習に出て、夕方馬の世話をし、上下関係なく話すことだと私は思います。

4年間本当にいろいろなことを考えさせられました。一つ一つ上げていたら、限りがありません。とて

も充実した4年間でした。皆様どうもありがとうございました。

#### 野田 英文

入部して3年半、色々なことがあったが、一番悩んだのは、馬とのコミュニケーションではなく、人とのコミュニケーションだった。てきぱきと仕事はするが何を考えているのかわかりにくい部員、普段おとなしくてなかなか本音を言えずためこんでしまう部員、酒を飲む席でしか本音を言えない雰囲気…自分はこんな下級生だった、という反省もあってクラブを動かしていく立場になったら話し合いやすい雰囲気を作りたいかった。が、忙しさにかまけて下級生と話をする場もつくることがあまりできず、ミーティングでもお互いがどういう考えでどういう流れでいまその運動を馬に要求しているのかということまでなかなか話し合うことができなかった。

この部にいると、いろんなかたちで自分の弱さが見えてくる。馬に乗っていてもなかなかうまくいかず殻にとじこもって悩む自分。そんな時救いとなったのはいつでも同派のひとことであり、OBの方の目であり、そして岡田監督の助言だった。いま自分の弱さと向き合いそれをいかに乗り越えられるか。その第一歩は人と話すことである。これは自分がこのクラブから得たものであり、自分自身の反省であり、現役に考えて欲しいことだ。

#### 橋本 新

その日その日をやりくりしているうちに半年が過ぎていきました。  
クラブを離れてから半年たって思うことはとても漠然としています。

夏は気が遠くなるほど暑くて、夜はとてとても長くて  
とおくでがんばる友達がいて、ちかくにはたのもしい友達がいました。  
そしてうまがいました。

今、後悔していることはとくにありません。ただ、もっと全てのことに優しくなれたなら、もっと全てがうまくいったら、と思っています。

本当に多くの方にお世話になりました。どうもありがとうございました。

#### 平山 潤子

冬の寒い日に生まれたせいか私は冬が大好きです。  
“冬はつとめて”といいますがまさにその通り。朝一番にとびおきて真っ先に足跡をつけたときの喜び。しんと静まり返った街をピンと冷たい空気がはりつめている。“よーし、今日も頑張るぞ!!”と思

う。そして、どこからともなく、あの石炭ストーブのにおいがしてくると、何とも言えず幸せな気持ちになるのです。現役の皆さん、ちょっと寒いけれど毎日冬の朝を体験できるなんて—それも大好きな馬と一緒に—本当に幸せなことですよ。

私の大学生生活の大半を占めた馬術部。つくづく喜怒哀楽の激しいクラブ生活だったなぁと思う。一年生—喜怒哀楽。二年生—喜怒哀楽。三年生—喜怒哀楽。そして、四年生—喜怒哀楽を感じる余裕もなかった・・・

現役の皆さんに1つだけ。“自分がうまくなること”に対してもっともっと食欲になって下さい。自分が上手くなることがどういうことなのか真剣に考えてください。そしてその為の努力を惜しまないで下さい。

いざ、上級生になって馬をもつようになった時、その馬の能力をひきだしてあげられるよう人間と接していく上で大切な事を教えてあげられるよう下級生のうちに技術を磨いておいて下さい。

#### 松島健滋

卒部にあたって特に書き残すことはないが、よく最後までやったものだと思う。田村にしろ橋本にしろ、何でこんなに3人そろって私の強い者ばかりで、意見の一致があったためしがないのだろう？と思う。まちがいなく奴らもそう思っている。それに、互いのプライベートな部分は全くと言っていいほど知らず、何やっているのかさっぱり知らないし、今でもそれは変わらない。

しかし、部のことになると実によく協力してくれたので、私は仕事をほとんどせずに馬に気を使ったので、とても気が楽だったし、反対によりプレッシャーにもなった。一つのことには全く違った者同志が全力であたるということは希なことである。

では何故そうなったのかと考えれば、きっと馬が好きだったからだと思う。いや、ただ単に意地っばりだからかもしれない。私としては前者であったと信じたい。

#### 横山勉

「私は環境保護のために割箸を使います。」と言ったら馬鹿にされるだろうか？

酸性雨やオゾン層の破壊など、環境破壊の進行が深刻化してきている近年、「使い捨て」という言葉が避けられるようになってきた。「使い捨てカイロ」や「使い捨てカメラ」という言葉はもはや通用せず、それぞれ「携帯用カイロ」や「レンズ付きカメラ」などという言葉におきかえられている。割箸もこの「使い捨て」の代表ともいえるものの一つであり、食堂などでもプラスチック製の箸が広く出回ってきている。「環境保護のために割箸は使わない。」聞こえの良い言葉であるが、一概にそうとはいえ

ない気がする。カメラやカイロの話は別にして割箸の場合で考えると、僕には割箸が「使い捨て」できるものであること、すなわち環境破壊のことをあまり気にせず捨てられる（もちろんどこにでもポイポイ捨てていいというわけではないが）ことが、大きな視野で見ればこの上なく大きなメリットであるように思えるのである。

確かに割箸の代わりにプラスチック製の箸を使うことは資源の再利用という面では素晴らしい考え方である。しかし環境破壊の面から考えると、割箸は燃やすなり腐るなりして土に戻すことができるがプラスチックの箸は一度作ったらそう簡単に捨てるわけにはいかない。洗って再利用しなければならないことがプラスチックの箸を利用するにあたってのデメリットになり得る。箸はきれいに何度でも使っても、その度に使用される洗剤の泡がどうなるのか考えてみたことはあるだろうか？河川の汚染の最大の原因は他でもない家庭排水である。家庭排水に比べれば規制が厳しくなった工業排水など最近はそれほど問題ではないと聞く。箸の再利用のために洗剤を垂れ流しにすることが環境保護だろうか？ここまで書けば多少なりとも矛盾は感じてもらえるのではないかと思う。

木材である割箸を使い捨てにすることがそんなに環境を破壊するだろうか？割箸の使用は、熱帯雨林の乱伐とはほとんど関係はない。割箸くらい丸太を角材にするときの切れ端や、角材にもできない低質材で十分原料になる。道内林業地には間伐適齢期に入ったカラマツなどの林が多数あるが、間伐しても需要がなくて低価格でしか売れないので、木材に加工して市場まで運搬する費用に対して切れば切るだけ赤字が増える状態である。それでなくても後継者不足が深刻化している林業の活性化、とまで大きなことは言えないと思うが、少なくとも割箸を使うことが森林の破壊とは直接は関係ないことは分かっているのではないかと思う。

「私は環境保護のために割箸を使います。」と言ったら馬鹿にされるだろうか？

小話が長くなってしまいましたが、卒部するにあたって何か書こうと思っても軒並みな事しか思い浮かばないのでやめておきます。横山はクラブの事なんぞろくに考えずに、こんな下らん事ばかり考えていた奴だとも思って下さい。

# 自己紹介・他己紹介

## ☆4年目

### 佐藤美幸

姉と一緒にいると元気が出てきます。  
いつもおもしろい話をして下さいます。  
そして数多くのことを教わりました。  
姉が近寄ってくると何かワクワクしてきます。

### 清水礼子

春の講習会で姉の美しい姿を目にしてから、姉は私のあこがれなのです。  
正装したときの美しさはもちろんのこと、きたない（ごめんなさい。きたないですけど、作業着の修飾語はやっぱりこれで…）作業着でも気品と美しさのただよう姉。でも何ととっても、馬場での、プリの上での姉が一番素敵です。  
そんな姉のようにになりたいと思っているのはきっと私だけではないでしょう。でも姉のようにするには長い年月と相当の努力が必要であると実感している今日このごろ。  
卒部されても2年間は学校にいらっしゃる姉。馬場にいらっしゃっての指導ももちろんのこと、どんな時にもどんなところでも凛々しくいられるコツも伝授しにきてくださいね。

### 高村理香

いつも明るい人であるが、月曜日の朝、学校に行く途中に馬場の横を通ると必ず調馬索をかけているというしっかりした人でもある。  
また、姉と一緒に行く外乗は非常に楽しい。本当にリラックスして乗っていると思える数少ない瞬間である。そして姉からもギャランからもいろいろな事を教えてもらうことが出来る。  
これからも“ものまね”の芸の幅を広げてみんなを笑わせて下さい。  
四年間どうも御苦労さまでした。これからもいろいろと御指導を御願います。

### 田村亮一

マージャンが好き。競馬が好き。少しどじな所があるが、それはもって生まれた愛嬌だろう。なかなか難しい所もある。とにかく北水馬術部で主将の大任を果たした。頭は良いはずなのだが、いったいこ

れから先、どうするのだろうか。しがない研究者で終わるか、それとも…。良質なさび止めスプレー。この先楽しみな人だ。

### 外山敬子

近寄りたけれど、半径3メートル以内には入ってはいけないような先輩、それが外山姉だ。そうやって涙した一年生が何人いただろうか。膝まくらをしてもらった、と喜んでいた奴もいたが…。それだけ魅力的な外山姉は、これからもずっと私のあこがれの女性であり続けるだろう。

### 野田英文

一見、怖そうに見え、おっかなそうな先輩だなと思ったけど、実は、話し方がおもしろくて、楽しい先輩でした。また、僕もそうですが、熱狂的な中日ファンで泊まりの時など応援歌の合唱で盛り上がり、楽しかった。（僕は、たまにしか参加していないけど。）インチキファンと呼ばれ、SSを飲まされ、本当にかわいそうな僕でした。

### 橋本新

派手さはないが、柔らかい人だ。確実に、階段を一步一步登る。北水馬術部の会計をこなした。貧乏クラブなので、やりくりが大変だったろうと思うがそこはこれ、兄は見事にやってのけた。あと二年大学に残ることが決まり、我々もほっとしている。派手さはないが、実に頼もしい人だ。

### 平山潤子

いつもやさしく話してくれましたね。ほとんど怒られたこと無かったですね。夕当後、一緒にソフトボールをしてくださいましたね。朝練のときバロンでの外乗でいろいろ教えてくださいましたね。試合のような表舞台よりももっと大切な所で頑張っていましたね。今まで本当にありがとうございました。そしてこれからも元気でがんばってください。

### 堀川環樹

一見まじめそうに見え、近寄りたがたいオーラを感じる。しかし、その実ユーモアを解する人で、話も非常に面白い。部長として、又一部員として部のことを真剣に考え、部員一人一人と深く関わってこうとする姿勢には思わず尊敬させられてしまう。

## 松島健滋

愛馬はクラウン。鋭い馬術センスがあった。兄は笑っていた。どんな時も明るくて、それが我々の雰囲気だった。色のついた話も好きで、それがまた楽しかった。プレッシャーとか、そんなもの感じさせない人だった。我々の意志を一身に背負っていた。そして八月、散った。兄は、今日も笑っている。ずいぶんと助けられた。支えてもらった。兄に感謝しつつ、おつかれさま、とそう言いたい。

## 横山勉

いつも温和で物静かな兄には、北海道が良く似合います。焦って不安になったときも、兄の側に居ると何かホッと落ち着けてしまいます。まるで、寒い冬の日の、明りの着いた部屋で待っていてくれる、みかんを備えたあたたかいコタツのような方です。(違うか) 単位を落として泣きたい時も、兄の顔を見ればきっと明日が見えてくるでしょう。

優しく頼りがいのある兄ですが、だから、怒った時はとても厳しく怖いのです。

そんな兄は本当の“お兄さん”のようです。頼りにしています。

## ☆3年目

### 飯田昌代 (馬匹・獣医学部)

教養部時代、学校の勉強もちゃんとやるんだ!とはりきって1番前に座っては、ぐうぐう居眠りしていた。

学部に行っている今、移行したらこっちのもんだと堂々と1番後ろで熟睡していたら、いつのまにやら再試が2つもたまっていた。

どうか来年4年目4年で卒部してますように。アーメン。

☆ ☆ ☆

日高合宿のある夜の事。その日撮った8ミリのテープには、なぜか現3年目の日高合宿当時の映像が入っていたのです。その中でも、僕達に衝撃を与えたのは、やはり飯田姉の、落馬&後続のI兄の馬に踏まれた?映像でしょう。翌日、僕達が大いに自信を持って馬を乗りまわしたのは言うまでもない事です。

### 池田直弥 (副将・経済学部)

キャロップを東京に連れていけなかった甲斐性のない池田です。

☆ ☆ ☆

兄は、I兄、N兄、Y兄と強者のそろった3年目の中では、一見まともにみえます。私もそう思って



いました。しかし実際は、まぎれもなく3年目の1人、なのです。私が兄を初めてみたときは、何てやせてるんだろうとおもいました。もっと正確に言えば、ひょうひょうしているなあと思いました。モヤシにハトコでもいらっしやるのではないのでしょうか。ですから、ギャロにあたった時、兄が「体重制限50kg」と言われた時は、マジであせったものです。兄は今も変わらずやせていらっしやいます。私は更にデブりました。

祝 前 伸 光 (会計・農学部農業機械科)

過去の名盤CD化再発売も一段落つき、最近では未発表音源の発掘とCD化が進んでいるようです。そんな中で今年7月にMADE IN JAPAN レーベルより発売された、70年代関西のアンダーグラウンドプログレッシブロック6バンドを収録したオムニバス”70'S WEST JAPANESE ROCK SCENE”(MADE IN JAPAN RECORDS MHD-25013)は一聴の価値があります。最近も大阪では数多くのプログレバンドが活動していますが、作曲能力や演奏技術は別にして、本当の意味でロックのパワーが感じられるかどうか、と言う観点から見て、ここに収録された当時のバンドをしのぐバンドは出てきていないのではないかと思います。中でもページェント結成前の中嶋一晃在籍の乱舞流(ランブル)と、オフィシャルな音源もなくその後のメンバーの消息もないため幻のバンド扱いされてきた魔璃鴉(マリア)の演奏は本当に涙ものです。妖しげな楽曲と演奏が、こもりぎみの音質とも相俟って当時の雰囲気伝えていています。何度も繰り返し聴くたびに70年代への憧憬が募るばかりです。あ〜あと15年はやく生まれたかった。

☆ ☆ ☆

祝前兄は、とってもチアフルを大切にしています。チアフルが手入れ途中、暴れていると、“こーの、ばか馬!!”と怒りますが、おとなしくしていると、“ヨーシ、ヨーシ”と優しく言います。そういう時、兄は、とても優しい目をします。兄は、チアフルの細かい所まで、よく気を配っています。祝前兄が、チアフルを大切にしている分、チアフルも兄を大切にしています。だから、一人と一頭の息はぴったりです。

奥 村 浩 美 (水産馬術部・水産学部増殖学科)

とうとう 函館の人となってしまいました。

☆ ☆ ☆

奥村さんと会うと、何だかほかほかとした気持ちになります。

それは、仲良しのぎんも同じみたいで、

奥村さんと会うと、ぎんは嬉しそうです。

いーなー、好かれてて…

私もそうなりたいです。

**徳本 龍志** (水産馬術部主将・水産学部化学学科)

優柔不断なくせに頑固で、短気なくせに情にもろい。孤独は好きだけど、寂しがりや。口では偉そうなことを言うが、ずるい。人見知り激しく、臆病だ。方向音痴だし、閉所恐怖症と来てる。口下手なくせに、だじゃれを連発して、場を盛り下げる。勉強は嫌いだ。単純でよく騙される。スポーツは好きだが、体力がない。のんき。他人はみんな偉いと思う。こんな自分に誰がした？

最近、おやじとおふくろが、とてもいいやつに思えてきた。そして最近、俺もおやじににてきたなあとと思う。

☆ ☆ ☆

馬1頭と部員3人の北水馬術部をひっぱっている彼ですが、後継者がなかなか育たず苦勞しているようです。こんなところに書くのもなんですが、後継者よ、がんばってくれ。

**永田 修** (主将・農学部農芸化学科)

- ・自己紹介、そんなに急いで なにを書く。
- ・自己紹介、原稿締切、あ~しょうかい。
- ・自己紹介、恋人紹介、なんじゃそりゃ。
- ・自己紹介、自己紹介じゃあ~りませんか。
- ・自己紹介、原稿締切、待ったなし。
- ・手を上げて、原稿できたと、言ってやれ。
- ・気を付けよう、暗い夜道と 自己紹介。

☆ ☆ ☆

兄はとても強烈な印象を周囲の人々に与える人物です。それゆえ、初対面の人はたいてい兄のことをこわいおにーさんだと思うでしょう。しかし、実はバリバリの関西弁の裏には、底知れぬやさしさが秘めている(と思う)のです。その証拠に、大好きな酒も必ず可愛い後輩達に真っ先に飲ませてくれます。これをやさしさと言わずして何と言えよいのでしょうか。また兄はその人生経験の豊かさゆえ、様々なことを語ってくれます。あなたが悩んでいるとき、悲しいとき、挫折しそうなときには、兄に相談してみてください。きっと兄はあなたに救いの手を差し出してくれるでしょう。

**横幕 宏幸** (主務・工学部衛生工学科)

過去の失敗は未来の為にあるのさ。

さあ、みんな きばっていこうぜ!!

☆ ☆ ☆

はっきり言って、兄は真面目で、働き者であります。でも、普段の兄はと言うと、何か口では言い表せないけど、すべてギャグと言った感じ。長岡さんにはトレードマークであるスカイラインで佐野元春を聴きながら走り、乗っている者たちに無理矢理歌わせたりしています。こうゆうことが、兄が兄らし

い所じゃないかと思っている今日この頃です。

## ☆ 2 年目

荒瀬匡宗	ホモサピエンス
昭和46年8月27日生	牡 黒毛 黄色
父：荒瀬宗道 母：荒瀬孝子	北海道函館市 平成2年4月入部

☆ ☆ ☆

先輩はおだやかな人です。機嫌が悪くてもあまり表に出しません。そして控え目なようだけど、おさえる所はしっかりおさえています。家が遠いので、部室にいる時間を有意義に活用して日々を送っている先輩は、練習にコンパに作業にと、いつもがんばっています。

### 岡部 靖子 (後援会・農学部畜産学科)

もうみんなをひっぱっていかなきゃいけない時期なのに、まだ下級生気分が抜けないでいる…。東北戦が終わって帰ってきて変わらなきゃいけない！と決心した初日にボツってしまい、今年は“朝バツ当”と“みそ汁だけの朝ごはん”というはじまりだった。メンタル面、メンタル面と言われ続けた1年。今度こそ、と思いながら毎回のよう弱い面ばかりをさらけ出している…。うーん、考えなきゃいけないけど、考えすぎていけないんだ！もっと強くなろう!!!

☆ ☆ ☆

岡部さんはいつも元気です。  
岡部さんのホッペタはエトワールのように大きいです。  
岡部さんはお酒をたくさん飲みます。  
これからも頑張ってください。

### 倉本 暢子 (水産馬術部・水産学部増殖学科)

気づいたら海の上にいる。  
泡立つ地面。さぁどうしよう？  
Slow ahead and various engine …  
水平線まで歩いていこう。

道は真っすぐ続いているね。

☆

☆

☆

“倉本姉”という、いつもキャラキャラという感じの笑い声を思う。眼鏡がはみ出してしまいそうな小さくまとまった顔、堂々とした背中、つっけんどんだけど頼りになる倉本姉を、いつも尊敬のまなざしで見ている。函館で、「北水のおっかさん」となれる、素敵な先輩です。

### 佐土谷昌良 (文化・教養部水産系)

後退は敗北を意味する。

たとえ、どんなにゆっくりでも前に進もう。

☆

☆

☆

兄は、ジョン・レノンと共に生活をしているらしい。ビートルズファンとして個人的にとてもうれしい。兄が、ビートルズをかけつつ愛車を乗りまわす姿が目に見えるようである。

あ、大切な事を書き忘れる所でした。

兄は、文化のプロです。

### 塚脇寛子 (記録・農学部農学科)

やらなきゃならないこと>やりたくないけどやるべきこと>やりたいこと>やりたくないこと

(注：優先順位である)

あれも、これも、と思っているうちに、いろんなことの間でがんじがらめになりつつある今日この頃。。思い切りよく、何かを切り捨てる事ができれば、少しは楽になるのになぁ…

(影の声：「睡眠時間をけずればいんじゃない?」)

…ごもっとも。

☆

☆

☆

塚脇姉と言えば、まず、毎日きれいに編まれた長いみつ編み。“おしとやかさ”を秘めつつも、きびきびと動く。優しさだけでなく、きびしさも持っている。でも、きびしさは、大抵、他人ではなくて、自分に向けられている。優しさは、他人に、きびしさは自分に。難しい事だが、姉は、それを実行している。

### 長谷川崇 (飼料・教養部理I系)

僕ははせどん、酒飲みはせどん。

お酒を飲むと女の子にからむけど、本当は しらふなんです。

☆

☆

☆

とにかく厳しい。少しでもミスをするとひどくどやされる。しかし、完全主義な面があり、自分にはより厳しいように思える。又、教え方がうまく、1年目で明日檜の馬配を欲しがっている人は多い。

船越実和子 (会計・文学部史学科)

馬がかわいい、だけではやっていけない。

人間が好きだ、だけでもやっていけない。

こんなつらさは予定外だったけど、ぐずぐず言っただけで人に迷惑ばかりかけている、甘えて逃げて誤魔化そうとしている、今の自分は大嫌い。支えてくれるものがこんなにいっぱいいてくれるのだから、絶対自分の力で立ってみせようと思います。

☆ ☆ ☆

いつもは、やさしく語りかけてくれ、話し易く、いろいろと多方面に渡って教えてくれました。でも、時々、みせるおこった顔には驚かされました。また、泊まりの時、熱心にビデオを見て、研究熱心だなあと感じました。これからも船越さんには、いろいろと相談にのってもらおうと思うので、よろしくをお願いします。

三浦智子 (薬品・農学部林産学科)

いろいろと御迷惑やら御心配やらおかけしましたが、やっとあと2年やるぞと腹をくくることができましたので、一応 御報告しておきたいと思います。これからの三浦智子をよろしくをお願いします。

☆ ☆ ☆

もの静かで、つかみどころのない様な感じがしますが、いざという時にはたよりになります。これから一年間、薬品の最上級生として頑張ってください。

八木 聡 (副将・法学部)

私は馬乗りになる前に詩人になりたかった。

“少年の目には少しの迷いもなかった  
その眼差しは夢と希望とで輝いていた

少年は今疲れ切った体を天の川に浮かべ  
再び星のきらめきを心にとり戻そうとしている

希望に胸を膨らませ未来に夢を描くために”

私はウソつきである。

☆

☆

☆

『おーい』（低い声で）。これは『それどうゆうことやねん』という時の、兄の口癖であります。この真似を、一度兄の前でやってみて下さい。以前、某一年目が受けた『ポコポコの刑』に…。

また兄は、かつてH兄に集合の時、『泥棒だぞ』と言われたことがあります。この説明はいらないでしょう。

こんなこと書いたら俺がポコポコやがな。

## ☆ 1 年 目

加 藤 里 佳 （コンパ・藤女子）

加藤はドジでのろまなカメなものでした。ウサギさんにはなかなか勝てないのです。が、二羽のウサギを追っていこうと決めたからにはもっと能動的にならなければならないのです。うまくいかなくて、いらいらしている自分。このままでいたいと思う自分。成長したいとあせる自分。たくさんの自分がある。そんな気がする。だから自分の行動がまわりからはねかえって鏡のかわりになるようにしたい。そう考えている人です。

☆

☆

☆

真面目で几帳面（？）だが、どこか少し抜けている。もうちょっとときばきと行動できればもっといい奴なんだが…。

藤女子ということで、いろいろ大変なところもあるだろうが、頑張ってください。応援しています。

黒 崎 雅 人 （薬品・教養部理Ⅱ系）

何故、僕は此に居るのだろうか。

何を、僕は此でしているのだろうか。

答えが見つかるまで此にとどまるとするか。

今までクラブというものをまともにやったことが無かった。大学に入って何か人とは違う事をしようと思って馬術部に入った。今では、案の上（？）普通の大学生とは違う生活を送っている毎日である。

☆

☆

☆

男子からはデビッド、女子からはデビちゃんのお愛称で親しまれている黒崎君。1年目で唯一の馬貴ということからも分かるように、とっても頼りになるエンゼルのおにいちゃんです。

結構要領が良くて、頼れる彼は、私たちの代を操る人物になるのではないかと、私は密かに思っています。

小 滝 貴 子 (部報・医短)

毎日毎日重い体を引きずりまわし、練習に励んでいる私であります。星の輝く真夜中、ベットから転がるように抜け出る時、「私は何故起きているの?」という疑問を捨てきれないまま冬へ突入しようとしている。そんな私が無事冬を越せるように、皆さん祈っていて下さい。

☆ ☆ ☆

4月の乗馬講習会の時の印象は、“ひたすら明るくて元気な子”。その印象そのままの、“たかちゃん”は、今日も元気に馬に乗っています。

しっかりものたかちゃんは、部報係です。原稿の取り立ての厳しさからみて、今年の部報はちゃんと4月に出そうな気がします。

今年唯一の医短生。いろいろ忙しいだろうけど、これから3年間もあるんだ。その間に4年以上、完全燃焼してね。

城 座 川 貞 子 (部報・教養部水産系)

自分を待むことのできる人は美しい。

自分の好きなことが確固としてある人は美しい。

そういう美しい人(+馬)が多く存在する馬術部だから

力づけられ、勇気づけられる。

Hungry精神いっぱいの親友をもつ私にとって

時間的制約は大変だけれど

もう馬のいない生活なんて考えられない。

許されるかぎり、がんばろう。

☆ ☆ ☆

彼女は貴重な水産系一年目の中で紅一点である。心はずでに函館なんていわず、札幌にいる間は、こっちの馬を可愛がってやって下さいな。又、せっかく一年目の中で誰よりも早く免許を手にしたなら、馬運車を乗りこなせるようになりなさい。こっちで大いに練習して、技術をみがいて、北水のエースになれるようがんばってちょーだい。

田 中 陽 子 (馬具備品・教養部理Ⅲ系)

馬術部の大バカは私です。馬術部一の大ボケも私です。まわりの人や馬たちはたくさんのものを与えてくれるのに、私は迷惑をかけるばかり…。ごめんなさい。今までのマイナスを何とかプラスにするから、もう少しやらせて下さい。

☆ ☆ ☆

んーと、ヨーコはね、どういう人かって一言で表してみると、まじめ、かなあ。悪いイミじゃなくていいイミでいろいろとまじめなんだ。勉強とか、部活とか、仕事とか。でもね、ヨーコ、もう少しいろ

いろ楽に考えてもいいと思うよ。別に脳天気になれって分けじゃなくて、ね。一人でいろんなことをしよこまないで、いつだって手助けしようと思っているから。

こんなのが他己紹介なんてイヤかもしれないね。ゴメンネ。

西村 牙佳 夫 (文化・教養部理Ⅲ系)

『四字熟語』

中肉中背 胴長撫肩 眼鏡着用 顔中学生。

出身愛知 三河男児 赤味噌好 白味噌嫌 野球中日 F1中嶋。

性格温厚 優柔不断 付和雷同 注意散漫 集中力無 精神力弱 意志薄弱。

馬歴皆無 技術未熟 速足駆足 誘導不安 勉強不足 馬知識少。

役職文化 写真売付 不満続出。

本人苦心 難読文章 部報迷惑 反省反省。

謝謝!!

☆

☆

☆

彼はいつもビデオカメラを持っています。彼はいつも写真の整理をしています。彼はみんなから「にし」と呼ばれています。そんな彼の特技は何をかくそう“すもう体操”です。「ドン」とか「ヤーッ」とかいいながら、すもう体操～受身～をやっている彼の姿には、思わず感動してしまいます。これからも、たまにはその特技をみんなに披露して下さい。

野田 葉子 (飼料・教養部理Ⅲ系)

自己紹介と言われてもわかんないので、自分を分析してみました。

- ・発生地：どういわけか米国首都ワシントン
- ・生育地：去年の国体で馬術のあったところ
- ・脳みそ：ポロ山と同じかそれ以上に腐っている。
- ・食欲：くまと同じくらいすごい。
- ・生活：デビちゃん（もちろんデビルの方）と同じくらい寝てすごしている。
- ・性格：よくわからない。時々キレること有。だいたい楽道家。

こんなんでもわかってもらえますか？わからない？たぶんそうだろうと思いました。

☆

☆

☆

今年の1年目の女の子で「大食い」と言ったら、彼女をおいて他にはいないでしょう。毎年「大食いトリオ」とかがいるものなのですが、今年は彼女についてこれのような人がいません。しかし、もっと不思議なことに毎年「大食い」といわれた人は、必ずブタのように太っていくのですが、彼女だけは入



部当初のバツ群のスタイルの良さを保っております。「馬配の野田」とも呼ばれ(?)自由練習の馬配決めの中には、1年目をしきって男子までもビビらせていますが、彼女は1年目の中でも期待の星。実は、2年目も3年目もビビらせているという、うわさもあります。

野間博子 (部報・教養部理Ⅲ系)

性格にムラがあり、情緒不安定につき、危険・注意!

☆ ☆ ☆

のまちゃん♡

きゃぴきゃぴの元気印の女の子。よくこんな部にこんな女の子が入ってきたもんだ、と思っていた入部当初。でも実はしっかり者でがんばりやさんだったりするのでびっくり。それどころか、部報という特権を利用して部員をおびやかしている今日このごろ。君のpowerには感服です。これからもどんどんエネルギーを補給して、ますますがんばってね。

深部ちさ (衛生・教養部文Ⅱ系)

馬術部に入ってもう半年がたちました。何をやってもとろいし、うまくいかず悩んだことも多いけど、とにかく今を楽しもうと思っています。

☆ ☆ ☆

コンパの席で、騒がしいやつが1人ふえた。名前まで似てる。  
えっ、だれかって? もちろん ○かべ だ。

藤村卓平 (作業・教養部水産系)

ALL OR NOTHING

失うものは なにもない

☆ ☆ ☆

永田ジュニアこと藤村卓平

大阪清風高校で覚えた念仏にさらに磨きをかけるべく  
ただいま永田兄の話術を勉強中。  
カラオケへいっしょに行ったり、彼のエッサッサおんどを見ていると  
とても純な一面があることがわかる。  
結構だれにでも好かれる好青年なのは素晴らしいけれど  
…ねえ、函館にも競馬場はあるんだから4年計画でも  
ちゃんと移行しよう!!

松原貴史 (副務・教養部理Ⅱ系)

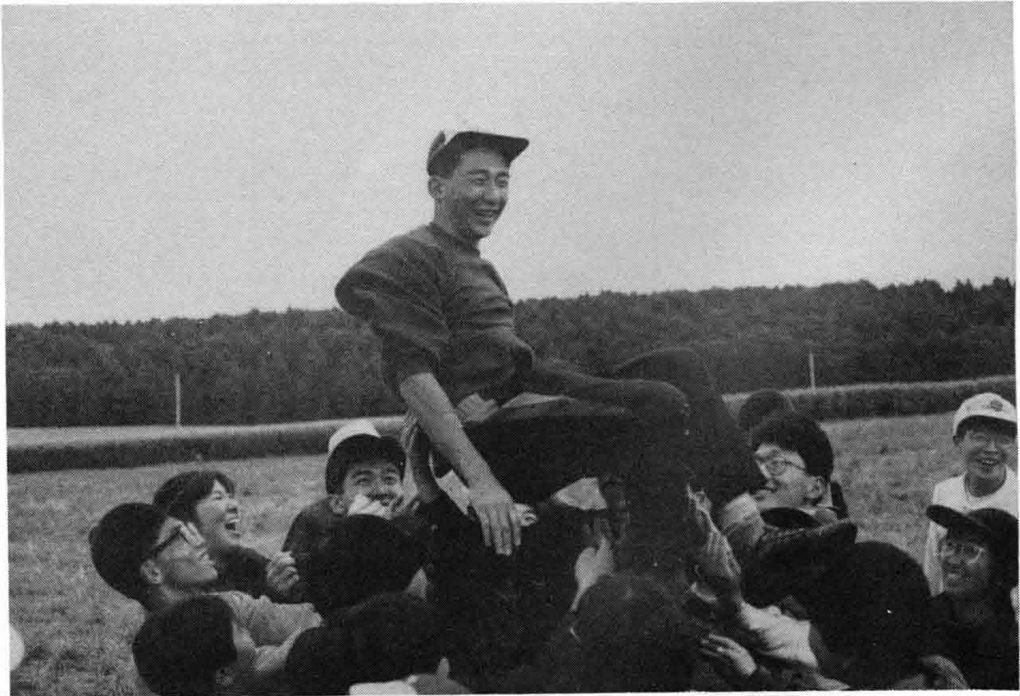
もう馬術部に入って半年近くたった。通学途中、何の気なしに馬場内の馬が目に入った。その時、初めて、馬に乗ってみたいという気が起こり、そして、北海道の大自然を馬に乗って走ってみたいという気持ちが強くなった。もし、その時、馬場に馬が放牧していなかったら…。(たぶん、サッカーor野球orゴルフ部に入っていただろう。)

今まで、僕は、サッカーと水泳の2つのスポーツを小・中・高と12年間もやってきた。このサッカー・水泳の技術は、全くと言ってもいいほど、ほとんど役に立たない。全然上達しないのだ。もう、馬から投げ出していたかもしれない。けど、1年・先輩などの仲間がいるから…。みんなで一緒に上手になりたい。そう願っています!今後ともよろしくお祈いします。

☆ ☆ ☆

1年目で一番もてるというわさもある彼はなかなかの好男子。(北日中、某大学の女の子をくどいっていたというわさも…) いつもにこやかに仕事をこなしていきます。なかなか頼れる男の子なのです。もちろん馬に乗っても1年目の5本の指に入る彼。毎朝よりいっそうの技術の向上にはげんでいます。これからも、もっともとうまくなって、1年目をひばっていつてくれるでしょう。(もう少し強引さがあってもいいと思うけど)

がんばってね、松原くん。



内外産エンバク販売

株式会社

**大谷哲也商店**

大谷哲也

札幌市中央区南一条西二十八丁目

電話 代表 (011)611-2531番

# 編集後記

今回の37号こそは、予定通りに発行しようと意気こんで仕事を始めたのが、今から1年半前のことです。結局今回も発行予定日より大幅に遅れてしまいました。OBの皆様、関係者の皆様に多大なご迷惑をおかけしてしまい、誠に申し訳ありません。

平成3年度のシーズンでは、人馬共に大きな事故がありました。人の方では1年生の部員が大怪我をし、馬の方ではドラールボーイが入厩してわずか2カ月で骨折、予後不良となりました。人が馬に慣れ、気がゆるんだことにより大きな事故になってしまったように思います。今後馬の扱い方を反省し、より一層注意して今後このような事故のないように心掛けて活動していきたいと思っております。

なお、経費節減のため全ページワープロ化しております。誤字・脱字には細心の注意を払ったつもりですが、校正しきれなかった箇所もあるかと思えます。ご了承下さい。

最後になりましたが、斎藤先生、岡田監督、宮崎さん、近藤さんを始めとする原稿や情報をお寄せくださった方々、また広告主の方々、そして編集に協力して下さった皆さんに心より厚く御礼申し上げます。

編集責任者 小滝貴子 城座順子 野間博子

音匠 幸辰 第37号

平成5年5月 発行

発行者 北海道大学馬術部

札幌市北区北17条西7丁目

北大体育会内

TEL(011)716-2111( 内線5597)

TEL(011)737-1626 (直通)

編集者 部報編集委員

印刷所 北大生協 北大印刷

表紙 野田葉子

